

沖縄県
差別のない社会づくりに関する
アンケート調査
調査結果報告書



令和7年3月
沖縄県こども未来部

はしがき

近年、国内に居住する特定の国の出身者であること又はその子孫であることのみを理由に地域社会から排除することを煽動する不当な差別的言動(いわゆるヘイトスピーチ)により、当事者が多大な苦痛を強いられる事態が頻発し、社会的関心が高まったことを受け、当該言動の解消に向けて、国では、本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(平成 28 年法律第 68 号)が成立し、平成 28(2016)年 6 月 3 日に施行されました。

沖縄県においても、特定の外国人に対するヘイトスピーチと思われる街宣活動が行われるなど、複雑多様化する現代社会にあって、インターネット上の誹謗中傷、性的少数者への偏見や差別といった、様々な人権問題が存在しています。このため、沖縄県では、令和 5(2023)年に、沖縄県差別のない社会づくり条例(令和 5 年沖縄県条例第 13 号)を制定し、不当な差別の解消に社会全体で連携協力し、全ての人権が尊重される不当な差別のない社会を目指し、各種施策に取り組んでいるところです。

このたび、沖縄県では、条例の基本理念にのっとり、不当な差別のない社会の形成に関する施策を総合的に推進するため、県内における不当な差別の実態や県民の意識を把握し、現行条例の施行状況や効果的な施策の検討をする上での基礎資料とするため、県民の皆様を対象にアンケート調査を実施いたしました。

調査結果からは、多くの県民の皆様が人権の問題に対して深い関心を寄せ、条例の必要性を認識していることが明らかになりました。また、具体的な条例の内容についても多くのご意見をいただき、非常に貴重な情報が集まりました。

この調査結果が、関係機関、団体等をはじめ、県民の皆様にも広く活用され、全ての人の人権が尊重される不当な差別のない社会の実現のための一助になれば幸いです。

最後に、本調査にご協力いただきました県民の皆様及び関係者の方々に心からお礼を申し上げますとともに、分析の御助言をいただきました琉球大学ヒューマンライツセンターに深く感謝を申し上げます。

令和 7 年 3 月

沖縄県子ども未来部長 真鳥 裕茂

- 目 次 -

I. 調査概要.....	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 調査分析委員	2
4 調査結果の見方	3
II. 調査結果.....	4
1 基本情報	4
2 人権全般に関すること	8
3 人権侵害の経験について	24
4 差別のない社会づくり条例に関すること	49
5 差別のない社会をつくるための取組みについて	70
6 あなたご自身の考えについて	78
III. 総括.....	126
IV. 関係団体等ヒアリング結果.....	128
特定の差別に関するヒアリング調査	128
V. 資料（調査票）	132

I. 調査概要

1 調査目的

本事業は、県内における不当な差別の実態や県民の意識などについて、調査分析を行い、沖縄県差別のない社会づくり条例見直し検討のための基礎データを得るとともに、本県の実情を踏まえた効果的な施策の検討に資することを目的とする。

2 調査設計

母集団	県内に居住する 18 歳以上の男女（外国人含む）
標本数	3,000s
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査方法	郵送調査（郵送発送、回答は郵送または WEB にて回収）
調査期間	令和 6（2024）年 10 月 8 日～11 月 24 日
有効回収数（率）	1,724s（57.5%）
調査受託機関	株式会社サーベイリサーチセンター

【調査の対象】

地域	自治体	地域	自治体	地域	自治体
北部	名護市	中部	宜野湾市	南部	那覇市
	国頭村		浦添市		糸満市
	大宜味村		沖縄市		豊見城市
	東村		うるま市		南城市
	今帰仁村		読谷村		与那原町
	本部町		嘉手納町		南風原町
	恩納村		北谷町		八重瀬町
	宜野座村		北中城村		渡嘉敷村
	金武町		中城村		座間味村
	伊平屋村		西原町		粟国村
	伊是名村				渡名喜村
	伊江村				南大東村
八重山	石垣市	宮古	宮古島市		北大東村
	竹富町		多良間村		久米島町
	与那国町				

（注1） 沖縄県の市町村を北部、中部、南部、宮古、八重山の 5 地域に分類し、原則、地域別に 3,000 標本を人口規模に応じて比例配分した。この場合、地域間の標本数の差が大きくなり、地域別の精度も異なってくるため、人口の少ない宮古地域、八重山地域については、他の地域に比べ、2 倍の標本数を割り当てるウェイト付きサンプリングのうえ、集計を行った。

I. 調査概要

(1) 母集団と比較した調査回答者属性の特徴

沖縄県内の満 18 歳以上の男女(外国人を含む)

		母集団の構成比 (注 2)	調査回答者の構成比
地域	北部	8.9%	9.2%
	中部	43.4%	40.4%
	南部	40.2%	43.3%
	宮古	3.8%	3.7%
	八重山	3.7%	3.3%
性別	男性	49.3%	42.2%
	女性	50.7%	56.5%
	その他・答えたくない	—	1.2%
年齢	18～19 歳	7.4%	5.9%
	20～29 歳	14.3%	11.9%
	30～39 歳	16.4%	15.6%
	40～49 歳	19.0%	19.6%
	50～59 歳	17.6%	18.4%
	60～69 歳	16.8%	19.3%
	70 歳以上	8.5%	9.0%

(注2) 令和 6(2024)年住民基本台帳人口(R6.1.1)における 18 歳以上人口の構成比

3 調査分析委員

本調査に関する調査設計及び分析委員については下記のとおり。

氏名	所属	役職
矢野 恵美	琉球大学 ヒューマンライツセンター	センター長
	琉球大学 法科大学院	教授
泊 真児	琉球大学 ヒューマンライツセンター	副センター長
	琉球大学 人文社会学部人間社会学科	教授
齋藤 実	琉球大学 法科大学院	教授

(敬称略)

4 調査結果の見方

- 回答結果の割合(%)は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第2位で四捨五入しているため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ)であっても合計100%にならない場合がある。
- 複数回答(2つ以上の選択肢を選択できる質問)の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合がある。
- 集計サンプル数が少ない属性項目については、1サンプルあたりの重みが大きく、比率が変動しやすいため、結果の利用には注意を要する。
- 比較する全国調査については、内閣府世論調査「人権擁護に関する世論調査」(令和4年8月調査)とする。

<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-jinken/2.html>

- 全国調査との比較において、選択肢の一部変更や沖縄県独自の選択肢追加があるため、単純比較ができない設問がある。

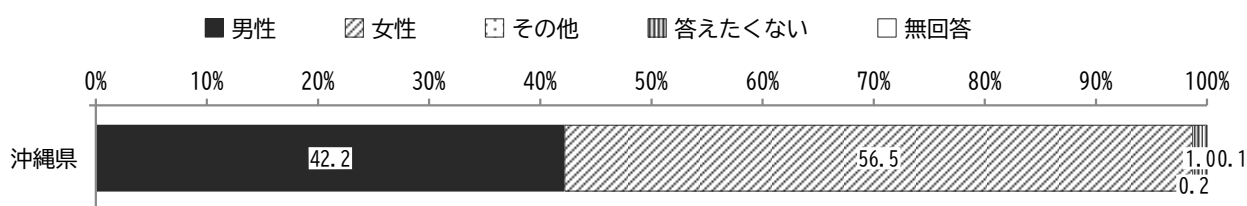
Ⅱ. 調査結果

1 基本情報

1 性別

あなたの性別（自認する性別）をお答えください。

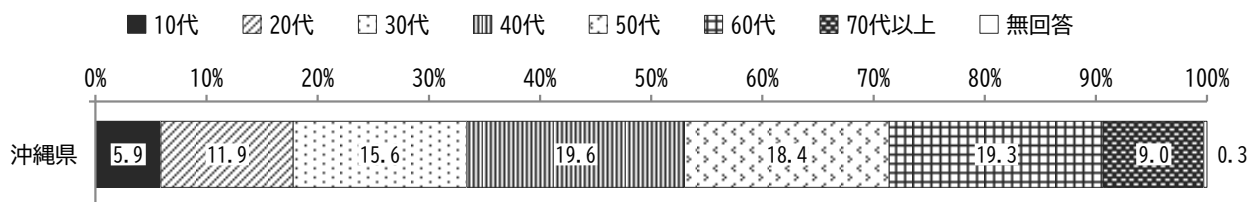
- 調査回答者の自認する性別について、「男性」「女性」「その他」「答えたくない」の4つの選択肢で尋ねたところ、半数以上の56.5%が「女性」と回答し、以下「男性」42.2%、「答えたくない」1.0%、「その他」0.2%、「無回答」0.1%であった。



2 年代

あなたの年代をお答えください。

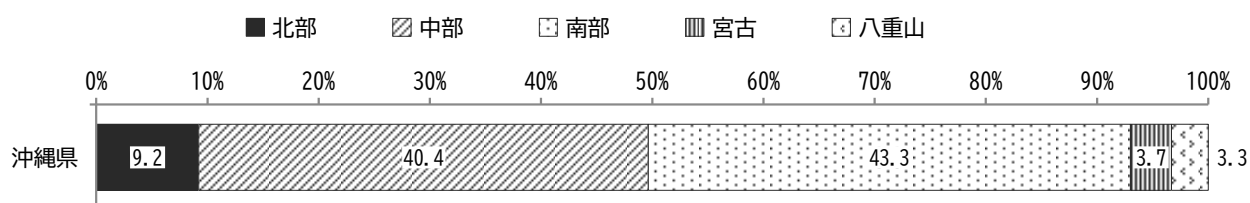
- 調査回答者の年代について、「40代」が19.6%と最も多く、以下「60代」19.3%、「50代」18.4%と続き、40代以上で全体のほぼ3分の2に当たる66.3%を占めていた。30代以下は33.4%であった。



3 居住地

あなたの現在の居住地をお答えください。(○は1つ)

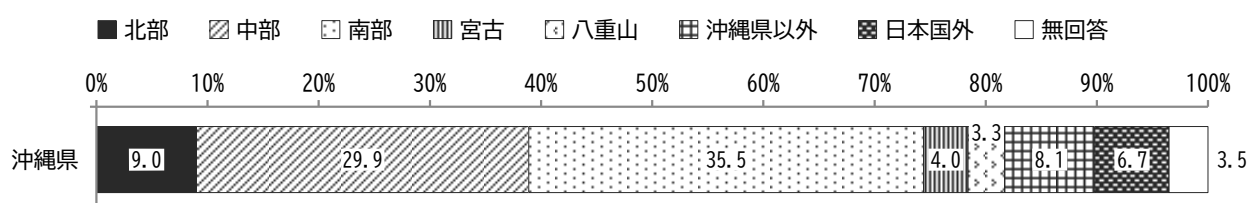
- 調査回答者の居住地について、「南部」が 43.3%と最も多く、以下「中部」40.4%、「北部」9.2%、「宮古」3.7%、「八重山」3.3%であった。



4 出身地

あなたの出身地をお答えください。(○は1つ)

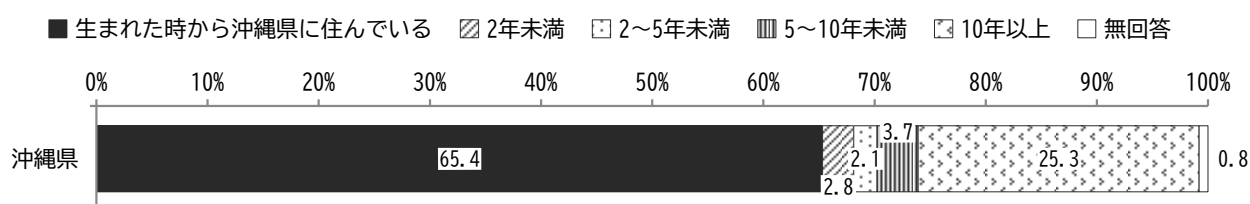
- 調査回答者の出身地について、「南部」が 35.5%と最も多く、以下「中部」29.9%、「北部」9.0%、「宮古」4.0%、「八重山」3.3%で、沖縄県内出身者が全体の 81.7%を占めていた。「沖縄県以外」は 8.1%、「日本国外」は 6.7%であった。



5 在住年数

あなたの沖縄県の在住年数をお答えください。(○は1つ)

- 調査回答者の在住年数について、「生まれた時から沖縄県に住んでいる」が 65.4%と最多で、以下「10年以上」が 25.3%、10年未満の者は合計で 8.6%であった。

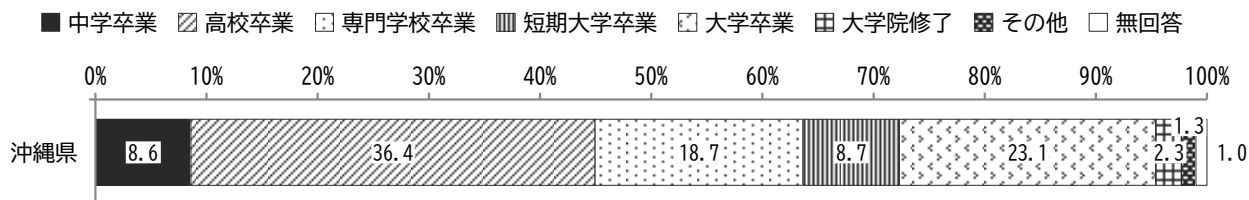


Ⅱ. 調査結果

6 最終学歴

あなたの最終学歴をお答えください。(○は1つ)

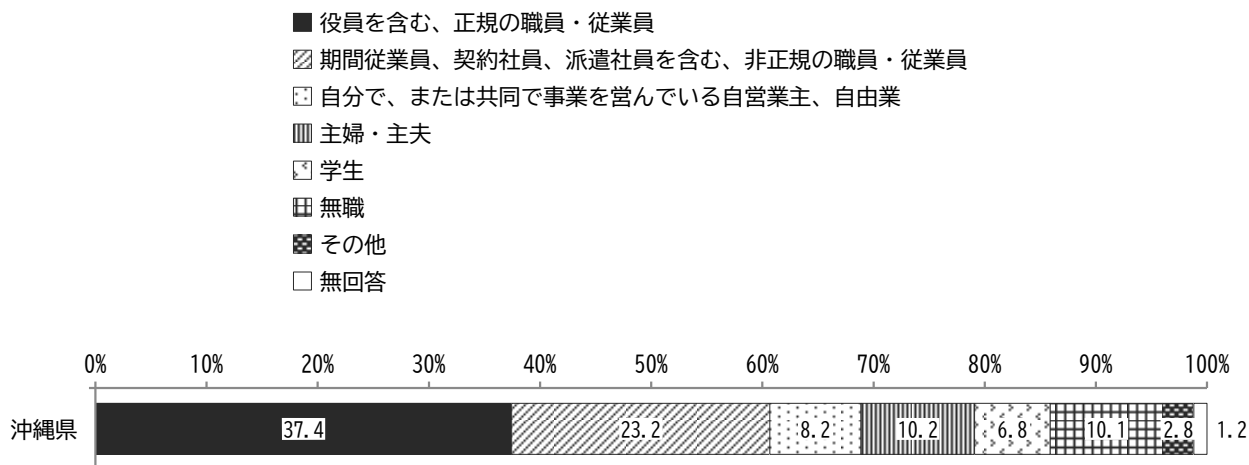
- 調査回答者の最終学歴について、「高校卒業」が 36.4%と最多で、以下「大学卒業」が 23.1%、「専門学校卒業」18.7%、「短期大学卒業」8.7%、「中学卒業」8.6%、「大学院修了」2.3%と続いていた。



7 職業

あなたの職業をお答えください。(○は1つ)

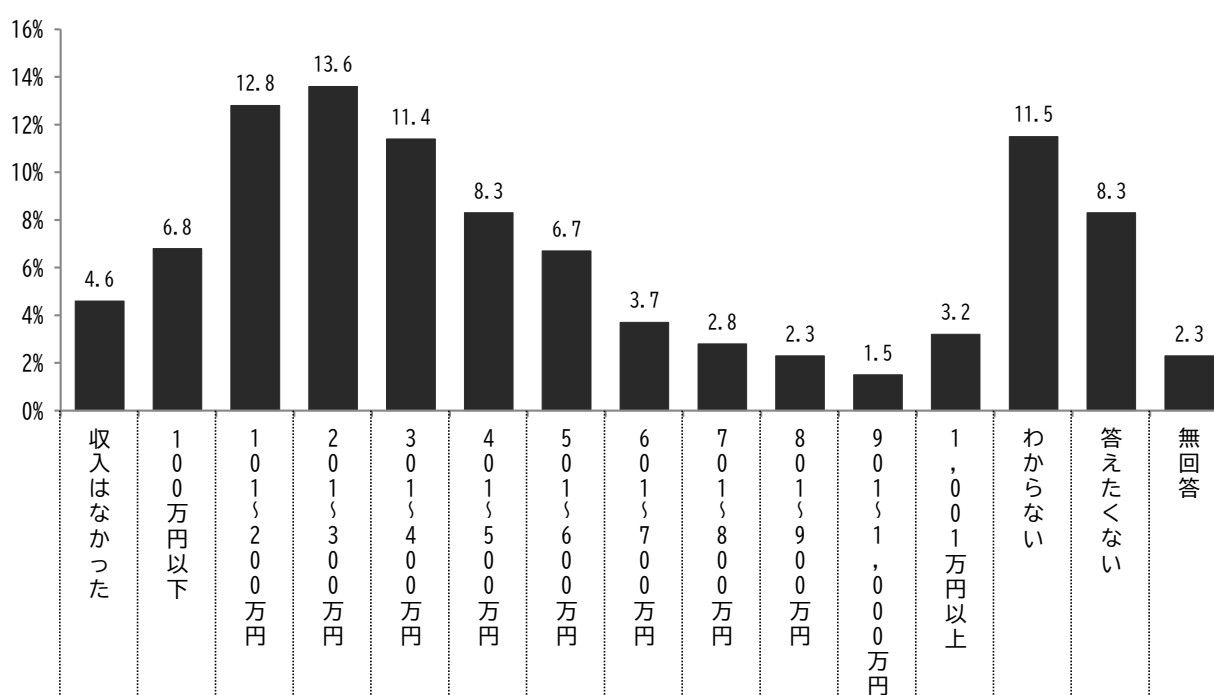
- 調査回答者の職業について、「役員を含む、正規の職員・従業員」が 37.4%と最も多く、以下「期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員」が 23.2%、「主婦・主夫」10.2%、「自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業」8.2%、「学生」6.8%と続いていた。「無職」は 10.1%であった。



8 世帯年収

さしつかえなければ、去年 1 年間の家計の経済状況（税込みの世帯年収）をお答えください。
（○は 1 つ）

- 調査回答者の去年 1 年間の家計の経済状況（税込みの世帯年収）について、「201～300 万円」が 13.6%と最多で、以下「101～200 万円」12.8%、「301～400 万円」11.4%、「100 万円以下」6.8%、「収入はなかった」4.6%で、年収 400 万円以下を示すこれら 5 区分で全体の約半数に当たる 49.2%を占めていた。年収 801 万円以上は 7.0%で、「わからない」11.5%、「答えたくない」8.3%、「無回答」2.3%であった。



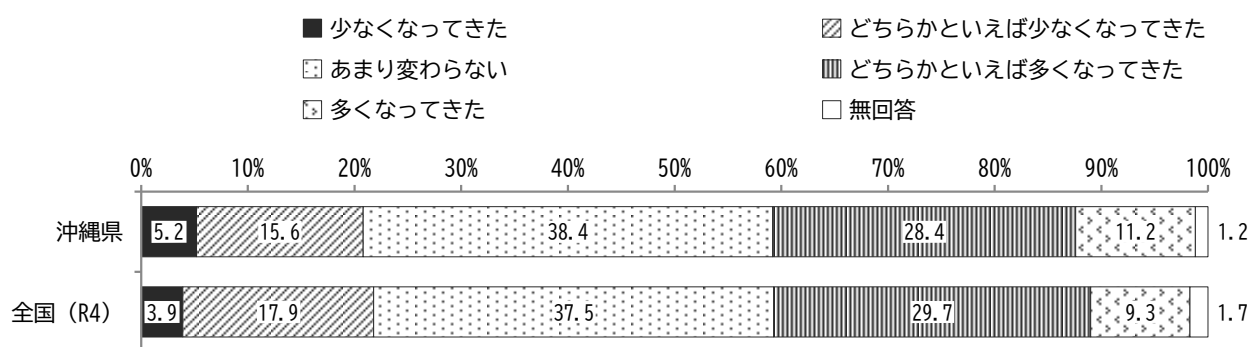
Ⅱ. 調査結果

2 人権全般に関すること

1 人権侵害の変化……………

Q1 新聞、テレビ、インターネットなどで「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、ここ 5～6 年の間に、人権が侵害されるようなことについて、どのように変わってきたと思いますか。(〇は1つ)

- ここ 5～6 年の間の人権が侵害されるようなことについての变化について、「あまり変わらない」が 38.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば多くなってきた」が 28.4%、「どちらかといえば少なくなってきた」が 15.6%となっている。
- 全国調査と比較すると、同様の傾向になっているが、「少なくなってきた」が 1.3 ポイント高い。



≪傾向と分析≫

- 年代別で見ると、「どちらかといえば少なくなってきた」については、10代が 27.4%で最も高く、70代以上が 7.6%と最も低い。「どちらかといえば多くなってきた」については、10代が 18.4%と最も低く、70代以上が 38.2%と最も高い。
- 出身地別で見ると、「少なくなってきた」については、沖縄県内 4.8%、沖縄県外 3.8%、日本国外 12.0%となっている。「どちらかといえば少なくなってきた」については、沖縄県内 15.9%、沖縄県外 13.8%、日本国外 19.9%となっている。「どちらかといえば多くなってきた」については、沖縄県内 29.7%、沖縄県外 31.9%、日本国外 5.6%となっている。「多くなってきた」については、沖縄県内 12.1%、沖縄県外 8.1%、日本国外 4.6%となっている。

II. 調査結果

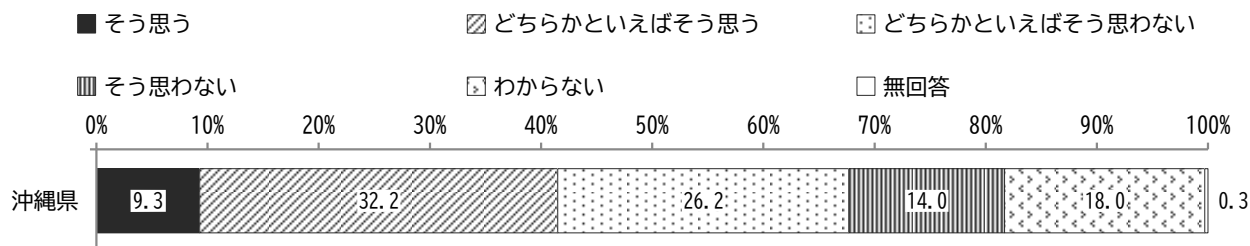
		少なくなってきた	どちらかといえば少なくなってきた	あまり変わらない	どちらかといえば多くなってきた	多くなってきた	無回答
沖縄県		5.2	15.6	38.4	28.4	11.2	1.2
全国（R4）		3.9	17.9	37.5	29.7	9.3	1.7
性別	男性	5.3	14.9	38.2	27.9	12.3	1.4
	女性	5.1	16.1	38.5	28.8	10.5	1.0
年代	10代	10.5	27.4	35.8	18.4	5.8	2.1
	20代	5.8	22.6	42.9	20.3	7.9	0.5
	30代	6.2	15.2	43.7	24.6	9.8	0.4
	40代	5.6	15.2	40.5	27.4	10.5	0.8
	50代	3.4	14.4	38.4	29.0	12.9	1.9
	60代	4.4	13.7	31.3	35.5	14.2	0.8
	70代以上	4.2	7.6	33.7	38.2	13.2	3.1
性年代（男性）	10代	9.3	20.9	45.3	15.1	7.0	2.3
	20代	2.6	25.2	41.3	18.7	11.0	1.3
	30代	11.0	14.9	47.0	19.3	7.7	-
	40代	6.6	14.7	39.9	23.8	13.2	1.8
	50代	1.5	11.9	35.6	36.4	13.8	0.8
	60代	4.1	13.1	32.8	34.7	13.8	1.5
	70代以上	4.8	8.9	30.6	36.3	16.1	3.2
性年代（女性）	10代	10.1	31.3	29.3	22.2	5.1	2.0
	20代	8.1	20.4	43.9	21.7	5.9	-
	30代	3.5	15.6	41.7	27.4	11.1	0.6
	40代	5.0	16.2	40.7	29.2	8.8	-
	50代	5.0	16.3	40.3	23.1	12.5	2.8
	60代	4.6	14.3	30.4	36.4	14.0	0.3
	70代以上	3.1	6.2	36.4	40.1	11.1	3.1
居住地域	北部	6.1	16.9	41.2	21.6	14.2	-
	中部	5.7	13.4	37.6	30.0	12.1	1.2
	南部	4.6	17.3	38.6	28.2	9.9	1.3
	宮古	3.4	16.1	38.1	28.8	11.9	1.7
	八重山	6.6	17.0	36.8	30.2	7.5	1.9
出身地	沖縄県内	4.8	15.9	36.5	29.7	12.1	1.0
	沖縄県外	3.8	13.8	41.9	31.9	8.1	0.4
	日本国外	12.0	19.9	54.2	5.6	4.6	3.7

Ⅱ. 調査結果

2 人権が尊重されている社会だと思うか

Q2 今日の沖縄県は、人権が尊重されている社会だと思いますか。(○は1つ)

- 今日の沖縄県は、人権が尊重されている社会だと思うかについて、「どちらかといえばそう思う」が32.2%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が26.2%、「わからない」が18.0%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合は41.5%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合は40.2%で拮抗しており、沖縄県は人権が尊重されている社会と見ている人と尊重されていないと捉えている人に二極化していると言える。
- 性別で見ると、「そう思う」については、男性13.2%、女性6.6%となっている。「そう思わない」については、男性13.2%、女性14.1%となっている。
- 年代別で見ると、「そう思う」については、10代が14.7%で最も高く、20代が13.4%でそれに続く。40代は6.4%で最も低い。「そう思わない」については、10代が3.7%で最も低く、20代が8.4%でそれに続く。70代以上は18.8%で最も高い。
- 出身地別で見ると、「そう思う」については、沖縄県内7.6%、沖縄県外6.9%、日本国外29.2%となっている。「そう思わない」については、沖縄県内14.9%、沖縄県外13.1%、日本国外5.1%となっている。出身地と比較すると、沖縄県は、日本国外出身者から人権が尊重されている社会と捉えられていると思われる。

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	わからない	無回答
沖縄県		9.3	32.2	26.2	14.0	18.0	0.3
性別	男性	13.2	32.9	25.3	13.2	15.0	0.4
	女性	6.6	31.7	27.2	14.1	20.2	0.2
年代	10代	14.7	42.1	16.8	3.7	21.6	1.1
	20代	13.4	41.8	16.6	8.4	19.7	-
	30代	9.8	34.7	20.8	13.4	20.8	0.4
	40代	6.4	28.5	27.9	17.4	19.5	0.3
	50代	9.5	33.8	28.9	11.4	16.5	-
	60代	7.6	27.0	33.8	17.9	13.4	0.3
	70代以上	9.7	25.0	30.2	18.8	15.6	0.7
性年代 (男性)	10代	14.0	37.2	18.6	4.7	25.6	-
	20代	20.6	43.2	15.5	7.7	12.9	-
	30代	18.8	39.2	13.8	11.6	15.5	1.1
	40代	8.4	30.4	24.5	17.9	17.9	0.7
	50代	13.0	29.1	32.6	12.6	12.6	-
	60代	10.8	28.4	34.3	14.9	10.8	0.7
	70代以上	11.3	31.5	26.6	15.3	15.3	-
性年代 (女性)	10代	16.2	44.4	16.2	2.0	19.2	2.0
	20代	8.6	41.6	16.7	9.0	24.0	-
	30代	4.8	32.5	24.5	14.0	24.2	-
	40代	5.0	27.1	31.9	15.3	20.6	-
	50代	6.9	37.2	26.6	10.0	19.4	-
	60代	5.2	26.1	33.0	20.3	15.5	-
	70代以上	8.0	19.8	33.3	21.6	16.0	1.2
居住地域	北部	6.8	33.8	23.6	17.6	18.2	-
	中部	10.0	33.2	27.2	12.7	16.5	0.3
	南部	9.2	30.7	26.1	14.8	18.7	0.4
	宮古	11.0	33.1	23.7	10.2	22.0	-
	八重山	7.5	34.0	26.4	12.3	19.8	-
出身地	沖縄県内	7.6	32.7	27.0	14.9	17.5	0.3
	沖縄県外	6.9	31.2	27.3	13.1	21.5	-
	日本国外	29.2	33.3	12.5	5.1	19.0	0.9

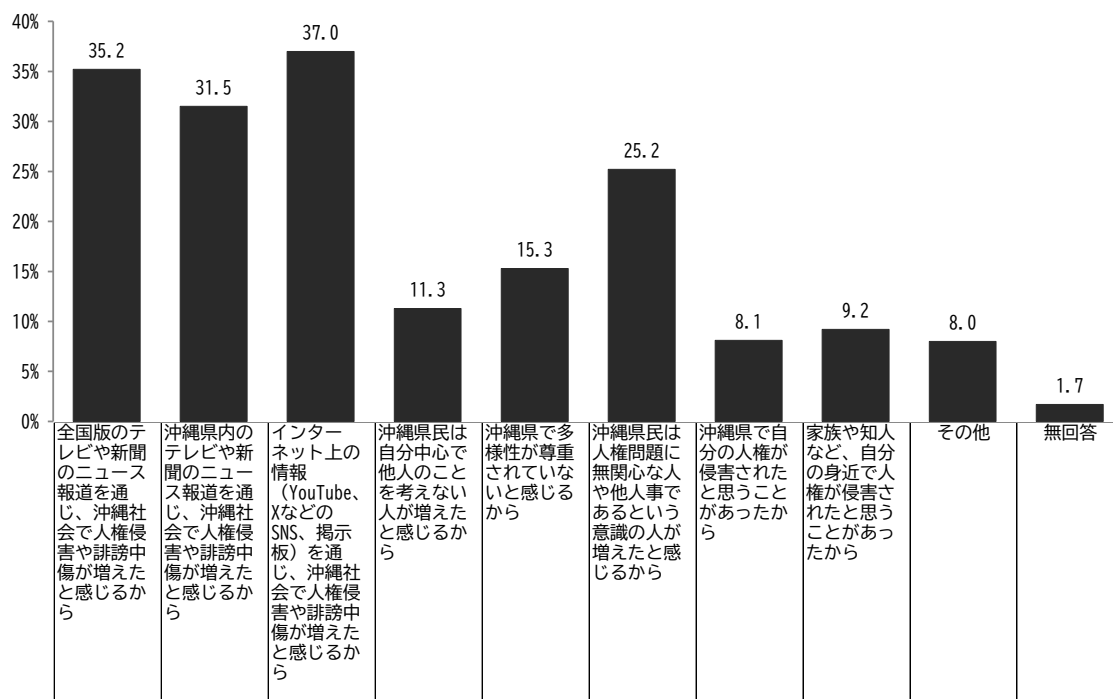
Ⅱ. 調査結果

3 人権が尊重されていないと思う理由 ……………

Q2-1 Q2で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」を選択した方へ

今日の沖縄県において、人権が尊重されている社会だと思わない理由について教えてください。（〇はいくつでも）

- 今日の沖縄県において、人権が尊重されている社会だと思わない理由について、「インターネット上の情報（YouTube、XなどのSNS、掲示板）を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」が37.0%で最も多く、次いで「全国版のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」が35.2%、「沖縄県内のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」が31.5%となっている。



≪傾向と分析≫

- 年代別で見ると、「沖縄県内のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」については、10代が10.3%で最も低く、70代以上が48.9%で最も高い。「インターネット上の情報を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」については、10代が48.7%で最も高く、70代以上が27.0%で最も低い。一方、20代については、「沖縄県内のテレビや新聞のニュース報道を通じ…」については32.6%、「インターネット上の情報を通じ…」については44.2%であった。年代によるばらつきはあるものの、多く接触する媒体に違いがあるのかもしれない。
- 「その他」としては、「米軍基地の集中に伴う事故や事件のリスクが放置されており、改善・解決されていないから」「子どもの貧困や虐待等の報道が増えていると感じるから」等の回答があった。

Ⅱ. 調査結果

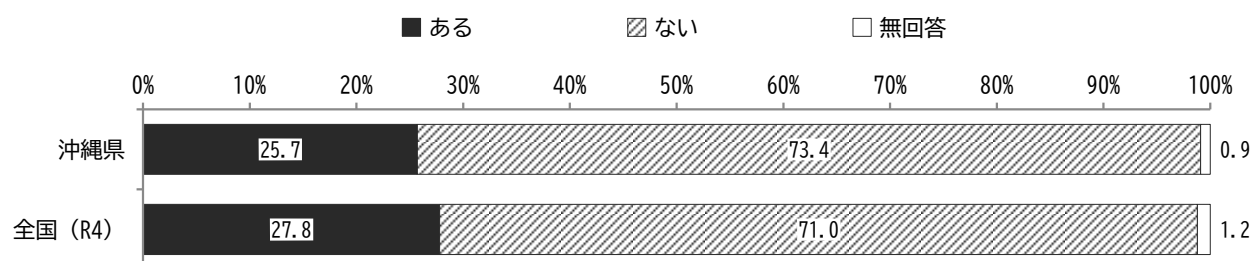
		全国版のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから	沖縄県内のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから	インターネット上の情報（YouTube、XなどのSNS、掲示板）を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから	沖縄県民は自分中心で他人のことを考えない人が増えたと感じるから	沖縄県で多様性が尊重されていないと感じるから	沖縄県民は人権問題に無関心な人や他人事であるという意識の人が増えたと感じるから	沖縄県で自分の人権が侵害されたと思うことがあったから	家族や知人など、自分の身近で人権が侵害されたと思うことがあったから	その他	無回答
沖縄県		35.2	31.5	37.0	11.3	15.3	25.2	8.1	9.2	8.0	1.7
性別	男性	32.1	31.5	35.6	13.1	16.0	26.0	7.5	8.3	7.1	2.1
	女性	38.0	32.1	38.2	9.5	14.7	24.6	8.4	9.8	8.0	1.2
年代	10代	15.4	10.3	48.7	25.6	20.5	17.9	15.4	10.3	10.3	5.1
	20代	31.6	32.6	44.2	4.2	13.7	25.3	3.2	7.4	12.6	-
	30代	26.9	24.0	36.8	12.3	15.2	25.1	11.1	8.8	6.4	1.8
	40代	28.9	25.4	42.3	12.0	19.0	23.2	7.4	10.6	7.7	2.8
	50代	38.8	28.7	40.1	14.3	16.5	22.4	7.6	9.3	7.6	1.7
	60代	46.9	37.8	30.9	8.8	12.2	29.1	8.4	8.4	6.9	0.6
	70代以上	33.3	48.9	27.0	9.9	12.8	27.0	7.1	9.2	9.9	2.1
性年代 (男性)	10代	10.0	10.0	50.0	20.0	30.0	10.0	20.0	10.0	-	10.0
	20代	27.8	22.2	41.7	5.6	19.4	33.3	-	13.9	16.7	-
	30代	30.4	43.5	41.3	6.5	21.7	8.7	-	6.5	6.5	4.3
	40代	23.3	26.7	36.2	12.1	18.1	25.9	6.0	12.1	8.6	1.7
	50代	39.8	26.3	41.5	16.9	14.4	23.7	5.1	7.6	5.1	1.7
	60代	38.6	33.3	24.2	12.1	9.8	31.1	12.1	2.3	4.5	1.5
	70代以上	30.8	53.8	34.6	17.3	17.3	34.6	11.5	13.5	11.5	1.9
性年代 (女性)	10代	22.2	11.1	44.4	33.3	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	-
	20代	35.1	40.4	47.4	-	10.5	21.1	5.3	3.5	10.5	-
	30代	26.4	17.4	36.4	13.2	13.2	30.6	15.7	9.9	5.0	0.8
	40代	34.4	25.6	46.3	12.5	19.4	22.5	8.8	8.8	6.3	2.5
	50代	38.5	29.9	39.3	12.0	18.8	21.4	8.5	11.1	10.3	1.7
	60代	52.2	41.4	36.0	5.4	12.9	26.9	5.9	12.9	7.5	-
	70代以上	34.8	46.1	22.5	5.6	10.1	22.5	4.5	6.7	9.0	2.2
居住地域	北部	36.1	34.4	39.3	8.2	11.5	24.6	6.6	9.8	11.5	-
	中部	37.6	29.5	34.9	10.9	14.3	25.6	8.9	10.1	6.6	1.9
	南部	33.5	31.7	39.1	12.3	15.8	23.6	7.0	8.1	9.2	1.8
	宮古	30.0	37.5	40.0	12.5	17.5	35.0	10.0	5.0	5.0	5.0
	八重山	31.7	41.5	24.4	9.8	29.3	34.1	14.6	14.6	2.4	-
出身地	沖縄県内	35.7	32.6	37.1	10.2	14.2	25.0	6.8	8.4	7.8	1.5
	沖縄県外	24.8	21.0	38.1	19.0	22.9	26.7	15.2	17.1	11.4	1.9
	日本国外	34.2	26.3	13.2	10.5	36.8	23.7	31.6	5.3	5.3	5.3

Ⅱ. 調査結果

4 人権侵害の有無

Q3 あなたは、人権を侵害されたと思ったことはありますか。(○は1つ)

- 人権を侵害されたと思ったことについて、「ない」が73.4%、「ある」が25.7%となっている。
- 全国調査と比較すると、「ない」が2.4ポイント高くなっている。



≪傾向と分析≫

- 性別で見ると、「ある」と答えた男性は22.3%、女性は27.6%となっている。
- 性年代別で見ると、「ある」と答えたのは男性40代が29.7%と最も高く、女性40代が35.7%と最も高い。

		ある	ない	無回答
沖縄県		25.7	73.4	0.9
全国（R4）		27.8	71.0	1.2
性別	男性	22.3	76.7	1.0
	女性	27.6	71.5	0.9
年代	10代	22.6	76.3	1.1
	20代	23.7	76.3	-
	30代	27.1	72.1	0.8
	40代	33.8	65.6	0.6
	50代	25.3	73.7	1.0
	60代	21.6	76.7	1.6
	70代以上	20.1	78.8	1.0
性年代 （男性）	10代	19.8	80.2	-
	20代	21.9	78.1	-
	30代	18.8	81.2	-
	40代	29.7	69.6	0.7
	50代	21.5	76.2	2.3
	60代	21.3	76.9	1.9
	70代以上	17.7	82.3	-
性年代 （女性）	10代	25.3	72.7	2.0
	20代	24.4	75.6	-
	30代	30.9	67.8	1.3
	40代	35.7	63.7	0.6
	50代	27.8	72.2	-
	60代	22.1	76.5	1.4
	70代以上	22.2	75.9	1.9
居住地域	北部	30.4	69.6	-
	中部	25.3	73.1	1.5
	南部	25.1	74.5	0.4
	宮古	27.1	72.0	0.8
	八重山	23.6	74.5	1.9
出身地	沖縄県内	24.3	74.8	0.9
	沖縄県外	36.2	63.1	0.8
	日本国外	31.0	68.1	0.9

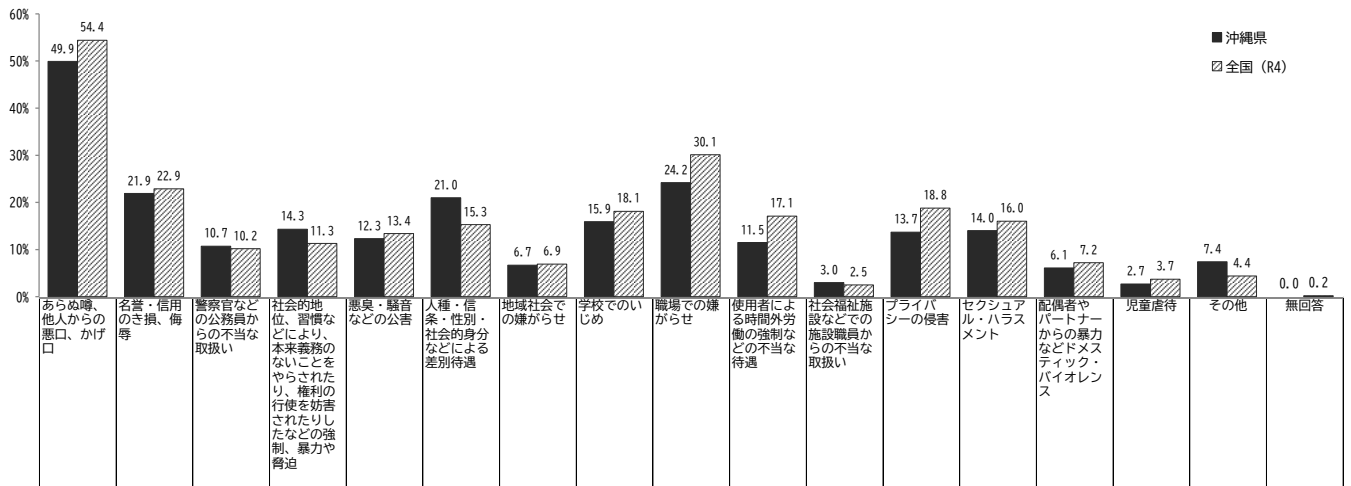
II. 調査結果

5 人権侵害された場面

Q3_1 Q3で「1.ある」を選択した方へ

あなたが、人権を侵害されたと思ったのは、どのような場合ですか。(〇はいくつでも)

- 人権を侵害されたと思った内容について、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が 49.9%で最も多く、次いで「職場での嫌がらせ」が 24.2%、「名誉・信用のき損、侮辱」が 21.9%となっている。
- 全国調査と比較すると、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が 4.5 ポイント低く、「人種・信条・性別・社会的身分などによる差別待遇」が 5.7 ポイント高くなっている。



≪傾向と分析≫

- 性別の違いが顕著なものとして、「セクシュアル・ハラスメント」は男性 2.7%であるのに対し、女性は 20.6%であった。男性では 50 代の 7.1%が最も高く、女性は 10 代 32.0%、30 代 28.9%、20 代 27.8%と続く。「配偶者やパートナーからの暴力などドメスティック・バイオレンス」については男性 2.0%であるのに対し女性 8.8%であった。男性で最も高いのは 50 代 7.1%、女性では 70 代以上 22.2%で、30 代 13.4%が続く。他方で、「名誉・信用のき損、侮辱」については男性 30.6%であるのに対し女性 17.6%であり、男性では 60 代の 47.4%が最も高く、10 代の 41.2%が続く。
- 令和 5(2023)年の厚労省の調査¹では、過去 3 年間にセクハラを 1 度以上経験した割合を性別で見ると、男性 3.9%、女性 8.9%であった。令和 3(2021)年の日本労働組合総連合会の調査によると²、「職場で受けたことのあるハラスメント」についてセクハラは 8.5%で、最多は女性 30 代の 16.8%であった。
- 令和 5(2023)年内閣府の調査によると³、配偶者からの被害経験ありは 25.1%、性別で見ると、女性が 27.5%、男性が 22.0%であった。交際相手については、当時の交際相手から被害を受

¹ 令和 5 年度 厚生労働省委託事業 職場のハラスメントに関する実態調査報告書（令和 6 年 3 月 PwC コンサルティング合同会社）108 頁（最終閲覧 2025 年 3 月 13 日）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11910000/001256082.pdf>（最終閲覧 2025 年 3 月 13 日）

² 仕事の世界におけるハラスメントに関する実態調査 2021（日本労働組合総連合会）9 頁

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20210625.pdf?4147>（最終閲覧 2025 年 3 月 13 日）

³ 男女間における暴力に関する調査（令和 5 年度調査）27、28、46 頁

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/chousa/r05_boryoku_cyousa.html（最終閲覧 2025 年 3 月 11 日）

けたことがあると回答したのは、18.0%で、女性が 22.7%、男性が 12.0%であった。DV に特化した調査では被害にあった率も、男性の経験もかなり高い。

- 年代別で見ると、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」は10代が72.1%と突出して高い(男性10代 82.4%、女性10代 68.0%)。学校での問題と結びついている可能性が高い。「学校でのいじめ」は10代が39.5%(男性10代 47.1%、女性10代 36.0%)と突出して高い。
- 居住地域別で見ると、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が北部 66.7%、「地域社会での嫌がらせ」が北部 22.2%と高い。他方で北部は「学校でのいじめ」は 8.9%と低い。
- 出身地別で見ると、沖縄県外については、「地域社会での嫌がらせ」11.7%、「職場での嫌がらせ」36.2%、「使用者による時間外労働の強制などの不当な待遇」25.5%と高い。また、日本国外については「警察官などの公務員からの不当な取扱い」20.9%、「人種・心情・性別・社会的身分などによる差別待遇」53.7%と高い。「警察官などの公務員からの不当な取扱い」については、東京弁護士会が行った「2021 年度外国にルーツをもつ人に対する職務質問(レイシャルプロファイリング)に関するアンケート調査」の調査結果とも一致する。回答した外国人のうち、過去約5年以内に職務質問を受けたことがある人は 62.9%、そのうち 72.7%の人が複数回にわたり職務質問を受けている⁴。
- 「その他」としては、「その地域外の出身(沖縄県以外の出身、村外の出身など)であることに対する差別」「カスタマーハラスメント」等の回答があった。

⁴ 2021 年度 外国にルーツをもつ人に対する職務質問(レイシャルプロファイリング)に関するアンケート調査最終報告書(2022年9月東京弁護士会外国人の権利に関する委員会)6頁
https://www.toben.or.jp/known/iinkai/foreigner/26a6af6c6f033511cccf887e39fb794e_2.pdf (最終閲覧 3月11日)

Ⅱ. 調査結果

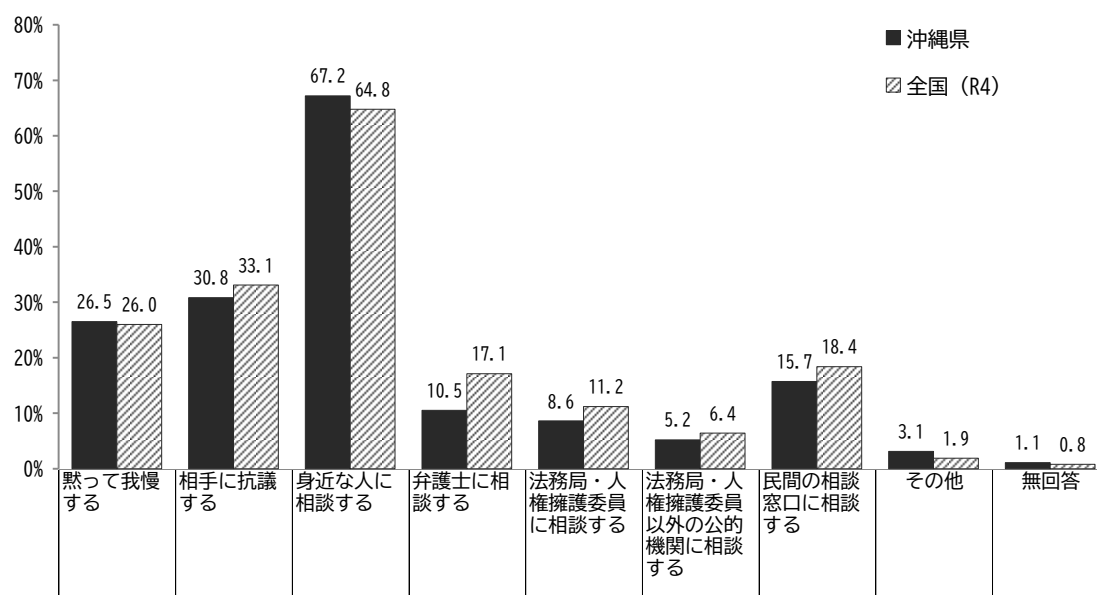
		あらぬ噂、 他人からの 悪口、かげ 口	名誉・信用 のき損、侮 辱	警察官など の公務員か らの不当な 取扱い	社会的地位、習慣な どにより、 本来義務の ないことを やらされたり、 権利の行使を妨害 されたりした などの強制、暴力や 脅迫	悪臭・騒音 などの公害	人種・信 条・性別・ 社会的身分 などによる 差別待遇	地域社会で の嫌がらせ	学校でのい じめ	職場での嫌 がらせ	使用者によ る時間外労働の強制な どの不当な 待遇
沖縄県		49.9	21.9	10.7	14.3	12.3	21.0	6.7	15.9	24.2	11.5
全国（R4）		54.4	22.9	10.2	11.3	13.4	15.3	6.9	18.1	30.1	17.1
性別	男性	47.5	30.6	12.6	15.3	8.6	21.3	5.3	18.6	22.6	13.0
	女性	51.5	17.6	9.6	14.0	13.8	21.2	7.4	14.6	25.7	10.8
年代	10代	72.1	23.3	2.3	2.3	2.3	20.9	4.7	39.5	2.3	-
	20代	51.1	14.4	11.1	8.9	15.6	18.9	4.4	22.2	21.1	6.7
	30代	43.0	18.5	10.4	11.1	11.1	23.7	4.4	22.2	28.1	14.8
	40代	48.6	20.8	9.4	19.8	8.0	23.1	6.1	17.9	23.1	18.9
	50代	55.7	20.8	10.7	21.5	14.1	20.1	8.7	9.4	32.2	11.4
	60代	47.0	33.6	15.7	10.4	15.7	15.7	8.2	3.0	24.6	7.5
	70代以上	43.1	20.7	10.3	10.3	20.7	25.9	10.3	13.8	19.0	3.4
性年代 （男性）	10代	82.4	41.2	5.9	5.9	5.9	35.3	-	47.1	5.9	-
	20代	50.0	14.7	11.8	5.9	17.6	14.7	-	41.2	8.8	5.9
	30代	32.4	20.6	11.8	14.7	-	32.4	-	11.8	26.5	14.7
	40代	40.7	27.2	7.4	25.9	4.9	23.5	2.5	22.2	27.2	23.5
	50代	57.1	28.6	21.4	21.4	12.5	25.0	7.1	7.1	26.8	19.6
	60代	45.6	47.4	15.8	5.3	10.5	7.0	10.5	3.5	28.1	3.5
	70代以上	45.5	36.4	9.1	9.1	9.1	22.7	18.2	27.3	9.1	-
性年代 （女性）	10代	68.0	12.0	-	-	-	8.0	8.0	36.0	-	-
	20代	53.7	14.8	11.1	11.1	11.1	22.2	7.4	11.1	29.6	7.4
	30代	48.5	18.6	10.3	10.3	13.4	19.6	6.2	26.8	29.9	13.4
	40代	51.2	18.2	9.9	15.7	9.1	24.8	9.1	14.9	20.7	17.4
	50代	55.1	16.9	4.5	22.5	15.7	18.0	7.9	11.2	37.1	6.7
	60代	48.1	23.4	15.6	14.3	19.5	22.1	6.5	2.6	22.1	10.4
	70代以上	41.7	11.1	11.1	11.1	27.8	27.8	5.6	5.6	25.0	5.6
居住地域	北部	66.7	15.6	11.1	8.9	13.3	13.3	22.2	8.9	22.2	13.3
	中部	47.6	22.0	11.0	16.5	15.9	22.6	5.5	18.9	26.2	9.1
	南部	47.7	23.6	10.3	13.8	9.2	20.7	4.0	15.5	21.8	13.8
	宮古	56.3	18.8	3.1	12.5	6.3	21.9	6.3	18.8	25.0	-
	八重山	44.0	24.0	20.0	16.0	12.0	32.0	4.0	4.0	36.0	20.0
出身地	沖縄県内	50.2	22.7	9.4	15.3	12.0	17.8	6.0	17.3	22.7	10.4
	沖縄県外	56.4	21.3	12.8	10.6	18.1	23.4	11.7	16.0	36.2	25.5
	日本国外	35.8	14.9	20.9	10.4	6.0	53.7	9.0	9.0	16.4	7.5

		社会福祉施設などの 施設職員からの不当な 取扱い	プライバシーの侵害	セクシュアル・ハラス メント	配偶者や パートナー からの暴力 などドメス ティック・ バイオレン ス	児童虐待	その他	無回答
沖縄県		3.0	13.7	14.0	6.1	2.7	7.4	-
全国（R4）		2.5	18.8	16.0	7.2	3.7	4.4	0.2
性別	男性	3.0	10.0	2.7	2.0	1.0	4.0	-
	女性	3.2	15.8	20.6	8.8	3.8	9.0	-
年代	10代	-	11.6	18.6	-	-	9.3	-
	20代	2.2	14.4	16.7	2.2	2.2	1.1	-
	30代	1.5	10.4	20.7	9.6	3.0	13.3	-
	40代	4.2	12.3	13.7	6.6	2.4	13.2	-
	50代	4.0	16.8	14.1	6.7	4.7	4.0	-
	60代	3.0	14.9	10.4	2.2	3.0	1.5	-
	70代以上	3.4	17.2	-	13.8	-	3.4	-
性年代 （男性）	10代	-	11.8	-	-	-	11.8	-
	20代	-	8.8	-	-	5.9	-	-
	30代	-	-	-	-	-	-	-
	40代	3.7	8.6	2.5	2.5	-	7.4	-
	50代	7.1	16.1	7.1	7.1	1.8	3.6	-
	60代	-	12.3	3.5	-	-	-	-
	70代以上	9.1	9.1	-	-	-	9.1	-
性年代 （女性）	10代	-	12.0	32.0	-	-	8.0	-
	20代	3.7	18.5	27.8	3.7	-	1.9	-
	30代	2.1	12.4	28.9	13.4	4.1	18.6	-
	40代	5.0	14.0	20.7	9.9	4.1	14.9	-
	50代	2.2	18.0	16.9	6.7	6.7	4.5	-
	60代	5.2	16.9	15.6	3.9	5.2	2.6	-
	70代以上	-	22.2	-	22.2	-	-	-
居住地域	北部	4.4	13.3	11.1	4.4	-	6.7	-
	中部	3.0	14.0	12.2	5.5	1.8	8.5	-
	南部	2.9	13.8	17.2	6.9	4.0	6.3	-
	宮古	-	12.5	9.4	6.3	-	12.5	-
	八重山	4.0	12.0	8.0	8.0	8.0	4.0	-
出身地	沖縄県内	3.5	14.3	14.5	5.7	3.1	8.5	-
	沖縄県外	-	10.6	13.8	11.7	2.1	6.4	-
	日本国外	4.5	11.9	14.9	1.5	-	1.5	-

6 人権侵害された場合の対応

Q4 もしあなたが、人権を侵害された場合にどのように対応したいと思いますか。(○はいくつでも)

- 人権を侵害された場合の対応について、「身近な人に相談する」が 67.2%で最も多く、次いで「相手に抗議する」が30.8%、「黙って我慢する」が26.5%となっている。
- 全国調査と比較すると、「身近な人に相談する」が 2.4 ポイント高くなっている。



≪傾向と分析≫

- 性別で見ると、「相手に抗議する」男性 40.8%、女性 23.5%であるのに対し、「身近な人に相談する」男性 54.4%、女性 77.3%となっている。なお、「相手に抗議する」については、男性 20 代が 30.3%、女性 20 代が 11.8%と最も低い。
- 居住地域別で見ると、大きな違いはないものの、「法務局・人権擁護委員に相談する」が宮古 12.7%、八重山で 14.2%であった。
- 「その他」として、「気にしないようにする」「対応方法がわからない」等の回答があった。
- 出身地で見ると、日本国内出身者(沖縄県内・沖縄県外出身者)は、「身近な人に相談する」が約 68%であるのに対し、日本国外出身者は 48%程度に留まっていた。むしろ、「相手に抗議する」(約 39%)や「法務局・人権擁護委員に相談する」の割合が日本国内出身者よりも 10 ポイント程度高いことが特徴的であった。

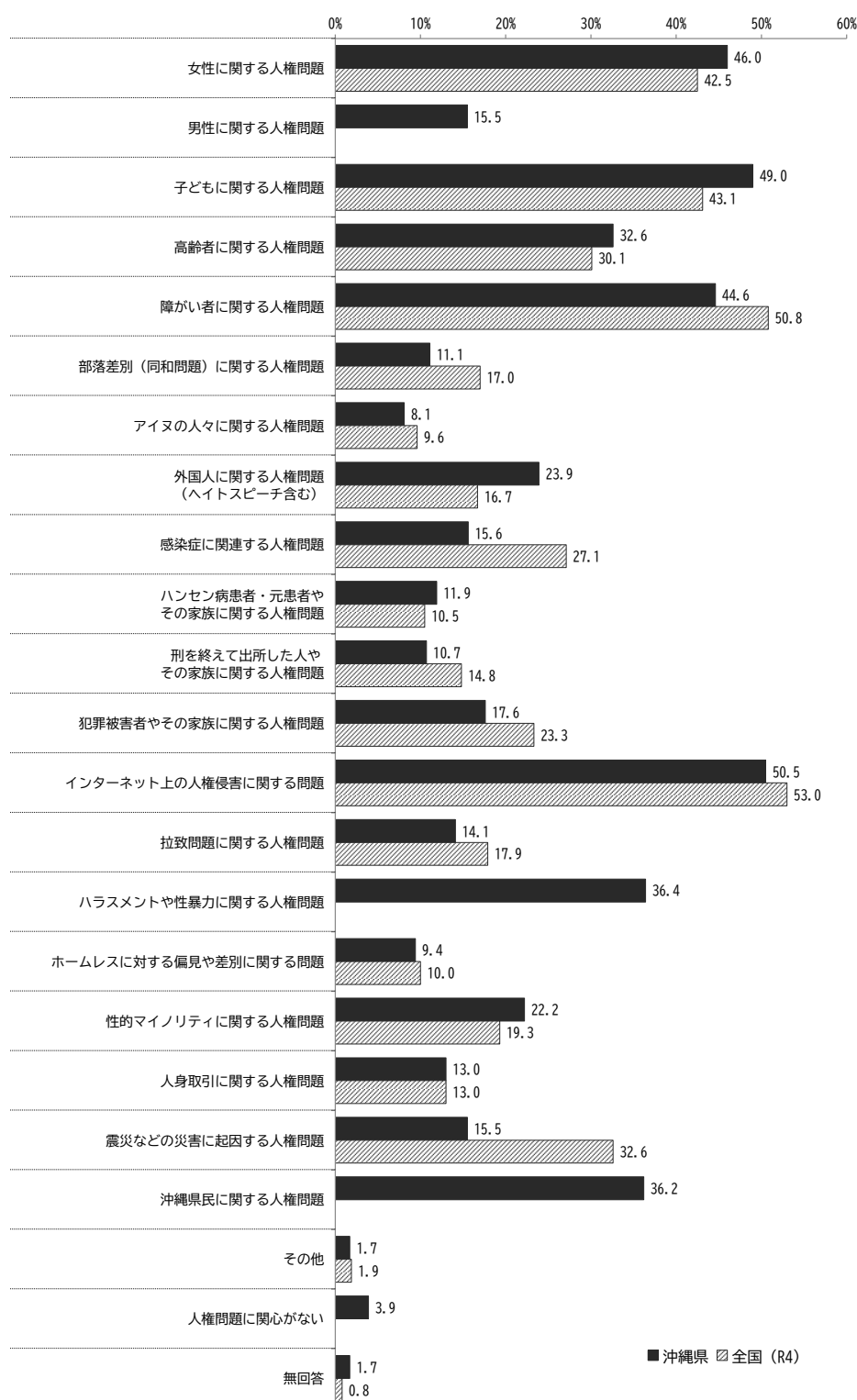
Ⅱ. 調査結果

		黙って我慢 する	相手に抗議 する	身近な人に 相談する	弁護士に相 談する	法務局・人 権擁護委員 に相談する	法務局・人 権擁護委員 以外の公的 機関に相談 する	民間の相談 窓口相談 する	その他	無回答
沖縄県		26.5	30.8	67.2	10.5	8.6	5.2	15.7	3.1	1.1
全国（R4）		26.0	33.1	64.8	17.1	11.2	6.4	18.4	1.9	0.8
性別	男性	27.3	40.8	54.4	12.1	9.6	5.8	12.3	2.5	1.3
	女性	25.1	23.5	77.3	9.6	8.0	4.9	18.4	3.4	1.0
年代	10代	43.2	29.5	65.3	2.1	4.2	2.1	7.4	0.5	1.1
	20代	27.9	19.2	71.3	6.8	4.2	4.5	8.7	3.9	1.1
	30代	29.1	34.3	70.5	13.6	7.6	5.2	14.4	1.8	-
	40代	34.1	35.9	66.2	8.9	7.7	4.9	13.1	3.2	0.3
	50代	22.1	29.9	65.7	15.3	8.8	8.0	16.0	3.6	1.7
	60代	18.1	31.7	68.0	8.6	10.8	6.0	25.2	3.4	1.6
	70代以上	19.8	30.6	60.8	13.9	15.6	2.1	17.7	3.8	2.1
性年代 （男性）	10代	43.0	43.0	57.0	2.3	7.0	2.3	9.3	-	-
	20代	32.3	30.3	58.7	7.7	3.9	7.1	11.6	3.2	1.3
	30代	34.8	42.5	53.0	13.8	13.3	6.6	12.2	0.6	-
	40代	35.9	44.7	54.9	8.1	5.1	5.5	9.2	1.5	-
	50代	21.8	39.5	56.3	23.8	12.6	8.8	14.2	3.8	1.5
	60代	16.0	41.0	55.6	8.6	11.2	4.9	16.0	2.6	3.0
	70代以上	15.3	44.4	42.7	13.7	12.9	1.6	10.5	5.6	3.2
性年代 （女性）	10代	41.4	19.2	75.8	2.0	2.0	2.0	6.1	-	2.0
	20代	25.3	11.8	81.4	6.3	4.5	1.8	5.9	4.5	0.9
	30代	24.8	29.9	81.5	13.7	4.5	4.5	15.9	2.5	-
	40代	31.3	28.3	75.8	10.0	10.0	4.7	16.2	4.1	0.6
	50代	20.9	22.2	73.8	8.8	5.9	7.5	17.8	3.4	1.9
	60代	19.8	24.6	77.4	8.6	10.6	6.9	32.4	4.0	0.6
	70代以上	23.5	20.4	74.1	14.2	17.9	2.5	23.5	2.5	1.2
居住地域	北部	27.0	29.7	62.2	9.5	6.1	4.1	12.8	2.7	-
	中部	23.3	30.0	69.4	10.2	7.6	6.5	14.7	2.8	1.4
	南部	29.3	30.8	66.7	11.1	9.2	4.5	17.9	3.5	1.2
	宮古	25.4	32.2	64.4	11.0	12.7	7.6	10.2	3.4	1.7
	八重山	28.3	40.6	63.2	9.4	14.2	0.9	15.1	1.9	-
出身地	沖縄県内	26.3	30.9	68.5	10.5	8.0	5.0	16.4	3.1	1.1
	沖縄県外	28.1	28.5	68.1	10.0	5.8	5.4	11.2	3.8	0.8
	日本国外	31.0	39.4	48.1	13.9	18.1	9.3	10.6	1.4	-

7 人権問題のうち関心があるもの

Q5 次の人権に関する問題のうち、あなたが関心のあるものを選んでください。(○はいくつでも)

- 関心のある人権問題について、「インターネット上の人権侵害に関する問題」が50.5%で最も多く、次いで「子どもに関する人権問題」が49.0%、「女性に関する人権問題」が46.0%となっている。
- 全国調査と比較すると、「外国人に関する人権問題(ヘイトスピーチ含む)」が7.2ポイント高くなっている。



Ⅱ. 調査結果

≪傾向と分析≫

- 「女性に関する人権問題」について沖縄県 46.0%、全国調査 42.5%、「子どもに関する人権問題」沖縄県 49.0%、全国調査 43.1%、「外国人に関する人権問題」沖縄県 23.9%、全国調査 16.7%といずれも沖縄県が全国調査に比べて高いのに対し、「刑を終えて出所した人やその家族に関する人権問題」について沖縄県 10.7%、全国調査 14.8%、「犯罪被害者やその家族に関する人権問題」沖縄県 17.6%、全国調査 23.3%といずれも沖縄県が全国調査に比べて低い。
- 性別について見ると、「男性に関する人権問題」、「部落差別に関する人権問題」、「アイヌの人々に関する人権問題」、「外国人に関する人権問題」、「沖縄県民に関する人権問題」、「その他」、「人権問題に関心がない」、「無回答」においては男性のポイントが高く、そのほかは女性のポイントが高い。
- 「女性に関する人権問題」については、男性 31.6%、女性 56.1%となっている。中でも、女性 30代は 72.9%、40代は 61.4%、20代 58.4%と続く。
- 「子どもに関する人権問題」については、男性 41.0%、女性 54.4%となっている。女性については、40代 62.2%、30代 61.1%、70代以上 56.8%と続く。
- 「高齢者に関する人権問題」については、男性 27.8%、女性 35.9%となっている。男性については年代が上がるほどポイントが高く、10代 10.5%に対して 70代以上が 53.2%、女性もほぼ同様に、10代 18.2%に対して、70代以上では 52.5%であった。
- 「障がい者に関する人権問題」については男性 39.7%、女性 48.2%であった。
- 「外国人に関する人権問題」では、男性 25.1%、女性 22.8%であった。男性は 30代 33.7%、40代 32.2%、10代 31.4%、70代以上 30.6%と続く。20代と 60代は 15%代であった。女性は 40代 29.8%が最多で他の年代についても 20%を超えるが、70代以上のみが 11.7%であった。
- 「ハンセン病患者・元患者やその家族に関する人権問題」では男性 11.0%、女性 12.4%であるが、10代男性が 4.7%であるのに対し、女性 10代は 10.1%であった。
- 「刑を終えて出所した人やその家族に関する人権問題」では、男性 9.0%、女性 11.7%であったが、男性では 10代が 15.1%で最多、女性も 10代が 20.2%で最多であった。
- 「インターネット上の人権侵害に関する問題」については男性 49.6%、女性 51.7%であった。年代で見ると、男性は 50代 59.0%、10代 52.3%と続き最も少ないのは 70代以上の 35.5%であった。女性は 40代の 59.3%が最多で、60代 47.6%、70代以上 37.7%以外で 50%を下回る年代はない。
- 「性的マイノリティに関する人権問題」については男性 17.6%であるのに対し、女性は 25.3%であった。男性 10代が 11.6%と全世代中最少であるのに対し、女性 10代は 30.3%であった。女性は 10代から 40代まで 30%を超えている。
- 「沖縄県民に対する人権問題」は男性 36.4%、女性 35.9%であった。男性は 20代の 21.3%が最少で、50代以上は全て 40%を超えている。女性は 10代の 20.2%が最少で、60代の 51.0%が最多となっている。
- 「その他」として「米軍基地に関連する事件」「事故、環境汚染等による人権問題」「生活保護、生活困窮者の人権問題」等の回答があった。

Ⅱ. 調査結果

		女性に関する人権問題	男性に関する人権問題	子どもに関する人権問題	高齢者に関する人権問題	障がい者に関する人権問題	部落差別（同和問題）に関する人権問題	アイヌの人々に関する人権問題	外国人に関する人権問題（ハイトスピーチ含む）	感染症に関する人権問題	ハンセン病患者・元患者やその家族に関する人権問題	刑を終えて出所した人やその家族に関する人権問題	犯罪被害者やその家族に関する人権問題
沖縄県		46.0	15.5	49.0	32.6	44.6	11.1	8.1	23.9	15.6	11.9	10.7	17.6
全国（R4）		42.5		43.1	30.1	50.8	17.0	9.6	16.7	27.1	10.5	14.8	23.3
性別	男性	31.6	17.9	41.0	27.8	39.7	11.3	9.0	25.1	13.6	11.0	9.0	14.1
	女性	56.1	13.0	54.4	35.9	48.2	10.7	7.1	22.8	16.9	12.4	11.7	20.0
年代	10代	35.3	19.5	37.9	15.8	33.7	9.5	5.8	29.5	19.5	8.9	18.9	18.9
	20代	46.1	16.8	35.8	19.5	37.4	9.7	2.6	20.0	14.7	5.5	9.2	15.0
	30代	57.5	18.6	52.9	21.2	38.7	11.0	4.0	26.3	11.4	5.6	6.2	19.6
	40代	50.2	14.7	54.1	26.8	41.6	14.5	7.0	31.1	19.3	11.3	11.2	18.7
	50代	43.3	15.1	48.0	39.4	50.3	11.5	10.4	22.9	15.1	15.6	12.6	18.5
	60代	41.7	14.5	52.3	45.4	51.9	10.3	12.9	18.6	15.3	17.9	12.0	16.5
	70代以上	39.2	10.8	51.0	52.4	50.7	8.0	11.1	19.8	14.9	13.9	8.3	14.9
性年代（男性）	10代	23.3	23.3	32.6	10.5	30.2	12.8	4.7	31.4	16.3	4.7	15.1	15.1
	20代	29.7	23.9	29.0	14.8	32.3	9.0	2.6	15.5	15.5	3.9	8.4	16.1
	30代	29.8	27.6	37.6	18.8	29.3	11.0	6.1	33.7	8.3	6.6	6.1	12.2
	40代	34.8	16.1	41.8	20.9	36.3	11.4	7.3	32.2	18.7	7.3	8.4	11.4
	50代	33.3	17.2	44.8	33.0	49.0	13.8	10.7	22.6	14.2	16.1	10.7	18.0
	60代	29.5	10.8	48.1	37.3	47.4	11.2	12.3	15.7	9.7	15.7	7.8	11.2
	70代以上	37.1	13.7	42.7	53.2	42.7	8.9	17.7	30.6	12.9	17.7	9.7	18.5
性年代（女性）	10代	44.4	14.1	41.4	18.2	35.4	4.0	4.0	26.3	22.2	10.1	20.2	20.2
	20代	58.4	12.2	41.2	23.1	41.6	9.5	1.8	23.5	14.5	6.8	9.0	13.6
	30代	72.9	13.1	61.1	22.3	43.9	11.1	2.9	22.3	12.7	5.1	6.4	23.6
	40代	61.4	13.0	62.2	31.0	46.6	17.1	7.1	29.8	20.1	14.5	13.3	24.8
	50代	50.0	11.9	50.6	43.8	50.6	10.0	10.3	23.1	15.6	15.6	13.8	19.4
	60代	50.7	16.9	55.3	51.3	55.0	9.2	12.9	20.3	19.2	19.2	14.6	20.1
	70代以上	40.1	7.4	56.8	52.5	57.4	7.4	6.2	11.7	16.7	11.1	7.4	12.3
居住地域	北部	48.6	18.9	56.1	37.8	50.0	14.9	12.2	27.7	16.2	14.2	10.1	19.6
	中部	46.4	15.6	49.8	33.8	46.7	9.6	6.8	25.0	14.4	11.3	11.9	18.4
	南部	44.8	14.3	47.3	31.1	42.7	12.2	8.9	22.6	17.1	12.0	9.7	17.4
	宮古	52.5	18.6	44.1	28.0	36.4	11.0	4.2	18.6	11.9	16.9	13.6	11.0
	八重山	43.4	17.0	48.1	27.4	37.7	4.7	4.7	21.7	11.3	5.7	9.4	12.3
出身地	沖縄県内	46.2	16.1	50.6	34.0	47.5	11.2	8.0	20.8	16.1	12.9	11.2	17.6
	沖縄県外	52.3	10.0	51.5	29.6	35.4	15.4	7.3	28.1	14.6	9.6	11.9	21.5
	日本国外	41.7	18.1	33.3	19.9	21.8	8.3	9.3	63.4	9.7	6.5	6.0	14.8

		インターネット上の人権侵害に関する問題	拉致問題に関する人権問題	ハラスメントや性暴力に関する人権問題	ホームレスに対する偏見や差別に関する問題	性的マイノリティに関する人権問題	人身取引に関する人権問題	震災などの災害に起因する人権問題	沖縄県民に関する人権問題	その他	人権問題に関心がない	無回答
沖縄県		50.5	14.1	36.4	9.4	22.2	13.0	15.5	36.2	1.7	3.9	1.7
全国（R4）		53.0	17.9		10.0	19.3	13.0	32.6		1.9		0.8
性別	男性	49.6	13.2	30.1	8.4	17.6	11.5	13.4	36.4	2.0	6.1	2.1
	女性	51.7	14.7	41.3	10.0	25.3	13.9	17.1	35.9	1.6	2.1	1.3
年代	10代	52.1	11.6	29.5	12.6	21.6	9.5	10.5	23.7	0.5	5.3	1.1
	20代	51.6	4.5	37.1	8.9	24.5	5.0	9.7	23.4	1.1	8.4	1.1
	30代	49.9	8.4	37.3	7.2	28.5	13.6	14.4	30.5	2.2	4.4	0.8
	40代	53.7	13.4	41.0	10.0	26.6	15.2	15.3	33.2	1.8	4.0	0.6
	50代	55.2	16.1	32.6	10.5	20.0	18.0	18.8	39.2	1.7	3.4	1.2
	60代	49.6	20.8	36.5	10.3	17.9	13.9	19.1	49.6	2.1	1.6	2.1
	70代以上	36.5	21.9	36.5	6.6	13.2	8.3	14.9	44.4	2.1	1.4	5.9
性年代（男性）	10代	52.3	11.6	20.9	10.5	11.6	10.5	10.5	27.9	1.2	4.7	2.3
	20代	51.0	3.9	28.4	7.7	16.1	4.5	9.0	21.3	2.6	14.2	2.6
	30代	42.5	10.5	22.1	7.2	21.0	16.0	9.4	29.3	3.9	9.9	-
	40代	48.4	12.1	29.7	9.5	20.1	13.2	13.9	31.5	1.1	7.3	-
	50代	59.0	16.1	33.7	8.8	18.0	15.3	18.4	43.7	1.5	2.3	1.5
	60代	51.9	13.1	32.1	7.1	16.4	8.2	13.1	47.4	2.2	3.7	2.6
	70代以上	35.5	26.6	39.5	9.7	14.5	9.7	16.1	44.4	1.6	1.6	8.1
性年代（女性）	10代	53.5	9.1	37.4	12.1	30.3	6.1	8.1	20.2	-	4.0	-
	20代	52.9	5.0	43.9	10.0	30.8	4.5	10.4	25.3	-	3.6	-
	30代	54.1	7.3	45.9	7.3	31.8	12.4	16.9	30.9	1.3	1.3	1.3
	40代	59.3	14.5	50.1	10.3	31.9	17.4	17.1	33.6	2.4	1.2	1.2
	50代	52.8	16.6	32.5	12.2	20.9	20.0	19.7	35.3	1.9	4.4	0.9
	60代	47.6	26.4	39.5	12.3	18.6	17.8	23.2	51.0	2.0	-	1.7
	70代以上	37.7	18.5	34.6	4.3	12.3	7.4	14.2	45.1	2.5	1.2	4.3
居住地域	北部	50.7	15.5	40.5	10.1	31.1	14.9	18.2	43.2	2.7	4.1	1.4
	中部	51.6	14.1	36.6	9.4	21.6	11.9	13.6	33.5	1.4	3.7	1.7
	南部	49.9	14.1	35.6	9.2	20.9	14.0	17.0	37.9	1.9	3.9	1.7
	宮古	46.6	16.9	32.2	11.0	23.7	11.9	12.7	31.4	1.7	5.9	1.7
	八重山	50.0	7.5	36.8	8.5	18.9	9.4	15.1	33.0	1.9	3.8	0.9
出身地	沖縄県内	51.5	15.3	37.8	9.4	23.1	13.4	15.4	38.1	1.8	3.5	1.7
	沖縄県外	56.2	9.6	33.8	7.3	20.4	8.5	17.7	29.6	1.5	3.5	-
	日本国外	29.2	7.4	27.8	14.8	20.4	14.4	12.0	21.8	2.8	9.7	1.9

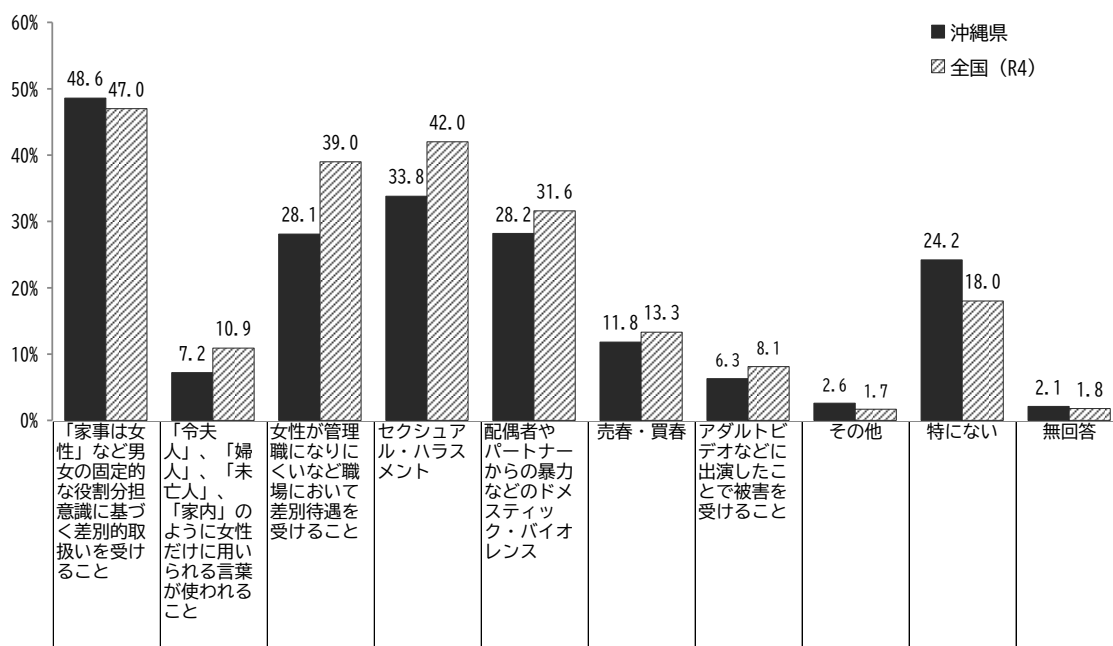
Ⅱ. 調査結果

3 人権侵害の経験について

1 女性に関する人権問題について

Q6 あなたが、女性に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 女性に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことについて、「『家事は女性』など男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」(以下「役割分担意識」)が 48.6%で最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」が 33.8%、「配偶者やパートナーからの暴力などのドメスティック・バイオレンス」(以下「DV」)が 28.2%となっている。
- 全国調査と比較すると、「役割分担意識」、「その他」、「特にない」が沖縄県で割合が高くなっている。



≪傾向と分析≫

- 「特にない」「無回答」以外は全ての項目で男性より女性の割合が高い。
- 「役割分担意識」については、男女ともに回答者が最も多く、女性に関する人権問題においては、「役割分担意識」の問題が非常に大きいことがわかる。しかし、女性では 57.9%、男性では 35.6%となっており、性別による差も非常に大きい。さらに年代別に見ていくと、男性 10 代 38.4%、女性 10 代 62.6%、男性 20 代 30.3%、女性 20 代 56.6%、男性 30 代 34.3%、女性 30 代 61.8%、男性 40 代 40.7%、女性 40 代 65.5%、男性 50 代 42.9%、女性 50 代 60.6%となっており、女性自身がより強く差別を感じていることがわかる。一方、60 代、70 代になると男性はそれぞれ 31.7%、24.2%、女性はそれぞれ 49.9%、45.7%となり、女性の方が差別を感じている割合は高いものの、女性でも 50%を切っており、世代による意識の違いがあると思われる。
- 令和 6(2024)年の労務 SEARCH の調査によると⁵、職場でハラスメントを見聞きした経験について「ある」と回答した人は 69.0%、そのうちセクハラは 13.5%だった。本調査では、全体で 33.8%

⁵ 職場のハラスメントに関するアンケート調査 (2024 年 労務 SEARCH)
<https://romsearch.officestation.jp/report/46575> (最終閲覧 2025 年 3 月 25 日)

の回答となっている。全国調査では 42.0%に上っている。沖縄県では、女性が 36.1%であった。男女別にみると、女性 20 代 38.5%、30 代 43.3%、40 代 43.1%、50 代 37.8%となっており、30 代、40 代が 40%を超えている。

- 職場における差別待遇については、全国調査が 39.0%であるのに対して、沖縄県は 28.1%にとどまっている。男性は 23.0%であるが、女性は 31.5%となっている。都道府県別の管理職の女性割合⁶では、沖縄県は 19 位であることと関わりがあるかもしれない。
- ドメスティック・バイオレンス(DV)については、全国が 31.6%であるのに対し、沖縄は 28.2%となっているが、警察における人口 10 万人あたりの相談件数をみると⁷沖縄は、全国を大きく上回っている年も多く、沖縄で DV が少ない又は沖縄で DV に関する意識が低い、ということではないと思われる。
- 「その他」として、「夫婦別姓が認められないこと」との回答があった。民法の規定上は夫婦どちらの姓(氏)を名乗ってもよい(称する)こととなっているが(民法 750 条)、令和 5(2023)年は、94.5%の夫婦が夫の姓を選択しており⁸、夫婦別姓は女性の問題だと言える。

⁶ ふるさとクリック 地図で見る管理職の女性割合 (2020 年 日本経済新聞)

[\(https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/regional-regeneration/female-manager-ratio-map/#:~:text=2020%E5%B9%B4%E3%81%AE%E9%83%BD%E9%81%93%E5%BA%9C%E7%9C%8C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%20*%20%E5%BE%B3%E5%B3%B6%E7%9C%8C%2019.57%%20*%20%E9%AB%98%E7%9F%A5%E7%9C%8C%2018.04%,13.20%%20*%20%E6%96%B0%E6%BD%9F%E7%9C%8C%2013.11%%20*%20%E9%95%B7%E9%87%8E%E7%9C%8C%2012.68%\)](https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/regional-regeneration/female-manager-ratio-map/#:~:text=2020%E5%B9%B4%E3%81%AE%E9%83%BD%E9%81%93%E5%BA%9C%E7%9C%8C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%20*%20%E5%BE%B3%E5%B3%B6%E7%9C%8C%2019.57%%20*%20%E9%AB%98%E7%9F%A5%E7%9C%8C%2018.04%,13.20%%20*%20%E6%96%B0%E6%BD%9F%E7%9C%8C%2013.11%%20*%20%E9%95%B7%E9%87%8E%E7%9C%8C%2012.68%) (最終閲覧 2025 年 3 月 25 日)

⁷ https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/005/115/r4shiryoku1.pdf 2 頁 (最終閲覧 2025 年 3 月 25 日)

⁸ <https://www.gender.go.jp/research/fufusei/index.html> (最終閲覧 2025 年 3 月 25 日)

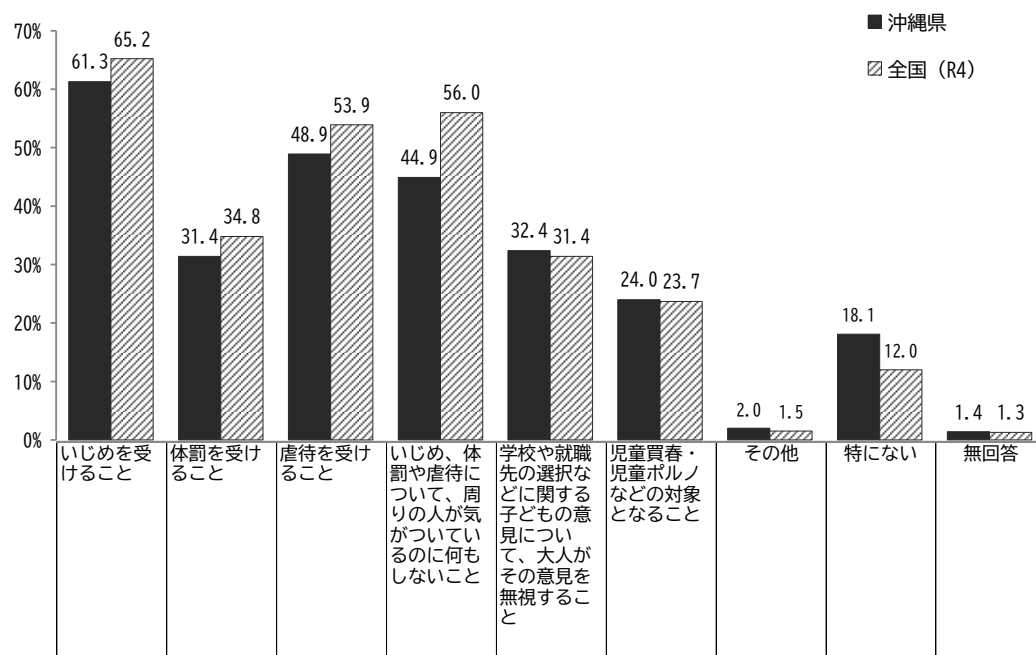
Ⅱ. 調査結果

		「家事は女性」など男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること	「令夫人」、「婦人」、「未亡人」、「家内」のように女性だけに用いられる言葉が使われること	女性が管理職になりにくいなど職場において差別待遇を受けること	セクシュアル・ハラスメント	配偶者やパートナーからの暴力などのドメスティック・バイオレンス	売春・買春	アダルトビデオなどに出演したことで被害を受けること	その他	特にない	無回答
沖縄県		48.6	7.2	28.1	33.8	28.2	11.8	6.3	2.6	24.2	2.1
全国（R4）		47.0	10.9	39.0	42.0	31.6	13.3	8.1	1.7	18.0	1.8
性別	男性	35.6	5.3	23.0	31.0	24.9	11.4	5.9	1.2	30.6	2.5
	女性	57.9	8.3	31.5	36.1	31.1	12.3	6.6	3.5	19.4	1.8
年代	10代	51.6	3.7	18.4	28.4	22.1	10.5	7.9	-	28.9	0.5
	20代	45.3	7.1	30.3	33.9	24.2	12.6	6.8	0.3	28.4	1.1
	30代	52.1	9.4	36.3	41.1	32.3	16.2	7.2	3.2	21.0	-
	40代	54.7	8.3	28.5	38.1	29.8	9.9	7.3	3.2	20.4	0.3
	50代	53.3	4.9	26.3	36.0	27.8	10.7	4.2	3.2	22.2	1.4
	60代	42.2	7.4	27.3	30.0	30.0	11.3	6.1	3.1	24.1	4.0
	70代以上	36.1	8.3	22.9	19.4	24.7	11.8	5.2	2.8	33.7	8.0
性年代（男性）	10代	38.4	4.7	7.0	20.9	14.0	9.3	8.1	-	38.4	1.2
	20代	30.3	3.9	21.9	28.4	23.9	12.3	3.2	-	34.8	1.3
	30代	34.3	4.4	26.5	38.1	24.3	14.4	8.8	2.8	32.0	-
	40代	40.7	7.3	23.8	31.9	24.2	7.7	6.2	1.5	27.8	-
	50代	42.9	2.7	24.9	34.9	28.7	11.1	3.8	0.8	24.9	2.3
	60代	31.7	5.6	23.5	31.3	28.7	12.7	7.1	1.9	27.2	2.2
	70代以上	24.2	8.9	23.4	21.0	20.2	13.7	4.8	-	43.5	13.7
性年代（女性）	10代	62.6	2.0	26.3	33.3	28.3	12.1	8.1	-	20.2	-
	20代	56.6	9.5	36.7	38.5	24.9	13.1	9.5	0.5	22.6	0.9
	30代	61.8	11.8	41.1	43.3	37.3	17.5	6.4	3.5	15.0	-
	40代	65.5	7.1	31.9	43.1	35.1	11.5	8.0	3.5	14.5	0.6
	50代	60.6	6.9	26.3	37.8	27.8	10.6	4.7	5.3	20.6	0.6
	60代	49.9	8.9	30.4	29.2	31.2	10.3	5.4	4.0	21.8	5.4
	70代以上	45.7	8.0	22.8	18.5	28.4	10.5	5.6	4.9	25.3	3.7
居住地域	北部	48.6	8.1	31.1	33.8	25.7	13.5	5.4	3.4	25.0	1.4
	中部	48.8	8.0	29.4	32.5	28.3	10.7	6.2	3.1	24.9	1.9
	南部	49.3	5.8	26.5	36.0	29.0	12.8	6.8	2.0	22.5	2.4
	宮古	39.8	5.9	20.3	26.3	22.9	8.5	5.1	1.7	37.3	2.5
	八重山	46.2	16.0	34.0	30.2	30.2	11.3	4.7	2.8	21.7	1.9
出身地	沖縄県内	49.5	7.0	27.6	34.2	28.0	12.2	6.7	2.7	23.1	2.3
	沖縄県外	52.3	8.8	32.7	35.0	33.8	10.8	5.4	1.9	21.9	-
	日本国外	41.7	11.6	30.6	31.9	23.6	9.7	5.1	3.2	36.1	0.9

2 子どもに関する人権問題について

Q7 あなたが、子どもに関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 子どもに関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題と思ったことについて、「いじめを受けること」が61.3%で最も多く、次いで「虐待を受けること」が48.9%となっている。
- 全国調査と比較すると、「特にない」が6.1ポイント高くなっている。



《傾向と分析》

- 年代別では、「いじめを受けること」については、男性 50 代が 65.1%、女性 50 代が 70.6%と最も高い。「虐待を受けること」では、男性 40 代 46.2%、女性 40 代が 60.2%で最も高い。
- 「特にない」以外は全ての項目で男性より女性の割合が高い。特に、「虐待を受けることについて」は、男性が 41.9%であるのに対し、女性は 54.5%に上っている。「いじめ、体罰や虐待について、周りの人が気がついていないのに何もしないこと」については、男性が 38.0%であるのに対し、女性は 50.3%となっている。このように女性の割合が高いのは、役割分担により、女性が子育てを分担していることとも関わっているのではないかと考えられる。
- 「その他」としては、「ヤングケアラーの問題、経済格差や貧困により希望が持てないこと」等の記載がある。
- ヤングケアラーについては、自治体によって対応に差があると言われているが、沖縄県では、令和 4 (2022)年度に初の大規模実態調査⁹が行われており、沖縄の子どもの 5.5%(約 7,450 人)がヤングケアラーと思われる子どもと推定されるとの結果が出ている。この問題は、貧困率¹⁰や子どもの数¹¹とも関係があると思われる。

⁹ 【令和 4 年度】沖縄県ヤングケアラー実態調査結果

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/seshonen/1018631/1009476.html> (最終閲覧 2025 年 3 月 17 日)

¹⁰ 沖縄県の子供の相対的貧困率は 29.9%で、これは全国平均の約 2.2 倍に上る。

<https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/kodomo-hinkon/shiryoku/kodomo-genjou2.pdf> (最終閲覧 2025 年 3 月 17 日)

¹¹ <https://www3.nhk.or.jp/lnews/okinawa/20240606/5090028041.html> (最終閲覧 2025 年 3 月 10 日)

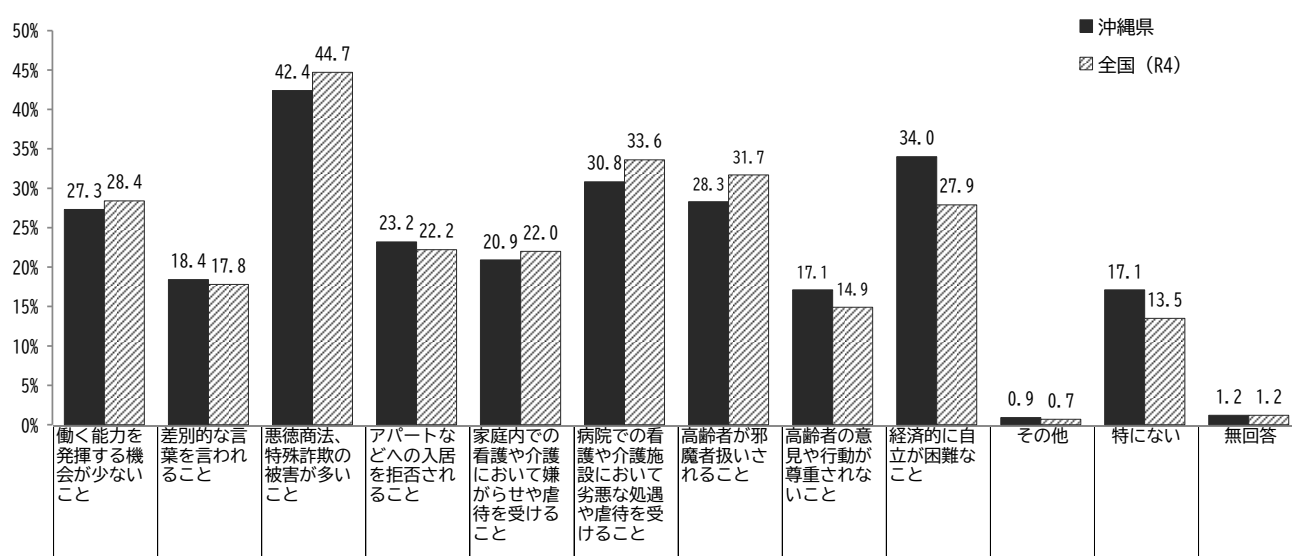
Ⅱ. 調査結果

		いじめを受けること	体罰を受けること	虐待を受けること	いじめ、体罰や虐待について、周りの人が気がついていないのに何もしないこと	学校や就職先の選択などに関する子どもの意見について、大人がその意見を無視すること	児童買春・児童ポルノなどの対象となること	その他	特にない	無回答
沖縄県		61.3	31.4	48.9	44.9	32.4	24.0	2.0	18.1	1.4
全国（R4）		65.2	34.8	53.9	56.0	31.4	23.7	1.5	12.0	1.3
性別	男性	56.4	27.6	41.9	38.0	28.4	20.3	1.6	22.1	1.8
	女性	64.7	34.3	54.5	50.3	35.3	26.8	2.3	14.9	1.2
年代	10代	56.3	31.6	40.5	36.3	42.6	12.6	-	21.1	0.5
	20代	57.4	33.9	45.8	43.9	38.9	22.1	0.8	21.6	0.5
	30代	61.7	29.1	53.1	46.3	35.9	27.5	2.8	16.6	-
	40代	63.5	33.2	53.3	47.0	34.9	27.0	3.0	16.6	0.3
	50代	68.6	30.2	49.6	45.7	31.6	24.3	2.2	13.4	0.5
	60代	63.0	31.8	50.1	45.2	24.7	22.8	2.1	16.6	3.4
	70代以上	46.5	29.9	38.5	43.8	25.0	24.0	1.0	29.5	4.2
性年代（男性）	10代	52.3	25.6	33.7	29.1	31.4	8.1	-	27.9	1.2
	20代	55.5	39.4	39.4	31.0	37.4	12.9	1.9	24.5	1.3
	30代	55.8	23.8	44.8	42.0	29.8	24.3	0.6	22.1	-
	40代	57.5	28.2	46.2	38.1	28.2	24.2	1.5	19.4	0.7
	50代	65.1	24.5	45.2	40.2	30.7	21.1	2.3	14.9	0.8
	60代	55.6	28.0	40.7	39.9	23.9	20.5	2.6	25.0	2.6
	70代以上	42.7	25.0	33.9	38.7	19.4	21.8	0.8	30.6	6.5
性年代（女性）	10代	59.6	37.4	47.5	43.4	53.5	16.2	-	14.1	-
	20代	59.7	30.8	51.1	53.8	40.7	29.0	-	18.1	-
	30代	64.6	31.8	58.0	48.7	38.5	29.0	4.1	13.7	-
	40代	68.1	37.5	60.2	53.4	40.7	29.2	3.8	14.2	-
	50代	70.6	35.0	53.1	50.6	31.3	27.5	2.2	12.5	0.3
	60代	68.5	34.4	57.6	49.6	25.5	24.6	1.7	10.3	4.0
	70代以上	48.8	34.0	42.6	48.1	29.6	25.9	1.2	29.0	2.5
居住地域	北部	57.4	29.7	41.9	46.6	29.7	23.6	3.4	21.6	1.4
	中部	64.0	33.1	47.6	44.2	31.8	23.6	1.5	18.9	1.2
	南部	60.4	30.7	51.9	45.5	33.4	24.9	2.0	15.7	1.4
	宮古	50.8	24.6	40.7	35.6	33.9	18.6	1.7	26.3	2.5
	八重山	63.2	32.1	53.8	51.9	32.1	21.7	4.7	19.8	1.9
出身地	沖縄県内	63.0	33.2	50.3	46.7	33.8	25.2	2.1	16.5	1.5
	沖縄県外	63.8	29.6	51.9	49.2	34.2	18.1	3.1	14.6	-
	日本国外	44.9	19.0	33.3	27.3	19.4	18.5	1.4	32.9	0.9

3 高齢者に関する人権問題について

Q8 あなたが、高齢者に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 高齢者に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことについて、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が 42.4%で最も多く、次いで「経済的に自立が困難なこと」が 34.0%、「病院での看護や介護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が 30.8%となっている。
- 全国調査と比較すると、「経済的に自立が困難なこと」が 6.1 ポイント高くなっている。



≪傾向と分析≫

- 「その他」、「特になし」、「無回答」以外は全ての項目で男性より女性の方が高い。年代別でも、高齢者においては男性よりも女性の方が人権問題だと思ったことについて回答した者の割合が高くなっている。
- 沖縄県においては、高齢者差別、虐待に特化した条例はない。
- 「その他」には「高齢者に対する保険料負担増」との回答があった。

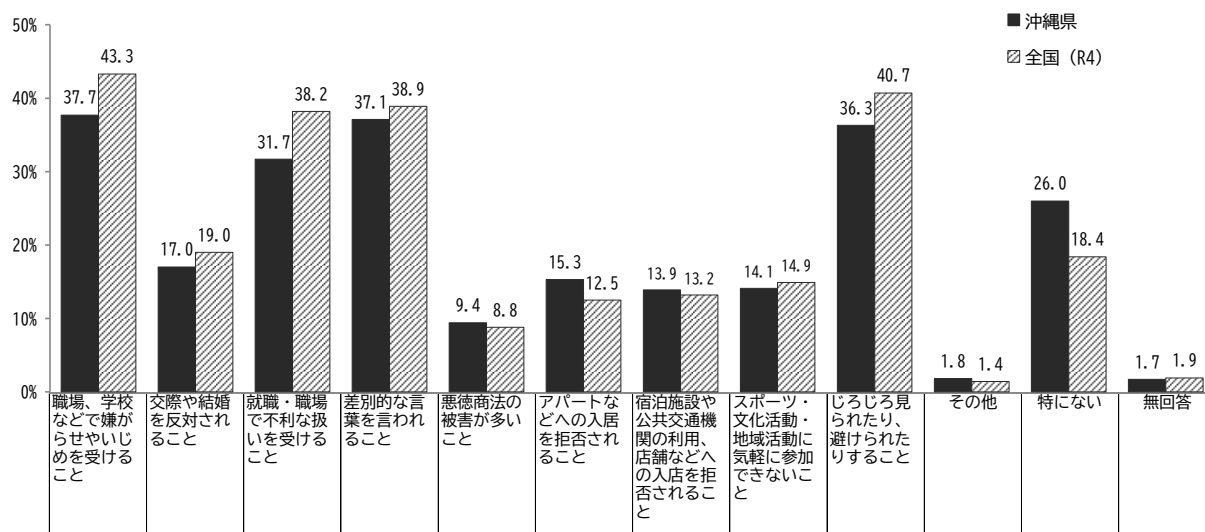
Ⅱ. 調査結果

		働く能力を 発揮する機 会が少ない こと	差別的な言 葉を言われ ること	悪徳商法、 特殊詐欺の 被害が多い こと	アパートな どへの入居 を拒否され ること	家庭内での 看護や介護 において嫌 がらせや虐 待を受ける こと	病院での看 護や介護施 設において 劣悪な処遇 や虐待を受 けること	高齢者が邪 魔者扱いさ れること	高齢者の意 見や行動が 尊重されな いこと	経済的に自 立が困難な こと	その他	特にない	無回答
沖縄県		27.3	18.4	42.4	23.2	20.9	30.8	28.3	17.1	34.0	0.9	17.1	1.2
全国（R4）		28.4	17.8	44.7	22.2	22.0	33.6	31.7	14.9	27.9	0.7	13.5	1.2
性別	男性	23.8	13.5	40.1	17.0	15.6	24.0	24.5	13.2	28.4	1.2	22.1	1.3
	女性	29.7	21.9	44.2	27.6	25.1	36.3	31.4	20.1	37.9	0.7	13.5	1.0
年代	10代	15.8	22.6	25.3	11.6	22.6	31.6	31.6	12.1	13.2	-	26.3	1.1
	20代	25.0	18.2	29.7	15.0	23.7	27.9	21.3	11.8	24.7	1.1	25.5	1.1
	30代	28.7	19.4	37.3	23.4	23.6	33.3	27.9	16.4	33.9	0.8	19.8	0.4
	40代	26.6	17.5	42.6	23.3	25.2	35.1	30.3	18.3	35.6	0.3	16.6	0.6
	50代	30.6	19.7	51.6	32.4	18.3	35.5	34.6	18.7	37.4	1.4	9.5	0.8
	60代	28.6	16.8	50.4	23.7	18.1	27.9	26.8	19.4	41.4	1.0	11.8	1.5
	70代以上	28.1	17.7	43.1	21.5	13.9	17.0	21.9	18.1	35.8	1.7	23.3	3.8
性年代 （男性）	10代	16.3	19.8	26.7	15.1	16.3	22.1	24.4	14.0	18.6	-	33.7	-
	20代	18.7	11.0	21.9	8.4	20.0	21.3	16.1	11.0	15.5	1.3	31.0	1.3
	30代	24.3	13.8	33.7	19.9	16.0	25.4	24.9	9.9	30.4	1.7	29.3	1.1
	40代	23.1	14.3	40.7	14.7	19.0	27.8	26.4	13.2	27.5	0.7	19.0	-
	50代	29.5	15.7	48.3	25.3	16.1	27.2	34.5	17.6	31.4	1.5	14.2	-
	60代	23.1	9.7	50.4	16.4	13.4	23.5	22.0	13.8	33.6	0.7	17.2	3.0
	70代以上	24.2	13.7	41.1	13.7	4.8	12.9	15.3	9.7	33.9	2.4	27.4	4.8
性年代 （女性）	10代	15.2	23.2	24.2	8.1	28.3	40.4	36.4	10.1	8.1	-	21.2	2.0
	20代	29.9	23.5	35.7	19.9	26.7	33.0	25.3	12.7	31.7	0.9	20.4	0.9
	30代	30.3	22.3	39.2	25.2	28.3	38.2	29.9	20.4	35.0	0.3	14.6	-
	40代	28.9	19.8	44.8	29.5	30.1	41.9	33.6	22.1	41.9	-	15.0	0.6
	50代	30.9	22.8	53.1	37.8	20.6	43.1	35.6	20.0	41.3	1.3	5.9	1.6
	60代	33.0	22.3	50.7	29.5	21.8	31.5	30.7	23.8	47.0	1.1	7.7	0.3
	70代以上	31.5	21.0	43.8	27.8	21.0	20.4	27.2	24.7	37.7	1.2	20.4	3.1
居住地域	北部	20.3	19.6	47.3	16.9	18.9	31.1	25.7	14.2	33.8	1.4	18.9	0.7
	中部	27.7	19.3	41.3	24.0	21.8	29.8	28.4	17.0	31.7	0.6	17.0	1.5
	南部	28.7	17.6	42.5	24.5	20.6	31.8	28.7	17.3	36.6	1.0	16.1	1.0
	宮古	16.9	16.9	42.4	16.9	17.8	25.4	27.1	21.2	29.7	0.8	24.6	1.7
	八重山	36.8	17.0	41.5	20.8	22.6	33.0	31.1	18.9	34.9	1.9	17.9	0.9
出身地	沖縄県内	27.8	19.0	42.9	23.6	21.6	31.8	29.3	17.8	34.6	1.0	15.7	1.2
	沖縄県外	34.6	15.8	48.8	28.5	19.2	35.8	29.2	10.8	38.5	-	12.3	-
	日本国外	19.0	14.4	28.7	15.3	16.2	13.0	20.4	14.8	24.1	1.4	38.4	1.9

4 障がい者に関する人権問題について

Q9 あなたが、障がい者に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 障がい者に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことについて、「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」が 37.7%で最も多く、次いで「差別的な言葉と言われること」が 37.1%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が 36.3%となっている。
- 全国調査と比較すると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 6.5 ポイント低くなっている。



≪傾向と分析≫

- 多くの項目で女性の回答が高いが、特に「差別的な言葉と言われること」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が高い。
- 令和 3 年の都道府県「障害者手帳」交付数対人口比で見ると、沖縄県は第 11 位で 3.58%となっている¹²。
- 全体に女性や子どもの問題に比べ数値が低いのは当事者性(自身又は身近に障がい者がいる)の低さと関係があると思われる。
- 障害者差別解消に関する条例を制定している都道府県は、令和 6(2024)年 11 月 1 日時点で、全国で 144 の団体となっているが、沖縄県においては「沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例」(共生社会条例)が制定されている。
- 「その他」として、「保育園や幼稚園、学校への入園・入学を拒否されたこと」「身障者用の設備(駐車場、車いす)がなかったり、バリアフリー化されていないこと」などの回答があった。

¹² 全国の障害者の現状を調べる…都道府県「障害者手帳」交付数調査 (GENTOSHA GOLD ONLINE)
<https://gentosha-go.com/articles/-/37083> (最終閲覧 2025 年 3 月 5 日)

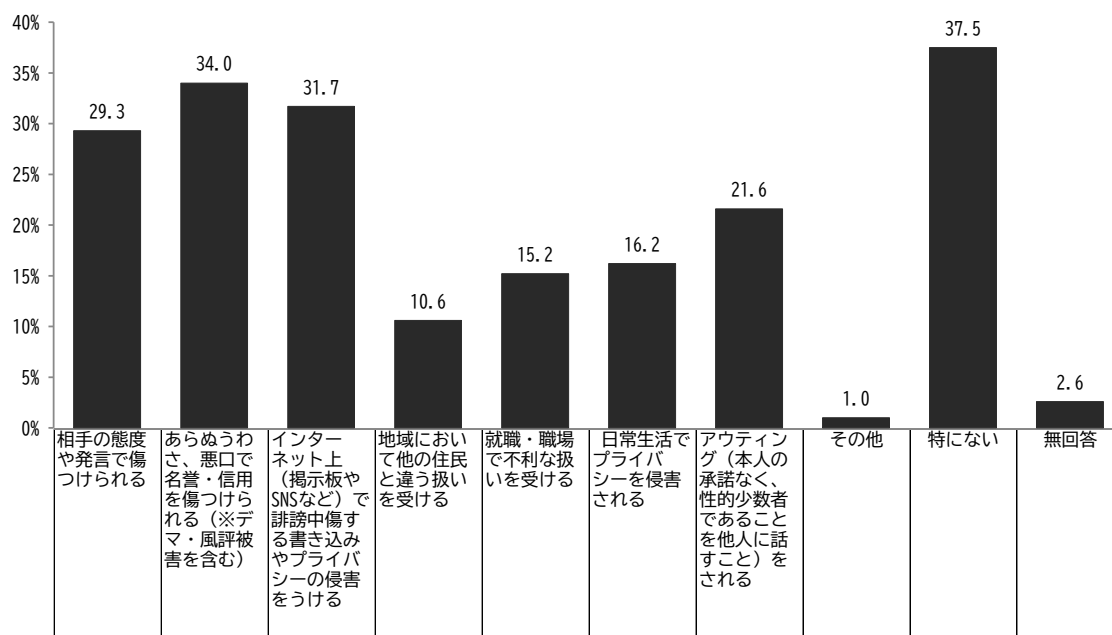
Ⅱ. 調査結果

		職場、学校 などで嫌が らせやいじ めを受ける こと	交際や結婚 を反対され ること	就職・職場 で不利な扱 いを受ける こと	差別的な言 葉を言われ ること	悪徳商法の 被害が多い こと	アパートな どへの入居 を拒否され ること	宿泊施設や 公共交通機 関の利用、 店舗などへ の入店を拒 否されるこ と	スポーツ・ 文化活動・ 地域活動に 気軽に参加 できないこ と	じろじろ見 られたり、 避けられ たりするこ と	その他	特にな い	無回答
沖縄県		37.7	17.0	31.7	37.1	9.4	15.3	13.9	14.1	36.3	1.8	26.0	1.7
全国（R4）		43.3	19.0	38.2	38.9	8.8	12.5	13.2	14.9	40.7	1.4	18.4	1.9
性別	男性	32.7	15.0	28.0	31.6	9.5	12.3	12.1	11.9	29.9	1.6	29.9	2.0
	女性	41.3	18.5	34.4	40.9	9.4	17.5	15.2	15.8	40.9	1.9	23.2	1.5
年代	10代	44.7	12.1	28.4	49.5	9.5	8.9	14.7	15.3	41.6	-	25.3	0.5
	20代	37.9	14.5	29.7	39.5	7.4	12.4	12.4	12.1	40.0	0.8	25.3	1.1
	30代	46.1	20.4	35.1	41.9	7.2	14.8	13.0	12.4	39.7	2.6	23.6	0.4
	40代	42.9	18.0	35.4	37.0	10.5	15.6	14.2	9.9	36.8	2.9	23.3	1.0
	50代	35.7	16.0	31.6	34.1	10.9	19.2	14.3	12.7	34.1	1.0	25.8	1.4
	60代	29.2	17.4	31.8	35.4	9.7	16.6	16.0	18.6	34.7	1.6	27.8	3.4
	70代以上	29.9	17.0	24.0	28.5	10.4	13.2	11.1	20.5	28.8	2.4	33.7	3.8
性年代 （男性）	10代	39.5	9.3	17.4	41.9	7.0	9.3	11.6	12.8	34.9	-	26.7	1.2
	20代	33.5	8.4	21.9	34.8	9.0	9.7	6.5	7.7	32.9	0.6	27.1	2.6
	30代	40.3	22.1	32.0	34.3	7.2	11.0	12.2	7.7	28.7	1.7	32.0	-
	40代	35.9	13.9	30.0	33.3	8.4	10.3	13.9	9.2	33.3	2.9	26.0	0.7
	50代	34.5	17.6	33.0	34.5	10.7	19.9	14.9	13.4	31.4	1.5	27.6	0.8
	60代	23.5	15.3	29.1	26.5	11.6	12.3	14.2	14.6	24.6	0.7	35.4	4.5
	70代以上	24.2	13.7	20.2	17.7	10.5	8.1	4.8	19.4	25.0	2.4	34.7	4.8
性年代 （女性）	10代	49.5	14.1	38.4	55.6	12.1	8.1	18.2	17.2	46.5	-	23.2	-
	20代	41.6	19.0	34.8	43.4	6.3	14.5	16.7	15.4	45.7	0.9	23.5	-
	30代	49.4	19.1	36.6	45.5	6.7	16.6	13.1	14.6	46.5	3.2	19.1	0.6
	40代	48.7	21.5	39.5	38.6	12.1	19.5	13.9	10.9	38.3	2.4	21.2	1.2
	50代	36.3	15.0	30.0	34.1	11.3	19.1	14.1	12.5	35.9	0.6	25.0	1.9
	60代	33.2	19.2	34.1	42.4	8.3	20.1	17.5	21.8	42.7	2.3	22.1	2.6
	70代以上	34.6	19.8	27.2	37.0	10.5	17.3	16.0	21.6	32.1	2.5	32.1	3.1
居住地域	北部	35.8	21.6	24.3	38.5	6.8	16.2	11.5	11.5	40.5	2.0	27.0	0.7
	中部	38.0	15.5	31.5	35.5	9.4	14.8	13.3	14.5	36.2	1.5	26.7	2.5
	南部	38.2	17.4	33.3	38.0	9.9	15.3	15.6	14.4	35.6	2.0	25.1	1.2
	宮古	29.7	16.9	29.7	29.7	12.7	15.3	7.6	12.7	36.4	0.8	32.2	2.5
	八重山	41.5	17.0	36.8	47.2	6.6	18.9	12.3	12.3	34.0	1.9	19.8	1.9
出身地	沖縄県内	38.7	17.4	31.9	38.9	9.3	16.1	14.1	14.0	37.6	1.8	24.2	1.8
	沖縄県外	45.8	17.3	37.3	38.1	8.5	14.6	14.2	15.4	35.8	0.8	22.7	-
	日本国外	22.2	13.0	29.6	19.4	10.2	8.3	11.6	11.1	21.3	3.2	45.8	1.9

5 性的少数者・(LGBTQ) に関する人権問題について

Q10 あなたが、「性的少数者・(LGBTQ)」に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 「性的少数者・(LGBTQ)」に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことについて、「特にない」が 37.5%で最も多く、次いで「あらぬうわさ、悪口で名誉・信用を傷つけられる(※デマ・風評被害を含む)」が 34.0%、「インターネット上(掲示板や SNS など)で誹謗中傷する書き込みやプライバシーの侵害をうける」が 31.7%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「特にない」、「無回答」以外は全ての項目で男性より女性の割合が高い。
- 10代から50代までの間で、大きな世代間の格差はない。
- 同性婚については、令和5(2023)年に実施された JNN の世論調査¹³では、賛成 63%、反対 24%であった。その他の調査でも、賛成が多いことがわかっている¹⁴。実際には、日本では法制度における性的少数者への差別が存在している。例えば、同性婚では、G7 においては、平成 28(2016)年にイタリアがシビル・ユニオンを合法化したことにより、同性カップルに関する法制度を一切持っていない国は日本だけになっている。
- 国においても「性的指向及びジェンダーアイデンティティーの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」(令和5年法律第68号)はあるものの、差別禁止法は存在していない。
- 令和元(2019)年2月14日に「結婚の自由をすべての人に」訴訟が始まり、令和7(2025)年3月25日現在、5つの高裁全てで違憲判決が出ている。

¹³ <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/463899?display=1>

¹⁴ https://www.outjapan.co.jp/pride_japan/news/2023/5/3.html (最終閲覧 2025 年 3 月 7 日) 等

Ⅱ. 調査結果

- 沖縄県ではこれまで不動産賃貸をする際に、賃貸物件に関する同意書で「LGBTの方は原則お断りしています」と明記していたり¹⁵、「LGBTの方は家主と相談すること」と記載されていたことがわかり報道されている¹⁶。国は、「住宅セーフティーネット制度」を設け、高齢者、障がい者や外国人などを「住宅確保要配慮者」にしている。各都道府県が定める住宅の供給促進計画においては、47 都道府県で沖縄だけがLGBTを要配慮者に加えていない¹⁷。
- 「その他」としては「男性らしく、女性らしくなどと決めつけられること」との回答があった。

		相手の態度 や発言で傷 つけられる	あらぬうわ さ、悪口で 名誉・信用 を傷つけら れる（※デ マ・風評被 害を含む）	インター ネット上 （掲示板や SNSなど） で誹謗中傷 する書き込 みやプライ バシーの侵 害を受ける	地域におい て他の住民 と違う扱い を受ける	就職・職場 で不利な扱 いを受ける	日常生活で プライバシーを侵害 される	アウティン グ（本人の 承諾なく、 性的少数者 であることを 他人に話す こと）を される	その他	特にな	無回答
沖縄県		29.3	34.0	31.7	10.6	15.2	16.2	21.6	1.0	37.5	2.6
性別	男性	22.6	27.3	26.7	7.5	11.5	11.7	15.0	0.9	45.4	2.8
	女性	34.2	38.8	35.4	12.9	17.8	19.4	26.4	1.0	31.7	2.4
年代	10代	28.4	36.8	33.7	10.5	12.1	21.1	25.3	-	35.8	1.6
	20代	29.2	31.8	40.8	12.9	15.0	16.8	27.4	0.5	28.7	1.1
	30代	35.5	37.9	37.1	14.0	17.6	20.2	27.5	2.2	33.3	0.8
	40代	30.1	38.8	32.4	10.8	15.5	17.1	25.2	1.0	35.6	1.3
	50代	31.6	32.9	30.9	9.0	16.0	11.2	17.5	0.7	37.2	2.0
	60代	27.1	32.1	27.8	8.7	16.3	16.5	17.3	1.3	42.0	5.7
	70代以上	18.8	25.3	18.4	8.7	9.4	13.9	12.5	0.3	51.7	4.9
性年代 (男性)	10代	17.4	27.9	31.4	9.3	10.5	12.8	19.8	-	43.0	3.5
	20代	25.8	25.8	31.6	3.2	6.5	10.3	18.7	-	40.0	1.3
	30代	24.9	28.2	26.0	8.8	11.6	11.0	17.7	2.8	45.3	2.2
	40代	24.2	31.5	27.1	9.5	10.3	13.2	19.0	0.7	40.3	0.7
	50代	25.3	28.4	30.7	7.7	15.7	8.8	9.6	0.8	41.4	2.3
	60代	19.8	25.7	24.6	7.5	13.1	14.2	13.1	0.7	52.6	4.5
	70代以上	16.1	20.2	14.5	4.8	8.9	11.3	10.5	0.8	57.3	7.3
性年代 (女性)	10代	38.4	45.5	36.4	12.1	14.1	26.3	30.3	-	29.3	-
	20代	32.1	36.7	48.0	19.9	21.3	21.7	33.9	0.9	19.5	0.9
	30代	41.4	43.3	42.7	16.6	20.1	25.2	32.8	1.3	26.8	-
	40代	34.5	44.0	36.3	11.8	19.2	19.8	29.5	1.2	31.9	1.8
	50代	35.6	35.6	31.9	10.3	15.9	12.8	23.8	0.6	34.7	1.9
	60代	33.0	37.2	30.4	9.7	18.9	18.3	20.6	1.7	33.5	6.6
	70代以上	21.0	29.6	21.6	11.7	9.9	16.0	14.2	-	46.9	3.1
居住地域	北部	27.0	35.1	37.2	11.5	12.8	17.6	22.3	1.4	33.8	1.4
	中部	28.4	33.8	32.1	9.9	15.3	15.3	19.6	0.8	38.3	2.5
	南部	30.1	34.0	30.4	11.1	15.7	16.9	23.8	1.2	37.6	2.7
	宮古	28.8	26.3	28.8	8.5	13.6	12.7	16.1	0.8	40.7	5.1
	八重山	36.8	41.5	30.2	12.3	16.0	19.8	22.6	0.9	34.0	1.9
出身地	沖縄県内	30.4	35.2	32.2	11.1	15.9	17.2	22.5	1.0	35.5	2.7
	沖縄県外	30.4	41.2	35.8	7.7	14.2	11.9	21.2	0.8	37.3	-
	日本国外	16.7	16.2	21.8	11.6	9.3	10.6	14.4	1.4	56.9	2.8

¹⁵ <https://ryukyushimpo.jp/news/entry-1247148.html>（最終閲覧 2025 年 3 月 7 日）

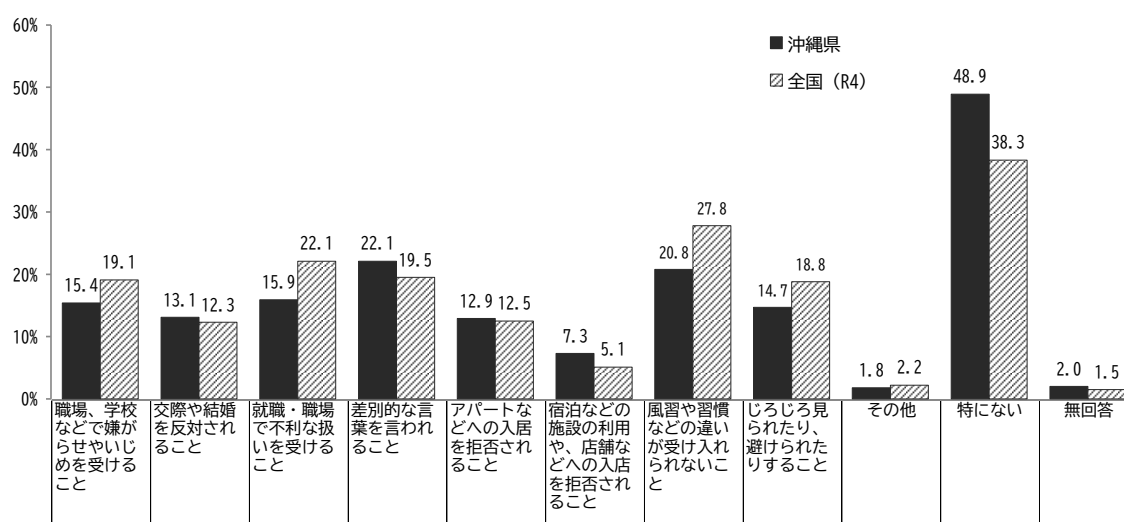
¹⁶ <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1483827>（最終閲覧 2025 年 3 月 7 日）

¹⁷ <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1484032>（最終閲覧 2025 年 3 月 7 日）

6 外国人に関する人権問題について

Q11 あなたが、沖縄県に居住している外国人に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたこと、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 沖縄県に居住している外国人に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことについて沖縄県では、「特にない」が 48.9%で最も多く、次いで「差別的な言葉を言われること」が 22.1%、「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」が 20.8%となっている。



≪傾向と分析≫

- 全国調査と比較すると、「風習や習慣などの違いが受け入れられないこと」が 7.0 ポイント低くなっている。「差別的な言葉を言われること」については、男性の 18.5%、女性の 24.7%が回答している。男女ともに 10 代の回答が最も高いが、10 代男性 23.3%であるのに対し、10 代女性は 44.4%であり、突出して高い。
- 「特にない」、「無回答」を除く全ての項目において、出身地が日本国外である者の割合が高くなっている。例えば、「就職・職場で不利な扱いを受けること」では、出身地別に沖縄県内 15.0%、沖縄県外 12.7%、日本国外 29.6%となっている。「アパートなどへの入居を拒否される」では出身地別に沖縄県内 11.2%、沖縄県外 10.8%、日本国外 38.9%となっている。当事者において差別が深刻であることがわかる。
- 入居差別の深刻さは県でも把握されており、対応が求められている¹⁸。
- 前述(Q3_1)の東京弁護士会が行った「2021 年度外国にルーツをもつ人に対する職務質問(レイシヤルプロファイリング)に関するアンケート調査」とも合致する。
- 実際には差別はかなり深刻であるものの、必ずしも当事者以外には差別に深刻さが共有されていないものと思われる。
- 「その他」として、「クレジットカードが作れなかったり、銀行からの融資を断られたこと」「子どもの出生届に親の国籍を記入させられたこと」等があった。

¹⁸ <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1480045> (最終閲覧 2025 年 3 月 11 日)

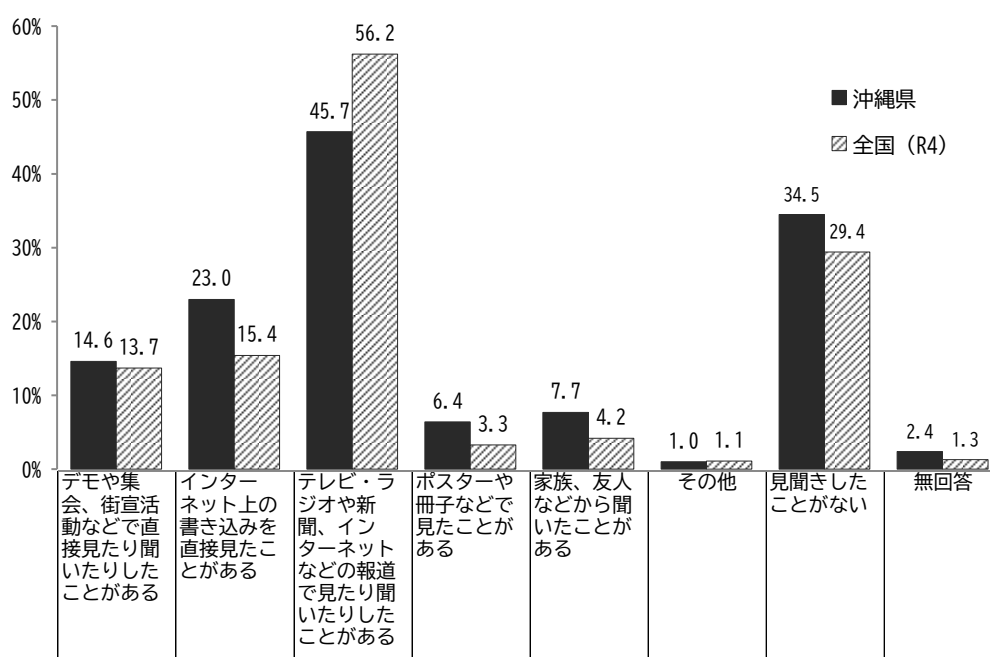
Ⅱ. 調査結果

		職場、学校 などで嫌が らせやいじ めを受ける こと	交際や結婚 を反対され ること	就職・職場 で不利な扱 いを受ける こと	差別的な言 葉を言われ ること	アパートな どへの入居 を拒否され ること	宿泊などの 施設の利用 や、店舗な どへの入店 を拒否され ること	風習や習慣 などの違い が受け入れ られないこ と	じろじろ見 られたり、 避けられ たりするこ と	その他	特にない	無回答
沖縄県		15.4	13.1	15.9	22.1	12.9	7.3	20.8	14.7	1.8	48.9	2.0
全国（R4）		19.1	12.3	22.1	19.5	12.5	5.1	27.8	18.8	2.2	38.3	1.5
性別	男性	13.6	11.2	12.8	18.5	11.3	5.9	17.6	12.7	1.8	50.4	2.1
	女性	16.8	14.7	18.2	24.7	14.3	8.3	23.5	16.3	1.6	47.7	2.0
年代	10代	20.0	11.6	13.2	33.7	8.4	8.4	18.9	10.0	1.1	51.1	0.5
	20代	14.7	10.3	18.9	25.3	12.4	9.7	23.4	16.8	0.5	44.5	0.5
	30代	19.6	12.0	17.4	25.7	15.8	10.8	23.4	17.0	2.6	47.7	0.8
	40代	16.3	13.9	17.2	23.3	14.4	5.6	26.2	17.7	2.2	44.2	1.4
	50代	14.3	13.9	16.3	19.5	13.9	6.3	20.5	13.6	1.9	47.5	2.4
	60代	11.8	13.7	13.6	17.4	11.6	5.5	15.8	11.8	1.3	53.3	4.7
	70代以上	14.2	15.3	12.5	17.7	9.7	6.9	14.6	13.9	2.4	58.3	1.4
性年代 （男性）	10代	18.6	4.7	5.8	23.3	7.0	7.0	11.6	7.0	-	58.1	1.2
	20代	11.6	4.5	18.7	22.6	11.0	7.7	12.3	11.6	1.3	46.5	1.3
	30代	15.5	12.2	14.9	22.7	18.8	9.9	21.0	14.9	2.8	43.1	1.1
	40代	19.8	8.4	14.3	21.6	12.1	4.8	23.1	17.2	1.5	42.5	0.7
	50代	12.3	15.7	12.6	17.2	11.9	7.3	21.8	12.3	2.3	49.4	2.3
	60代	8.2	12.7	10.1	13.1	8.2	3.0	14.2	10.8	1.5	58.6	4.5
	70代以上	11.3	16.1	10.5	12.1	7.3	3.2	9.7	9.7	2.4	61.3	2.4
性年代 （女性）	10代	22.2	18.2	20.2	44.4	10.1	10.1	26.3	13.1	2.0	42.4	-
	20代	17.2	14.5	19.5	27.6	13.6	11.3	31.7	20.8	-	42.1	-
	30代	21.7	12.1	19.1	27.7	14.3	11.5	25.2	18.5	1.9	51.0	0.6
	40代	13.6	18.3	19.8	23.9	16.8	5.9	28.6	18.3	2.4	44.8	2.1
	50代	16.3	12.8	18.4	20.6	15.3	5.6	20.0	14.4	1.6	46.6	2.5
	60代	14.6	14.6	16.3	20.9	14.3	7.4	17.2	12.0	1.1	49.6	4.9
	70代以上	16.7	14.8	14.2	22.2	11.7	9.9	18.5	17.3	2.5	55.6	0.6
居住地域	北部	20.9	14.9	12.2	25.0	8.1	6.1	20.9	16.9	1.4	48.0	1.4
	中部	17.6	14.5	15.9	24.3	14.4	8.7	19.9	17.2	1.9	46.7	2.3
	南部	12.5	11.8	16.1	20.2	12.7	6.6	21.9	12.1	1.7	50.6	1.7
	宮古	10.2	8.5	16.9	16.1	10.2	4.2	16.9	13.6	1.7	55.1	2.5
	八重山	15.1	12.3	20.8	19.8	15.1	5.7	21.7	15.1	2.8	50.9	3.8
出身地	沖縄県内	14.9	13.8	15.0	22.5	11.2	6.8	21.1	14.6	1.5	49.3	2.2
	沖縄県外	11.9	6.5	12.7	16.2	10.8	4.2	17.7	11.2	1.5	58.5	-
	日本国外	26.9	14.4	29.6	28.2	38.9	17.6	23.1	21.8	3.7	30.1	0.9

7 ハイトスピーチに関する人権問題について

Q12 特定の民族や国籍の人々を排斥する不当な差別的言動が、一般的に「ハイトスピーチ」といわれています。あなたはこのハイトスピーチについて、見聞きしたことはありますか。
(〇はいくつでも)

- ハイトスピーチの見聞きの有無について、「テレビ・ラジオや新聞、インターネットなどの報道で見たり聞いたりしたことがある」が 45.7%で最も多く、次いで「見聞きしたことがない」が 34.5%、「インターネット上の書き込みを直接見たことがある」が 23.0%となっている。
- 全国調査と比較すると、「インターネット上の書き込みを直接見たことがある」が 7.6 ポイント高く、「テレビ・ラジオや新聞、インターネットなどの報道で見たり聞いたりしたことがある」が 10.5 ポイント低くなっている。



≪傾向と分析≫

- 出身地別にみると「テレビ・ラジオや新聞、インターネットなどの報道で見たり聞いたりしたことがある」が沖縄県内 47.5%、沖縄県外 48.5%、日本国外 29.2%、「見聞きしたことがない」が沖縄県内 33.8%、沖縄県外 35.8%、日本国外 37.5%、「インターネット上の書き込みを直接見たことがある」沖縄県内 22.6%、沖縄県外 24.2%、日本国外 30.1%となっている。
- 本問では、「デモや集会、街宣活動などで直接見たり聞いたりしたことがある」、「インターネット上の書き込みを直接見たことがある」及び無回答において、男性の方が高い。
- なお、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」(平成 28 年法律第 68 号)の前文には、「我が国においては、近年、本邦の域外にある国又は地域の出身であることを理由として、適法に居住するその出身者又はその子孫を、我が国の地域社会から排除することを煽動する不当な差別的言動が行われ、その出身者又はその子孫が多大な苦痛を強いられるとともに、当該地域社会に深刻な亀裂を生じさせている。」とあり、「適法に居住する」という文言が記載されているが、「沖縄県差別のない社会づくり条例」ではそのような文言の記載はない。

Ⅱ. 調査結果

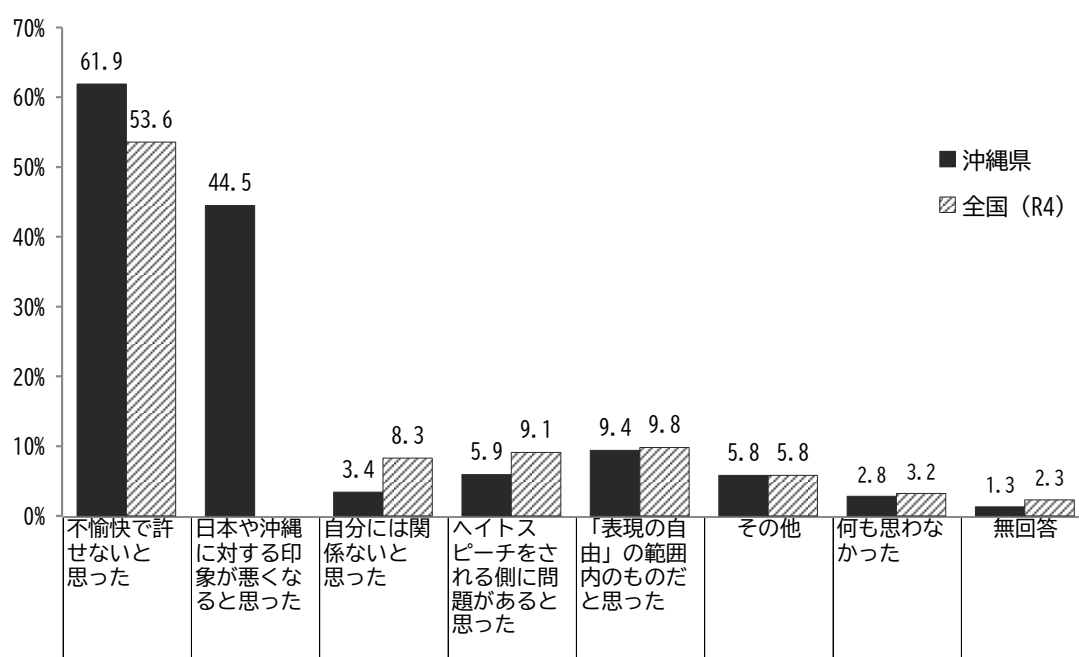
		デモや集会、街宣活動などで直接見たり聞いたことがある	インターネット上の書き込みを直接見たことがある	テレビ・ラジオや新聞、インターネットなどの報道で見たり聞いたことがある	ポスターや冊子などで見たことがある	家族、友人などから聞いたことがある	その他	見聞きしたことがない	無回答
沖縄県		14.6	23.0	45.7	6.4	7.7	1.0	34.5	2.4
全国（R4）		13.7	15.4	56.2	3.3	4.2	1.1	29.4	1.3
性別	男性	17.6	24.7	42.1	5.9	7.0	0.7	34.0	3.0
	女性	12.4	21.6	48.5	6.7	8.2	1.3	34.7	1.9
年代	10代	3.2	25.3	29.5	2.1	6.3	1.6	47.9	1.1
	20代	13.2	24.7	28.4	7.1	5.5	1.1	45.8	1.1
	30代	13.2	29.5	43.7	6.0	8.8	0.8	35.1	2.0
	40代	18.3	28.7	46.3	7.2	8.5	0.5	34.4	0.8
	50代	16.8	23.3	48.9	5.9	8.8	1.0	30.2	2.9
	60代	16.3	15.5	56.4	7.4	5.8	1.0	29.7	2.1
	70代以上	11.1	11.5	51.7	6.3	10.4	2.1	29.9	8.0
性年代（男性）	10代	4.7	25.6	27.9	2.3	5.8	-	50.0	2.3
	20代	14.8	24.5	26.5	5.8	5.2	-	43.2	2.6
	30代	14.9	33.1	43.6	7.2	9.9	-	27.6	5.5
	40代	20.9	27.5	36.3	6.2	3.7	0.4	38.1	1.1
	50代	21.8	28.7	46.4	7.3	9.2	2.3	26.4	2.3
	60代	18.7	16.8	52.6	7.1	4.5	0.7	31.0	2.6
	70代以上	16.1	15.3	51.6	0.8	14.5	-	33.1	7.3
性年代（女性）	10代	2.0	24.2	30.3	2.0	7.1	3.0	47.5	-
	20代	12.2	25.3	30.3	8.1	5.9	1.8	46.6	-
	30代	12.4	27.7	44.3	5.4	8.3	1.3	38.5	-
	40代	15.3	29.8	54.0	7.7	11.5	0.6	31.0	0.6
	50代	13.1	18.1	50.9	5.0	8.8	-	33.4	3.4
	60代	14.6	14.6	59.6	7.2	6.9	1.1	28.9	1.7
	70代以上	7.4	8.6	51.2	10.5	7.4	3.7	27.8	8.6
居住地域	北部	14.2	17.6	49.3	8.8	12.8	0.7	34.5	3.4
	中部	12.5	24.4	47.3	6.2	7.4	0.8	34.6	1.9
	南部	17.1	22.8	43.4	6.2	7.2	1.3	34.4	2.6
	宮古	7.6	19.5	44.9	2.5	3.4	-	39.0	3.4
	八重山	17.0	26.4	48.1	9.4	9.4	1.9	30.2	1.9
出身地	沖縄県内	13.8	22.6	47.5	6.4	7.3	0.8	33.8	2.4
	沖縄県外	19.2	24.2	48.5	6.2	5.0	1.9	35.8	1.2
	日本国外	16.7	30.1	29.2	7.4	16.2	1.9	37.5	1.4

8 ハイトスピーチを見聞きして感じたこと

Q12_1 Q12で「1.～6.」を選択した方へ

ハイトスピーチについて、見聞きしてどのように思いましたか。(〇はいくつでも)

- ハイトスピーチを見聞きして思ったことについて、「不愉快で許せないと思った」が 61.9%で最も多く、次いで「日本や沖縄に対する印象が悪くなったと思った」が 44.5%となっている。「不愉快で許せないと思った」について、年代でみると、50代 70.1%、60代 74.9%、70代以上 70.4%と50代以上の割合が高くなっている。
- 全国調査と比較すると、「不愉快で許せないと思った」が 8.3ポイント高くなっている。



≪傾向と分析≫

- 全国調査と比較すると、「自分には関係ないと思った」が 4.9ポイント、「ハイトスピーチをされる側に問題があると思った」が 3.2ポイント低くなっている。「自分には関係ないと思った」が 50代では 1.3%、70代以上では 1.1%、「ハイトスピーチをされる側に問題があると思った」が 70代以上では 1.7%となっている。
- 「その他」として「なぜハイトスピーチをするに至ったのか、理由や背景を知りたい」「異文化や習慣に対する理解がない、視野が狭い人だと感じた」等があった。

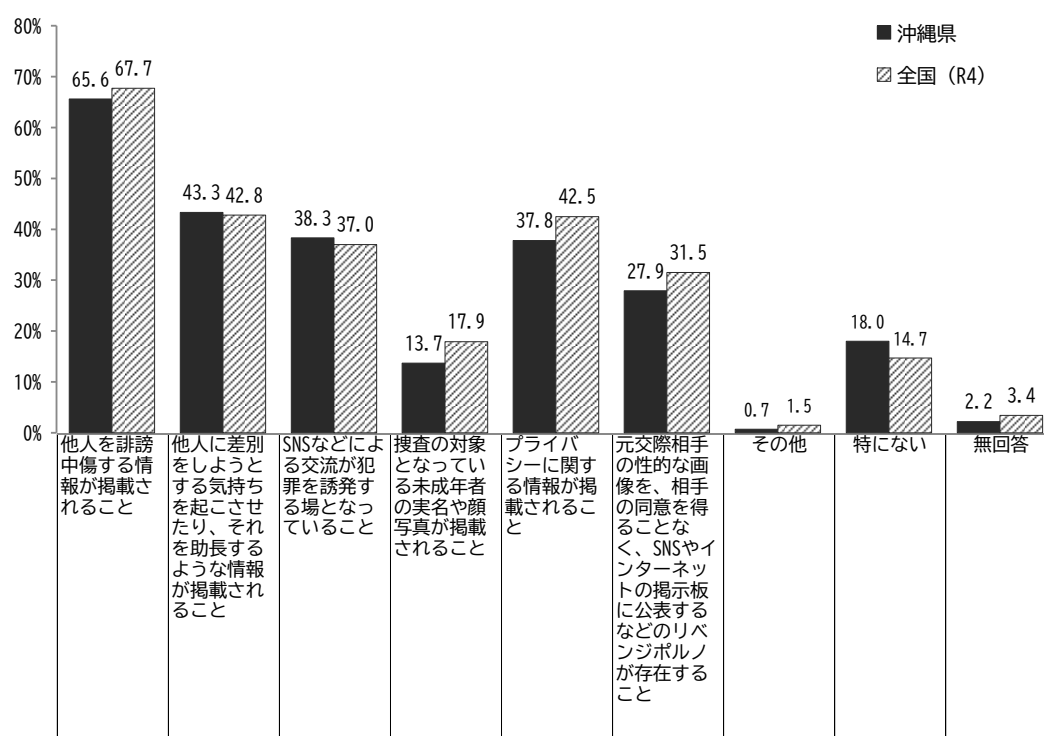
Ⅱ. 調査結果

		不愉快で許 せないと思 った	日本や沖縄 に対する印 象が悪くな ったと思っ た	自分には関 係ないと思 った	ヘイトス ピーチをさ れる側に問 題があると思 った	「表現の自 由」の範囲 内のものだ と思った	その他	何も思わな かった	無回答
沖縄県		61.9	44.5	3.4	5.9	9.4	5.8	2.8	1.3
全国（R4）		53.6	-	8.3	9.1	9.8	5.8	3.2	2.3
性別	男性	60.8	49.3	3.5	7.3	10.7	4.1	2.6	0.2
	女性	62.7	41.6	3.3	5.1	8.4	6.6	2.8	2.2
年代	10代	56.7	48.5	4.1	8.2	12.4	3.1	6.2	-
	20代	50.5	39.6	7.4	4.0	9.4	5.9	3.0	1.0
	30代	46.8	45.2	3.8	7.0	14.0	10.8	5.7	1.3
	40代	55.9	40.1	3.9	6.2	11.8	10.1	4.2	0.2
	50代	70.1	46.4	1.3	6.3	7.6	3.8	2.3	0.8
	60代	74.9	45.5	3.3	6.9	6.6	1.4	-	1.2
	70代以上	70.4	49.7	1.1	1.7	5.0	3.4	-	5.6
性年代 （男性）	10代	46.3	48.8	4.9	14.6	9.8	4.9	4.9	-
	20代	44.0	57.1	8.3	9.5	13.1	2.4	-	-
	30代	45.5	50.4	3.3	9.1	22.3	3.3	3.3	-
	40代	50.6	41.0	2.4	5.4	11.4	11.4	6.6	-
	50代	72.0	47.3	1.6	5.9	9.1	3.2	2.7	-
	60代	75.8	51.1	4.5	9.0	5.6	-	-	-
	70代以上	71.6	58.1	2.7	1.4	4.1	2.7	-	2.7
性年代 （女性）	10代	65.4	51.9	3.8	3.8	11.5	1.9	3.8	-
	20代	55.1	27.1	6.8	-	6.8	8.5	5.1	1.7
	30代	47.7	42.0	4.1	5.7	8.8	15.5	7.3	2.1
	40代	60.8	40.9	5.2	6.9	12.5	6.9	2.6	0.4
	50代	67.3	46.0	1.0	6.9	6.4	4.5	2.0	1.5
	60代	74.0	41.7	2.5	5.4	7.4	2.5	-	2.1
	70代以上	68.9	44.7	-	1.9	5.8	3.9	-	7.8
居住地域	北部	65.2	52.2	4.3	3.3	6.5	4.3	2.2	1.1
	中部	62.0	41.8	3.2	7.8	10.7	5.4	3.2	1.2
	南部	62.0	45.5	3.2	4.6	8.7	6.6	2.7	1.4
	宮古	60.3	41.2	5.9	4.4	7.4	2.9	2.9	1.5
	八重山	52.8	44.4	2.8	9.7	12.5	6.9	-	2.8
出身地	沖縄県内	62.6	44.8	3.3	5.8	9.6	5.7	2.8	1.3
	沖縄県外	61.0	44.5	4.3	7.9	5.5	6.7	3.7	-
	日本国外	58.3	47.0	3.0	3.0	11.4	6.8	3.0	-

9 インターネットに関する人権問題について

Q13 あなたが、インターネットに関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- インターネットに関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことについて、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が 65.6%で最も多く、次いで「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」が 43.3%となっている。
- 全国調査と比較すると、「プライバシーに関する情報が掲載されること」が 4.7 ポイント低くなっている。



≪傾向と分析≫

- 「特になし」、「無回答」以外は全ての項目で男性より女性の割合が高い。特に「プライバシーに関する情報が掲載されること」、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」において、女性の割合が高い。
- 「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」については、男性が 59.0%であるのに対し、女性は 70.8%となっている。中でも、10 代から 40 代は全て 70%台を超えており、40 代では 77.9%に達している。
- リベンジポルノとして立法化(私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律(平成 26 年法律第 126 号))もされている「元交際相手の性的な画像を…」の項目については、男性が 23.5%、女性が 31.3%であるが、10 代については、男性が 16.3%であるのに対し、女性は 34.3%となっており男女差が大きい。
- 「その他」としては「AI などを使ったフェイクニュースやポルノ画像・動画を作り出されたり、それが SNS等で拡散、共有されること」等があった。

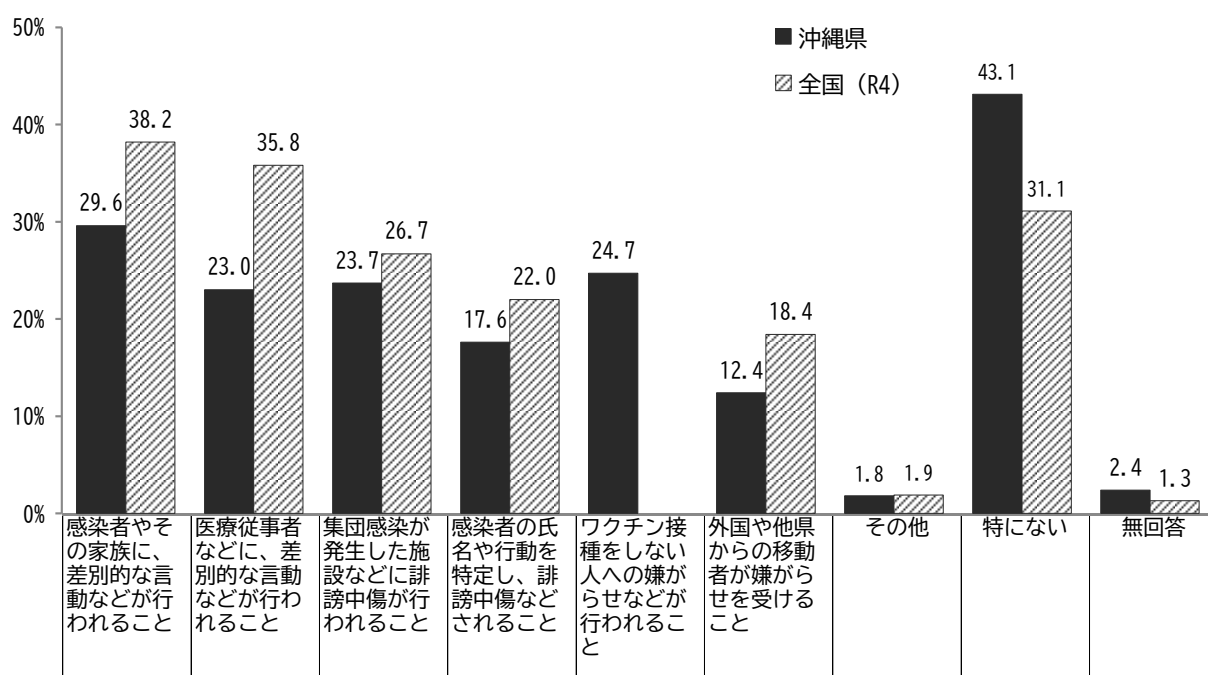
Ⅱ. 調査結果

		他人を誹謗中傷する情報が掲載されること	他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること	SNSなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること	捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること	プライバシーに関する情報が掲載されること	元交際相手の性的な画像を、相手の同意を得ることなく、SNSやインターネットの掲示板に公表するなどのリベンジポルノが存在すること	その他	特になし	無回答
沖縄県		65.6	43.3	38.3	13.7	37.8	27.9	0.7	18.0	2.2
全国（R4）		67.7	42.8	37.0	17.9	42.5	31.5	1.5	14.7	3.4
性別	男性	59.0	37.9	34.1	9.6	30.7	23.5	0.7	22.2	2.4
	女性	70.8	47.5	41.7	16.8	43.0	31.3	0.8	14.4	2.2
年代	10代	65.3	31.1	21.6	10.0	33.2	25.3	-	23.2	1.1
	20代	67.1	42.6	29.2	11.6	37.9	28.4	0.5	16.8	1.6
	30代	69.7	53.1	40.9	18.0	43.1	33.3	1.0	14.0	0.8
	40代	71.3	52.0	41.1	16.6	39.4	34.4	0.3	13.6	1.1
	50代	67.1	45.0	41.8	13.6	40.4	26.8	1.0	17.7	1.9
	60代	62.4	35.7	41.4	12.1	36.3	22.0	0.6	19.9	3.4
	70代以上	49.0	29.5	38.5	9.7	26.7	20.1	1.7	29.2	7.3
性年代（男性）	10代	60.5	25.6	22.1	7.0	25.6	16.3	-	23.3	2.3
	20代	58.1	38.7	27.7	7.1	29.0	27.7	-	23.2	2.6
	30代	59.7	40.3	36.5	11.6	39.2	28.2	0.6	21.5	2.2
	40代	63.4	41.8	36.6	13.2	30.8	30.4	0.7	16.5	1.8
	50代	65.9	47.1	34.5	10.7	32.6	22.6	-	18.8	1.5
	60代	55.6	30.6	38.8	8.6	31.3	17.5	0.7	23.9	3.0
	70代以上	41.1	28.2	30.6	4.0	19.4	14.5	4.0	37.9	4.8
性年代（女性）	10代	71.7	36.4	22.2	13.1	40.4	34.3	-	20.2	-
	20代	74.7	46.2	30.8	14.9	44.8	29.4	0.9	10.9	0.9
	30代	75.2	59.9	43.3	21.3	45.2	36.0	1.3	9.9	-
	40代	77.9	60.2	44.8	18.9	44.5	38.1	-	10.9	0.6
	50代	67.2	44.4	47.5	16.3	47.2	30.3	1.9	17.2	2.2
	60代	67.9	39.8	43.6	14.9	40.4	25.5	0.6	16.3	3.7
	70代以上	55.6	30.9	45.1	14.2	32.7	24.7	-	21.6	9.3
居住地域	北部	64.2	43.9	36.5	14.2	39.9	27.0	0.7	19.6	3.4
	中部	66.0	42.8	38.2	14.7	37.6	28.1	0.8	19.3	2.0
	南部	66.4	43.7	39.2	12.4	37.2	28.4	0.7	15.7	2.3
	宮古	53.4	38.1	32.2	13.6	30.5	22.9	-	28.0	1.7
	八重山	68.9	47.2	40.6	18.9	51.9	25.5	1.9	16.0	1.9
出身地	沖縄県内	67.6	44.4	40.0	14.3	38.5	29.4	0.7	16.7	2.4
	沖縄県外	70.8	50.0	38.5	14.6	48.8	27.7	0.8	9.2	0.8
	日本国外	38.4	27.3	21.8	6.5	21.3	13.9	0.5	41.2	1.9

10 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について

Q14 あなたが、新型コロナウイルス感染症に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 新型コロナウイルス感染症に関して、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことについて、「特にない」が 43.1%で最も多く、次いで「感染者やその家族に、差別的な言動などが行われること」が 29.6%、「ワクチン接種をしない人への嫌がらせなどが行われること」が 24.7%となっている。
- 全国調査と比較すると、「医療従事者などに、差別的な言動が行われること」が 12.8 ポイント低くなっている。



≪傾向と分析≫

- 「特にない」、「無回答」以外は全ての項目で男性より女性のポイントが高い。特に「医療従事者などに、差別的な言動などが行われること」、「集団感染が発生した施設などに誹謗中傷が行われること」において、女性の割合が高い。
- 居住地域別では、北部と八重山が全体的に高い。
- 「特にない」が最も多く、全国は 31.1%であったのに対し、沖縄県は 43.1%と高い。
- 新型コロナウイルス感染症に関しては、沖縄県新型コロナウイルス感染症等対策に関する条例(令和 2 年沖縄県条例第 41 号)を策定し、不当な差別的な取扱また誹謗中傷をしてはならない(第 8 条第 3 項)旨定めている¹⁹。又、沖縄県の感染者数や死者数が突出して高く、連日報じられた時期があったが、「特にない」とした回答が最も多く、全国に比べても高い。県内の問題としては捉えられていないのかもしれない。

¹⁹ 県は特別サイトを設置しており、人権への配慮を呼びかけるページもある。

<https://www.pref.okinawa.jp/iryokenko/covid19/index.html>

<https://www.pref.okinawa.jp/iryokenko/covid19/1018247/1018250.html>

Ⅱ. 調査結果

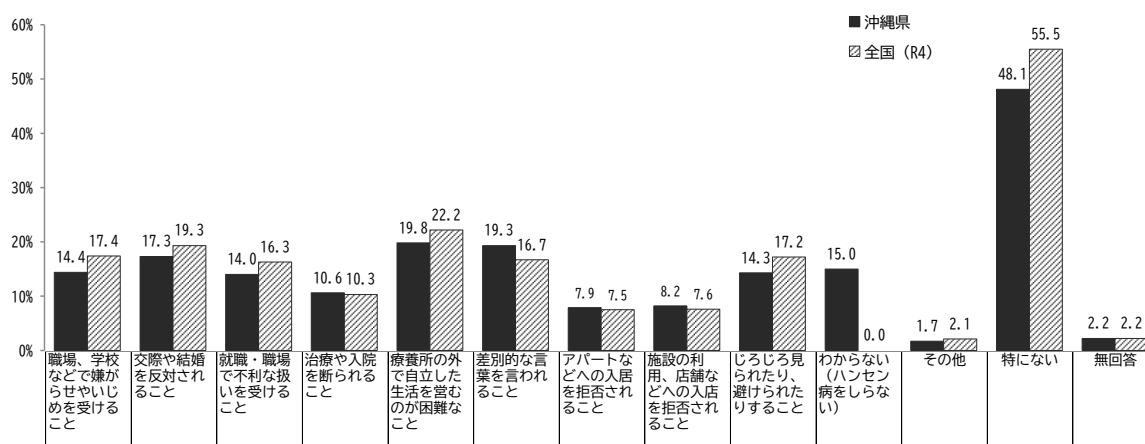
- 「ワクチン接種をしない人への嫌がらせなど」については、男女ともに 10 代が最も低く、10 代女性は 7.1%にとどまっている。一方、全体では 20 代から 40 代が高く、職場での問題であったことが予想される。
- 「医療従事者などに、差別的な言動などが行われること」については、全体では男性 17.0%であるのに対し、女性は 27.5%となっており、男性 70 代以上が 8.9%であるのに対し、女性 70 代以上は 26.5%となっている。
- 「その他」には「飲食店に対しての中傷」との回答があった。

		感染者やその家族に、差別的な言動などが行われること	医療従事者などに、差別的な言動などが行われること	集団感染が発生した施設などに誹謗中傷が行われること	感染者の氏名や行動を特定し、誹謗中傷などされること	ワクチン接種をしない人への嫌がらせなどが行われること	外国や他県からの移動者が嫌がらせを受けること	その他	特になし	無回答
沖縄県		29.6	23.0	23.7	17.6	24.7	12.4	1.8	43.1	2.4
全国（R4）		38.2	35.8	26.7	22.0	-	18.4	1.9	31.1	1.3
性別	男性	26.1	17.0	19.9	16.7	21.6	10.4	1.7	48.4	3.0
	女性	32.1	27.5	26.6	18.3	26.7	14.0	1.8	39.2	2.0
年代	10代	21.6	16.3	14.2	10.5	8.9	13.7	4.2	55.3	2.6
	20代	31.3	21.1	18.4	15.0	25.0	12.9	0.5	47.4	1.1
	30代	33.9	24.8	24.6	19.8	30.9	18.6	3.0	38.5	0.8
	40代	33.5	24.1	28.1	23.3	31.1	13.7	2.1	36.0	1.9
	50代	28.9	23.8	27.2	17.7	22.6	11.7	1.9	43.0	1.4
	60代	25.4	25.2	24.4	15.5	22.5	8.9	1.0	44.9	4.5
	70代以上	27.1	18.8	18.1	14.2	20.1	6.6	0.7	48.3	5.6
性年代（男性）	10代	19.8	7.0	8.1	9.3	11.6	4.7	4.7	57.0	5.8
	20代	28.4	14.2	13.5	12.9	20.0	11.6	-	57.4	2.6
	30代	28.2	18.2	19.3	16.6	23.2	13.8	2.2	45.9	2.2
	40代	28.2	21.2	23.8	23.4	26.7	12.5	2.6	38.8	3.3
	50代	26.4	18.8	23.8	16.9	19.5	9.6	1.5	48.7	0.8
	60代	22.0	18.7	22.4	17.2	24.6	11.2	1.5	47.8	4.5
	70代以上	28.2	8.9	15.3	11.3	14.5	4.0	-	55.6	3.2
性年代（女性）	10代	24.2	25.3	20.2	12.1	7.1	22.2	4.0	51.5	-
	20代	33.9	26.2	22.2	16.7	29.0	14.0	0.9	39.4	-
	30代	36.9	29.0	27.4	22.0	35.0	21.7	2.9	34.7	-
	40代	35.7	24.5	31.6	22.4	33.6	14.7	1.8	35.1	0.9
	50代	31.6	28.4	30.0	18.8	23.8	13.8	2.2	38.8	1.9
	60代	28.1	30.4	26.1	14.3	20.9	7.2	0.6	42.4	4.6
	70代以上	26.5	26.5	20.4	16.7	24.7	8.6	1.2	42.0	7.4
居住地域	北部	38.5	20.9	25.0	25.7	25.7	14.9	-	43.2	4.1
	中部	29.1	22.6	23.6	17.0	24.1	11.4	1.5	44.7	2.0
	南部	28.7	24.4	22.8	16.7	25.8	12.8	2.4	40.6	2.6
	宮古	22.0	16.9	19.5	11.0	16.1	13.6	1.7	58.5	0.8
	八重山	32.1	24.5	37.7	20.8	24.5	10.4	0.9	37.7	1.9
出身地	沖縄県内	30.1	23.6	23.6	17.9	24.3	11.2	1.6	43.0	2.4
	沖縄県外	34.6	28.8	36.5	21.9	28.8	20.0	2.7	35.0	0.8
	日本国外	22.7	6.9	10.2	9.3	24.1	18.1	3.2	52.8	2.3

11 ハンセン病患者や回復者及びその家族に関する人権問題について

Q15 あなたが、ハンセン病患者や回復者及びその家族に関して、体験したことや身の回りで見聞きしたことで人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- ハンセン病患者や回復者及びその家族に関して、体験したことや身の回りで見聞きしたことで人権問題だと思ったことについて、「特にない」が 48.1%で最も多く、次いで「療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」が 19.8%、「差別的な言葉を言われること」が 19.3%となっている。
- 全国調査と比較すると、「差別的な言葉を言われること」が 2.6 ポイント高くなっている。



≪傾向と分析≫

- 「特にない」、「無回答」以外は全ての項目で男性より女性の割合が高い。
- ハンセン病は、「赤道地域を中心に熱帯、亜熱帯地方に主に集中して」おり、「亜熱帯地方である沖縄も、ハンセン病患者の多発地域の一つであった。明治 39(1906)年の統計資料によると、沖縄以外の日本のハンセン病有病者が 23,149 人(対人口 1 万比 4.95)であったのに対し、沖縄は 670 人(対人口 1 万比 13.4)と、沖縄の有病率は 2.7 倍であった。²⁰⁾という歴史をもつ。又、沖縄県には国立療養所宮古南静園、国立療養所沖縄愛楽園がある。身近な問題である可能性があるが、全国よりもむしろやや値の低い項目が多い。
- 「その他」として、「身近で見聞きした経験がないのでわからない」との回答があった。

²⁰⁾ 山口さやか(琉球大学医学部皮膚科)「沖縄県のハンセン病の動向」IASR Vol. 39 2018 年 2 月号 6 頁

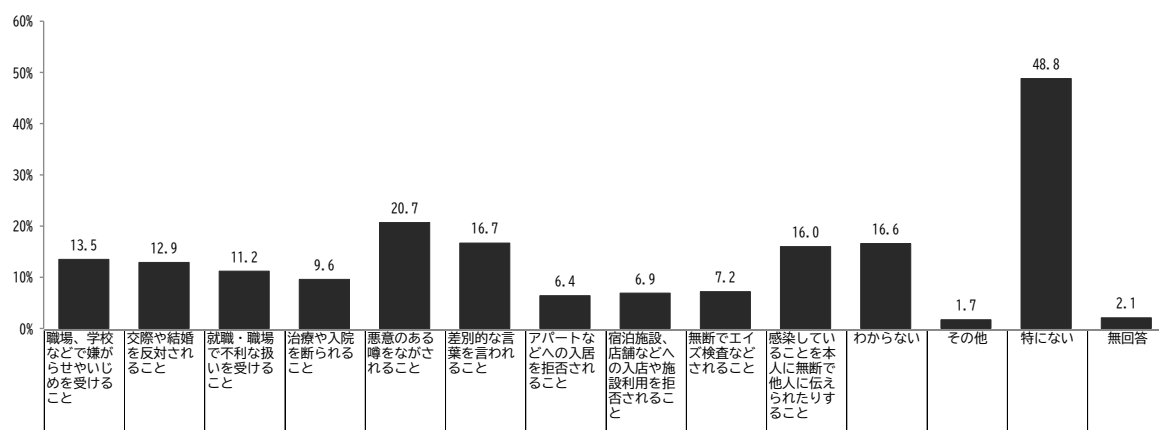
Ⅱ. 調査結果

		職場、学校 などで嫌が らせやいじ めを受ける こと	交際や結婚 を反対され ること	就職・職場 で不利な扱 いを受ける こと	治療や入院 を断られる こと	療養所の外 で自立した 生活を営む のが困難な こと	差別的な言 葉を言われ ること	アパートな どへの入居 を拒否され ること	施設の利 用、店舗な どへの入店 を拒否され ること	じろじろ見 られたり、 避けられ たりする こと	わからない (ハンセン 病をしらな い)	その他	特にな い	無回 答
沖縄県		14.4	17.3	14.0	10.6	19.8	19.3	7.9	8.2	14.3	15.0	1.7	48.1	2.2
全国（R4）		17.4	19.3	16.3	10.3	22.2	16.7	7.5	7.6	17.2	-	2.1	55.5	2.2
性別	男性	11.6	15.9	11.0	8.4	15.4	15.4	6.3	6.4	11.8	14.0	1.3	52.7	2.9
	女性	16.7	18.5	16.2	12.3	23.3	22.5	9.1	9.6	16.4	15.6	1.9	44.4	1.7
年代	10代	11.6	8.9	8.4	7.9	8.4	10.0	4.7	4.7	3.2	25.8	-	54.7	1.1
	20代	11.8	8.4	9.7	10.5	13.4	15.0	5.0	6.6	10.0	22.1	1.1	49.5	0.5
	30代	14.4	10.4	12.2	9.0	14.6	14.8	4.8	6.2	10.6	22.0	1.4	52.9	0.8
	40代	15.2	16.7	13.6	9.6	20.6	18.5	7.2	6.9	12.6	16.1	1.6	49.1	1.9
	50代	14.1	22.2	15.8	11.5	24.6	23.6	8.7	9.8	16.6	10.9	2.5	46.7	1.5
	60代	18.4	26.3	18.4	12.9	26.2	25.2	13.1	10.0	21.2	7.8	2.1	41.4	4.7
	70代以上	9.7	18.4	14.2	11.1	20.5	20.1	8.0	11.1	18.8	8.7	2.1	48.3	4.2
性年代 (男性)	10代	4.7	3.5	2.3	2.3	5.8	7.0	4.7	2.3	4.7	32.6	-	52.3	2.3
	20代	6.5	4.5	6.5	6.5	7.1	8.4	3.2	3.9	5.2	20.6	1.3	58.7	1.3
	30代	13.3	7.2	11.6	8.3	11.6	12.7	4.4	5.5	6.1	17.1	-	60.2	1.1
	40代	12.1	15.0	8.8	7.3	13.2	12.5	5.1	5.5	8.8	17.9	1.5	52.4	2.9
	50代	12.3	24.9	14.6	12.6	25.3	19.9	9.2	8.8	18.0	9.2	0.8	48.7	1.5
	60代	15.3	24.3	15.3	7.5	20.9	22.0	8.6	7.1	16.8	5.2	2.2	50.4	5.2
	70代以上	9.7	16.1	10.5	11.3	10.5	16.9	5.6	9.7	16.1	8.9	3.2	47.6	5.6
性年代 (女性)	10代	17.2	13.1	13.1	12.1	10.1	12.1	4.0	6.1	2.0	21.2	-	55.6	-
	20代	15.8	11.3	12.2	13.6	18.1	19.9	6.3	8.6	13.6	22.6	0.9	43.0	-
	30代	15.3	12.4	12.7	9.6	16.6	16.2	5.1	6.7	13.4	24.5	1.6	48.7	0.6
	40代	17.7	18.3	16.8	11.2	26.3	23.6	8.6	8.3	15.6	13.6	1.8	47.2	1.2
	50代	15.9	20.6	17.2	10.9	24.7	27.2	8.4	10.9	15.9	12.5	4.1	43.8	1.6
	60代	20.9	28.1	20.9	17.2	30.4	27.8	16.6	12.3	24.6	9.7	2.0	34.1	4.3
	70代以上	9.9	20.4	17.3	11.1	28.4	22.8	9.9	12.3	21.0	8.6	1.2	48.1	3.1
居住地域	北部	16.2	16.9	14.9	9.5	16.9	22.3	8.8	9.5	18.2	12.8	2.0	45.9	6.8
	中部	14.1	17.8	13.3	11.0	20.6	19.0	8.5	8.3	14.2	15.5	1.2	49.6	1.4
	南部	14.6	16.1	14.3	10.7	19.5	18.9	6.9	8.1	13.4	15.6	2.0	47.4	1.9
	宮古	11.0	22.9	13.6	11.0	25.4	21.2	6.8	4.2	13.6	8.5	-	49.2	3.4
	八重山	15.1	20.8	16.0	8.5	17.9	18.9	11.3	8.5	17.9	16.0	4.7	43.4	1.9
出身地	沖縄県内	15.3	19.0	14.6	10.9	21.2	20.7	8.3	8.5	15.2	14.1	1.7	46.8	2.3
	沖縄県外	14.2	16.2	15.4	12.3	18.8	18.8	8.1	8.8	16.9	16.5	3.1	50.8	-
	日本国外	6.0	3.2	6.0	5.1	6.0	6.5	4.2	4.2	4.6	24.1	-	58.3	2.8

12 HIV 感染者・エイズ患者及びその家族に関する人権問題について……………

Q16 あなたが、HIV 感染者・エイズ患者及びその家族に関して、体験したことや身の回りで見聞きしたことで人権問題だと思ったことはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

- HIV 感染者・エイズ患者及びその家族に関して、体験したことや身の回りで見聞きしたことで人権問題だと思ったことについて、「特にない」が 48.8%で最も多く、次いで「悪意のある噂をながされること」が 20.7%、「差別的な言葉を言われること」が 16.7%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「わからない」、「特にない」、「無回答」以外は全ての項目で男性より女性の割合が高い。
- 令和 6(2024)年のデータでは、沖縄県では HIV 発覚時点ですでにエイズを発症していたエイズ患者(「いきなりエイズ」)の割合が 63.6%であり²¹、全国平均の 2 倍を上回っている。このような状況が知られていない可能性がある。そのため、沖縄県では匿名・無料で検査を受けることができる保健所の検査について、WEB 予約を始めている。
- 「その他」として「身近で見聞きした経験がないのでわからない」との回答があった。

²¹ <https://ryukyushimpo.jp/news/entry-3975565.html> (最終閲覧 2025 年 3 月 14 日)

Ⅱ. 調査結果

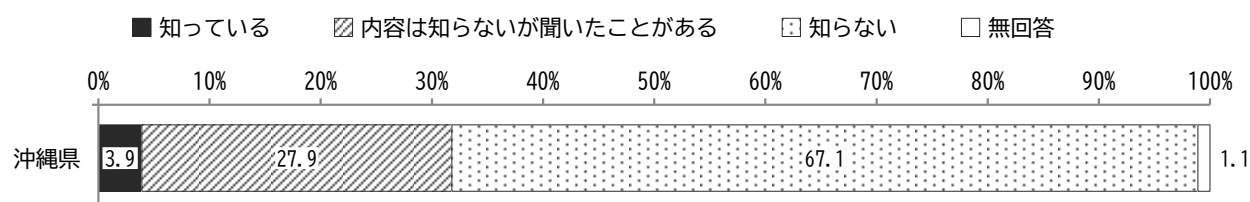
		職場、学校 などで嫌が らせやいじ めを受ける こと	交際や結婚 を反対され ること	就職・職場 で不利な扱 いを受ける こと	治療や入院 を断られる こと	悪意のある 噂をながさ れること	差別的な言 葉を言われ ること	アパートな どへの入居 を拒否され ること	宿泊施設、 店舗などへ の入店や施 設利用を拒 否されるこ と	無断でエイ ズ検査など されること	感染してい ることを本 人に無断で 他人に伝え られたりす ること	わからない	その他	特にない	無回答
沖縄県		13.5	12.9	11.2	9.6	20.7	16.7	6.4	6.9	7.2	16.0	16.6	1.7	48.8	2.1
性別	男性	9.7	9.9	7.7	6.6	16.5	12.7	4.8	5.0	4.9	11.2	17.2	1.3	53.1	2.7
	女性	16.6	15.2	14.1	11.8	24.2	19.9	7.7	8.4	8.9	19.8	16.1	2.0	45.4	1.7
年代	10代	14.7	11.6	8.4	10.5	20.0	15.8	5.3	5.3	5.3	14.7	18.9	-	52.6	1.1
	20代	15.5	13.2	12.6	8.9	24.2	17.6	6.6	6.6	5.5	15.0	15.8	1.1	45.5	0.5
	30代	13.4	10.6	10.4	8.8	17.2	16.6	5.2	6.8	6.8	15.2	20.6	1.6	50.5	0.4
	40代	13.4	15.3	10.2	9.3	23.6	16.9	6.2	6.5	7.8	20.3	16.7	1.3	45.8	1.9
	50代	14.9	13.1	13.2	9.5	20.2	17.7	7.5	7.6	7.5	16.0	14.3	2.9	49.9	2.0
	60代	12.4	14.1	12.8	10.8	20.5	15.7	7.3	6.5	7.9	15.3	16.8	1.9	47.5	4.4
	70代以上	9.4	9.7	8.0	9.7	18.8	17.0	5.9	9.0	8.3	11.8	13.2	2.1	54.9	3.5
性年代 (男性)	10代	2.3	7.0	2.3	4.7	11.6	9.3	2.3	2.3	2.3	9.3	29.1	-	50.0	2.3
	20代	9.0	7.7	7.1	5.8	15.5	10.3	1.9	1.9	1.9	10.3	10.3	1.3	57.4	1.3
	30代	8.3	6.6	5.5	5.0	9.4	9.4	3.3	4.4	3.3	7.7	24.9	1.1	57.5	1.1
	40代	10.3	10.6	5.9	4.8	20.5	12.5	3.3	4.8	4.8	17.6	19.4	0.7	46.2	2.9
	50代	14.2	13.4	10.7	7.7	19.5	16.1	7.3	6.1	6.9	11.5	11.9	1.5	54.0	2.3
	60代	9.7	11.2	11.2	9.0	19.0	13.4	7.5	7.1	6.7	10.4	15.3	2.2	53.7	4.5
	70代以上	7.3	8.1	5.6	8.1	11.3	14.5	4.8	5.6	4.8	5.6	16.9	1.6	54.8	4.0
性年代 (女性)	10代	26.3	16.2	14.1	16.2	28.3	22.2	8.1	8.1	8.1	20.2	11.1	-	52.5	-
	20代	20.4	17.2	16.7	11.3	30.8	23.1	10.0	10.0	8.1	18.6	19.0	0.9	37.1	-
	30代	16.6	13.1	13.4	10.5	22.0	20.4	6.4	8.3	8.9	19.7	18.5	1.9	47.1	-
	40代	16.5	18.6	14.2	12.7	26.5	20.6	8.3	8.3	9.4	22.1	14.2	1.8	46.0	1.2
	50代	15.9	13.1	15.6	11.3	21.3	19.4	7.8	9.1	8.1	20.0	15.9	4.1	45.9	1.9
	60代	14.6	16.3	14.0	12.3	21.8	17.5	7.2	6.0	8.9	19.2	18.1	1.7	42.4	4.3
	70代以上	11.1	11.1	9.9	11.1	24.7	19.1	6.8	11.7	11.1	16.7	10.5	2.5	54.3	3.1
居住地域	北部	16.2	11.5	13.5	10.1	22.3	17.6	6.1	6.1	8.8	17.6	16.9	1.4	44.6	6.1
	中部	13.8	14.5	12.1	11.0	20.6	17.5	7.1	7.0	7.9	16.5	15.9	0.9	48.8	1.5
	南部	12.7	12.1	10.1	8.5	20.3	15.9	5.9	6.8	6.5	15.1	17.3	2.6	49.1	1.6
	宮古	10.2	6.8	8.5	5.9	20.3	16.9	2.5	6.8	3.4	11.0	16.1	0.8	55.9	4.2
	八重山	17.0	14.2	13.2	9.4	24.5	17.0	10.4	10.4	8.5	22.6	16.0	1.9	47.2	1.9
出身地	沖縄県内	14.3	14.0	11.8	10.1	21.6	17.6	7.2	7.4	7.8	17.1	16.4	1.6	48.4	2.2
	沖縄県外	11.5	7.3	8.1	7.3	23.1	18.8	3.1	3.8	6.5	13.5	16.5	3.5	45.0	-
	日本国外	6.9	8.8	11.6	7.9	10.2	7.4	3.2	4.2	3.2	10.2	17.1	0.9	57.4	2.8

4 差別のない社会づくり条例に関すること

1 「沖縄県差別のない社会づくり条例」の認知度

Q17 あなたは「沖縄県差別のない社会づくり条例」を知っていますか。(○は1つ)

- 「沖縄県差別のない社会づくり条例」について、「知らない」が 67.1%、「内容は知らないが聞いたことがある」が 27.9%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「沖縄県差別のない社会づくり条例」について、「知らない」が 7 割弱となっており、今後、啓発活動を進める必要がある。
- 男女別で見ると、「知らない」が男性 67.0%、女性 67.2%となっている。「知らない」の割合が高いのは男性 10 代 80.2%、40 代 74.0%、女性 40 代 75.8%、30 代 73.9%である。
- 本邦外出身者への差別が対象となっているものの、日本国外出身者における認知度が高いわけではない。

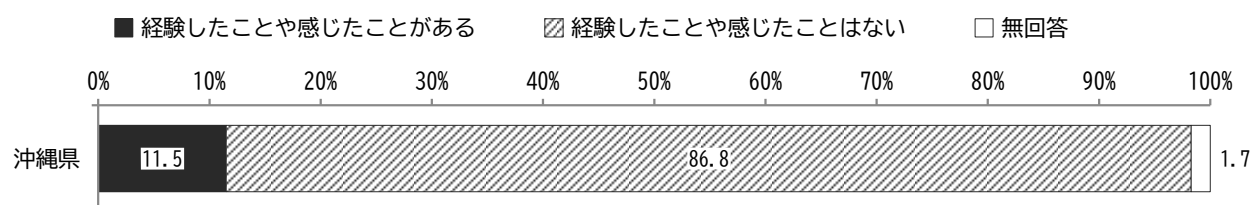
Ⅱ. 調査結果

		知っている	内容は知らないが聞いたことがある	知らない	無回答
沖縄県		3.9	27.9	67.1	1.1
性別	男性	4.7	26.7	67.0	1.7
	女性	3.1	28.9	67.2	0.7
年代	10代	5.3	21.1	73.2	0.5
	20代	5.0	28.2	65.8	1.1
	30代	2.6	25.3	71.3	0.8
	40代	2.6	22.2	74.3	1.0
	50代	3.6	30.1	66.0	0.3
	60代	5.3	32.3	60.3	2.1
	70代以上	4.2	34.7	59.0	2.1
性年代 (男性)	10代	7.0	11.6	80.2	1.2
	20代	3.9	24.5	69.0	2.6
	30代	3.3	29.3	66.3	1.1
	40代	1.8	22.7	74.0	1.5
	50代	5.0	27.2	67.8	—
	60代	7.8	30.6	59.3	2.2
	70代以上	4.8	33.9	56.5	4.8
性年代 (女性)	10代	4.0	27.3	68.7	—
	20代	5.9	31.2	62.9	—
	30代	2.2	23.2	73.9	0.6
	40代	2.1	21.5	75.8	0.6
	50代	2.5	32.5	64.4	0.6
	60代	3.4	33.8	60.7	2.0
	70代以上	3.7	35.8	60.5	—
居住地域	北部	4.1	29.7	62.8	3.4
	中部	3.4	28.0	67.9	0.8
	南部	4.2	26.8	68.0	1.0
	宮古	4.2	31.4	63.6	0.8
	八重山	4.7	32.1	62.3	0.9
出身地	沖縄県内	4.0	28.9	66.2	0.9
	沖縄県外	4.2	22.7	73.1	—
	日本国外	3.7	20.4	73.1	2.8

2 インターネット上の「不当な差別的言動」の経験有無

Q18 インターネット上の「不当な差別的言動」について、あなたが経験したことや、感じていることはありますか。(○は1つ)

- インターネット上の「不当な差別的言動」について、「経験したことや感じたことはない」が 86.8%、「経験したことや感じたことがある」が 11.5%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「経験したことや感じたことがある」の中で、男性 10.9%、女性 12.0%となっており、女性が若干上回っている。
- 沖縄県内出身者に比べて、県外、国外出身者が「経験したことや感じたことがある」とする割合が若干高い。

Ⅱ. 調査結果

		経験したこと や感じた ことがある	経験したこと や感じた ことはない	無回答
沖縄県		11.5	86.8	1.7
性別	男性	10.9	87.5	1.6
	女性	12.0	86.2	1.8
年代	10代	11.1	87.9	1.1
	20代	10.8	88.7	0.5
	30代	13.4	86.2	0.4
	40代	12.4	86.6	1.0
	50代	13.2	85.9	0.8
	60代	10.0	85.5	4.5
	70代以上	7.3	89.6	3.1
性年代 (男性)	10代	9.3	88.4	2.3
	20代	9.7	89.0	1.3
	30代	12.2	87.8	—
	40代	12.1	87.2	0.7
	50代	13.0	86.2	0.8
	60代	8.2	88.1	3.7
	70代以上	10.5	86.3	3.2
性年代 (女性)	10代	12.1	87.9	—
	20代	11.8	88.2	—
	30代	14.3	85.0	0.6
	40代	13.3	86.1	0.6
	50代	13.1	85.9	0.9
	60代	11.5	83.4	5.2
	70代以上	4.9	92.0	3.1
居住地域	北部	14.2	83.8	2.0
	中部	12.2	86.2	1.5
	南部	10.5	87.6	1.9
	宮古	8.5	89.0	2.5
	八重山	11.3	87.7	0.9
出身地	沖縄県内	11.2	87.1	1.7
	沖縄県外	15.4	84.6	—
	日本国外	12.0	86.1	1.9

Q18_1 Q18で「1.ある」を選択した方へ

具体的にどのようなことを経験したり感じたりしましたか。

(1) 経験したこと（回答 118 件）

- 沖縄県民に対するネガティブな書き込みや投稿を目にした。
- 外国の事件に関する記事について、その国の国民性を非難するコメントが書かれていたり、一個人の不祥事に対し、全国民を批判するような書き込みがされていた。
- 障害や病気を持つ人に対して誹謗中傷や根拠のない書き込みをする投稿、動画を見た。
- 性的マイノリティに対して「不良品である」「生産性のない人間」などといった投稿を見かけた。
- 一部マスコミやネットにおける沖縄県民の思考力や自立心等を軽視する等の非常に傾った報道やコメント。
- 実際に接点がない人物から聞いた話として、噂話を吹聴された。
- 匿名での誹謗中傷があり、負の連鎖が起こる。
- 沖縄県民について、あいつらは猿だから日本から追い出した方がいいと言われているのをネット上で見た。
- ネットによく投稿しているが、自分の投稿に対し、失礼だったり、恐怖を感じるコメントやメッセージを受けることがある。
- 基地問題や性暴力、選挙の前後などで、沖縄県民を侮辱するコメントをよく見る。
- 職業別の役職差での人格否定を受けた。この会社でこのくらいの役職ならその程度の人だと決めつけて話された。

(2) 感じたこと（回答 153 件）

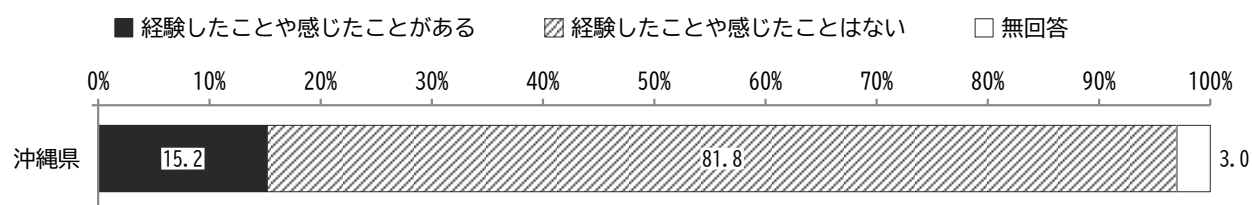
- 不愉快だった。
- 差別する側は、自分自身が差別される側になりうるとは思っておらず、他人事だと思っている気がする。
- 職業や役職だけで自分自身の全てを否定されたように感じた。自己肯定感が低くなった。
- その発言をした人に対して、無知でかわいそうな人だなと思った。
- 沖縄県民の民度が低いと言ったり、テレビで沖縄県民を「土人」といっている本土の人を見たことがあるが、人間として県民を下に見ていると感じました。
- 不当な差別的な言動だと思った。
- 怒りを感じたと共に、中々行動に移さない学校に絶望しました。
- ネットで沖縄のことを書くと、沖縄というだけで県外の人から文句を言われる。言われて嫌なこと沢山言われたけど思い出せない。
- 驚いた。ショックだった。
- ポータルニュースサイトの記事コメント欄にて、沖縄関連記事の内容に対し、沖縄県民を侮辱するようなコメントを見て、憤った。
- インターネットに記載されたことが、それを見た人に大きな影響を与えると感じる。間違った考え方が広がっていくのが怖いと思う。
- ネットニュースに対する書き込みなどで、相手を侮蔑するコメントは、ほぼ毎日目にしている。相手に対する配慮や思いやりが全く感じられず、不愉快な気持ちになる。

Ⅱ. 調査結果

3 「沖縄県民であることを理由とする不当な差別的言動」の経験有無

Q19 「沖縄県民であることを理由とする不当な差別的言動」について、あなたが経験したことや、感じていることはありますか。(○は1つ)

- 「沖縄県民であることを理由とする不当な差別的言動」について、「経験したことや感じたことはない」が81.8%、「経験したことや感じたことがある」が15.2%となっている。



		経験したこと や感じた ことがある	経験したこと や感じた ことはない	無回答
沖縄県		15.2	81.8	3.0
性別	男性	12.4	84.3	3.3
	女性	17.2	80.0	2.8
年代	10代	7.9	91.6	0.5
	20代	12.9	84.5	2.6
	30代	16.8	82.4	0.8
	40代	17.1	81.0	1.9
	50代	18.2	80.0	1.9
	60代	14.5	80.1	5.3
	70代以上	12.2	79.2	8.7
性年代 (男性)	10代	5.8	93.0	1.2
	20代	7.1	89.0	3.9
	30代	14.9	84.0	1.1
	40代	15.0	83.2	1.8
	50代	16.5	82.8	0.8
	60代	9.3	86.6	4.1
	70代以上	12.1	73.4	14.5
性年代 (女性)	10代	10.1	89.9	—
	20代	17.2	81.0	1.8
	30代	16.9	82.5	0.6
	40代	18.9	79.1	2.1
	50代	19.4	77.8	2.8
	60代	18.6	75.1	6.3
	70代以上	12.3	83.3	4.3
居住地域	北部	20.3	75.7	4.1
	中部	13.6	83.5	2.9
	南部	16.6	80.8	2.6
	宮古	10.2	84.7	5.1
	八重山	8.5	87.7	3.8
出身地	沖縄県内	16.6	80.7	2.8
	沖縄県外	11.9	87.3	0.8
	日本国外	6.9	90.3	2.8

Ⅱ. 調査結果

Q19_1 Q19 で「1. ある」を選択した方へ

具体的にどのようなことを経験したり感じたりしましたか。

(1) 経験したこと（回答 202 件）

- 「沖縄出身だから時間にルーズ」「怠け者」などと決めつけられた。
- 「沖縄の人は学力が低い」と言われた。
- 「日本語が話せるのか？」と聞かれたり、「パスポートで県外に来たのか？」などと聞かれ、沖縄は外国であるという扱いを受けた。
- 「米軍基地があるので国からの経済的支援を受けており、沖縄に基地があるのは仕方ない」というような内容の発言があった。
- 「沖縄県民だから、時間にルーズである」などのステレオタイプな視線がある。ほかにも、基地問題については、「沖縄のわがまま」だと声を上げることを抑圧している。
- 県外に住んでいる際に「本土の人よりも人権が低い」と言う扱いや言葉を言われた。
- 沖縄の良さは良いところも悪いところも合わさってチャンプルー文化だが、悪いところをクローズアップして言われているのを目にしたとき。
- 他県からの転入生の子に「沖縄にいたら学力が上がらないとお父さんが言っていた」と言われたと子どもが話していた。
- 「沖縄県民は怠け者、時間を守らない」とか言われる。
- 行動が遅かったら「沖縄タイムだから仕方ないよ」と言われた。

(2) 感じたこと（回答 200 件）

- 不快になった。
- 馬鹿にされている、見下されているように感じた。
- 悔しかった。許せないと思った。
- そういうイメージがあるのは構わないが、全ての県民がそうとは限らないと思う。
- 何で、沖縄のことを知らない、私のことも知らない人にそんなことを言われたいといけないのかと腹が立った。
- 相手のことを理解すれば、そんな言葉は出てこないから、言った人は後に自分を恥ずかしく思うことになると思う。
- 沖縄人とバカにされた時代もあったが、今は、県出身の有名人も多く活躍されていたり、沖縄も人気があり、以前の様な差別は少なくなっていると思う。
- 県の学力レベルが全国平均に比べて低かったのは事実でしたが、環境的な要因もあったので能力そのものが低いとは思わなかった。
- その時代を生きていないため本当のところがどうかは分からなかったが、気分は悪かった。

4 沖縄や沖縄県民に関する差別に関する考え

Q20 沖縄や沖縄県民に関する差別について、あなたのお考えがありましたらご記入ください。

(回答 400 件)

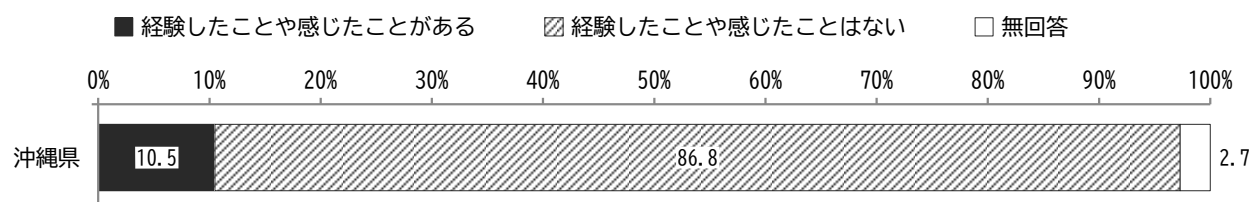
- 以前に比べると少なくなっていると思う。沖縄出身であることを羨ましがられたりする。
- 沖縄県外出身者を「ないちゃー」と沖縄出身の方が言うこと。
- 県外からの偏見も多々あるが、沖縄県民も県外の人に対して、偏見が多々ある。
- 自分の周りで偶然ないだけかもしれないけど、若い世代では沖縄に対する差別は全く感じたことがない。むしろ、リゾート、観光地としてのイメージが大きい気がする。羨ましいと言われることの方が多い。
- レジャーや観光に力を入れるのも良いが、もっと県民の生活や福祉、教育などの学びやすい、生きていきやすい県になれば、無駄にバカにはされないと思う。
- 沖縄は遠隔地にあり、差別を受けやすい環境にある。
- 沖縄県民でもやれることがあるので、我慢をしないで、発言をする。
- 私の夫は、沖縄出身ではなく、友達も県外の人が多いが、差別を感じたことはなく、沖縄県民であることをうらやましがられる。
- 本州の習慣や慣習に比べると異文化であることが多いため、「沖縄はこうだ」「田舎だから」と言われることが多いと感じるが、とくに沖縄の人だからと不利なことや差別を見たことはない。
- 収入の低さは、内地と比べて差別だと思います。
- 県民投票の無視、その他挙げればきりが無い程、沖縄県民は何かとかわいそうと常々思います。沖縄に本物の民主主義はあるのでしょうか。
- 沖縄県民が不当に差別されていることはない。私の経験では尊敬されることは多かったが、差別されたことは一度もない。周囲の県出身の優秀な人間もみな尊敬されていた。ダメな沖縄県人は罵声を浴びせられていたが、それは沖縄出身だからではなく、その人の人格によるもので差別ではなかった。(ダメなやつはどこ出身でも罵声を浴びせられていた。)沖縄県人が特に差別されていることはないと思う。沖縄県人は各分野で優秀である場合が多い。
- 差別をする人を変えることは難しい。沖縄県民として誇りを持つこと、自信をつけることができれば、差別に負けないと思う。
- 私の妹が大学で県外にいた際、沖縄県民であることを周りに伝えると、「沖縄の人は行動がおそい」と言われたことがあるそうです。沖縄県民だからと差別するような言動は良くないと思いました。
- 米軍基地の負担が沖縄に集中している状況が差別だと感じる。
- 沖縄県民に米軍基地の過重負担を強いていることも差別だと思う。
- 表面的な社会生活においては、沖縄県出身者であるということはプラス要因でしかありませんでした。しかし、ニュースや辺野古基地問題を見聞きし考える時、差別はあると思います。有無を言わず基地建設を押し付ける現状は、沖縄県民差別であると感じます。
- 本州よりも、子どもの貧困問題が深刻であるにも関わらず、余り関心をもたれていないこと。これが全ての根源だと考えています。教育の格差は、大人になったときの経済格差へ、さらには、その子どもたちの教育、経済格差へと連鎖していきます。県民は良くも悪くも、おっとりとしている。寛容であると感じます。差別と感じてさえいない、テレビや新聞の内容が全てだと受けとめているのではと思います。

Ⅱ. 調査結果

5 本邦外出身者などに対する「不当な差別的言動」の経験有無

Q21 本邦外出身者などに対する「不当な差別的言動」について、あなたが経験したことや、感じていることはありますか。(〇は1つ)

- 本邦外出身者などに対する「不当な差別的言動」について、「経験したことや感じたことはない」が86.8%、「経験したことや感じたことがある」が10.5%となっている。



≪傾向と分析≫

- 出身地別に見ると、「経験したことや感じたことがある」について、沖縄県内 8.7%、沖縄県外 20.4%、日本国外 25.9%であり、当事者の経験の割合が非常に高く、本邦外出身者の4人に1人が差別を経験している。
- 居住地域別では、北部が14.9%で最多、宮古が3.4%と最少となっている。

		経験したこと や感じた ことがある	経験したこと や感じた ことはない	無回答
沖縄県		10.5	86.8	2.7
性別	男性	9.9	87.2	2.9
	女性	11.1	86.5	2.4
年代	10代	9.5	90.0	0.5
	20代	10.0	87.9	2.1
	30代	10.8	88.8	0.4
	40代	15.8	82.5	1.8
	50代	10.4	88.5	1.2
	60代	7.4	87.6	5.0
	70代以上	7.3	85.1	7.6
性年代 (男性)	10代	7.0	91.9	1.2
	20代	9.0	88.4	2.6
	30代	9.4	89.5	1.1
	40代	14.3	83.5	2.2
	50代	10.3	88.9	0.8
	60代	7.5	88.4	4.1
	70代以上	8.9	80.6	10.5
性年代 (女性)	10代	12.1	87.9	—
	20代	10.9	87.3	1.8
	30代	11.8	88.2	—
	40代	17.1	82.0	0.9
	50代	10.6	88.4	0.9
	60代	7.4	86.8	5.7
	70代以上	6.2	88.3	5.6
居住地域	北部	14.9	81.8	3.4
	中部	11.3	86.6	2.2
	南部	9.5	87.6	2.9
	宮古	3.4	92.4	4.2
	八重山	10.4	86.8	2.8
出身地	沖縄県内	8.7	88.6	2.7
	沖縄県外	20.4	79.6	—
	日本国外	25.9	72.2	1.9

Q21_1 Q21 で「1. ある」を選択した方へ

具体的にどのようなことを経験したり感じたりしましたか。

(1) 経験したこと（回答 126 件）

- お店で「〇〇人お断り」等の掲示がされていたり、入店を断られた。
- 「国へ帰れ」と沖縄の人に言われた、または言っているのを見たことがある。
- 外国人に対する差別的な言葉を公然と話している人に会った。
- 外国人と言う見た目で差別を受けていたのを見たことがある。
- 外国籍の友人に対する発言。「あの人といて大丈夫なの？」とか。
- 子どもがインターナショナルスクールに通っていましたが、外国の父母の会話で、日本人の生徒をジャップと呼んでいたのを耳にしたことがある。
- 言葉が話せないからか、雑な扱いを受けているように見えた。
- その人個人の性格などの問題かもしれないのに、影で「全く、〇〇人は皆国へ帰ればいいのに！」とその国出身の人全てに対しての文句を同僚に言っていたこと。
- コンビニのレジをしていた外国人労働者にヘイトスピーチしていたおじさんを見かけた。

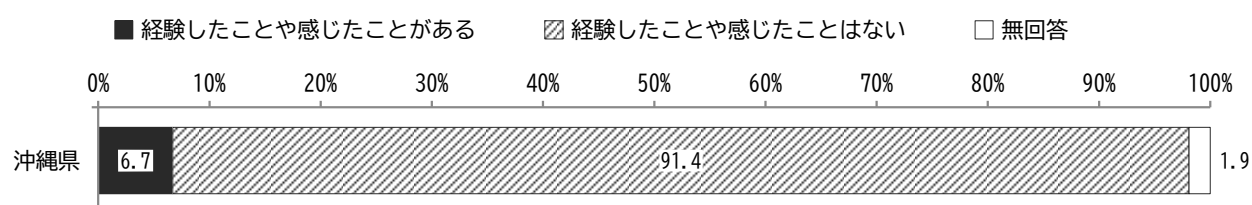
(2) 感じたこと（回答 136 件）

- 不愉快だった。悲しいと感じた。
- 米軍に対して反対することは理解できても、軍人個人を攻撃することは違和感を覚える。
- 差別的言動を発する人々は、視野が狭かったり、相互理解の不足があるように感じる。
- 審査する側、される側という有位な立場で公平性に欠けることはあってはならないと思う。人によって態度、対応が変わることが差別だと思う。
- 家庭でそのような話をしているのだろう。大人の態度が子に影響している。
- 排他的思考の人は、どの国にもいつの時代にもいるのだと感じ、悲しい。
- 上から目線で見下す様な発言や態度はあってはなりません。
- 差別的言動を発する人々は、経験が浅く、視野が狭いように思う。差別的な言動を見たり、聞いたりすると不快に感じる。
- 県民もそうだが、海外からの観光客でも差別的発言を日本人に対してすることに驚きを隠せない。
- 自分が差別されたり蔑称で呼ばれたら嫌だろうに。地球上で暮らす同じ人間と考えてほしい。
- 外国籍でなくても日本生まれの在日外国人の2世、3世でも差別されることがあるのは、不当だと思う。
- 旅行で楽しみに来る人や、勉強など学びに来てる人らに対してわざわざ差別や追い出すようなことをする意味がわからないし、逆の立場もしっかり考えて欲しい。
- 不愉快ではあるが、その元となっている問題について興味も感じた。

6 性的指向又は性自認を理由とする不当な差別の経験有無

Q22 「性的指向又は性自認を理由とする不当な差別」について、あなたが経験したことや、感じていることはありますか。(○は1つ)

- 「性的指向又は性自認を理由とする不当な差別」について、「経験したことや感じたことはない」が91.4%、「経験したことや感じたことがある」が6.7%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「経験したことや感じたことがある」につき、女性の割合は男性よりも高い。
- 年代別に見ても、男性10代は2.3%であるのに対し、女性10代は18.2%、男性30代では3.3%であるのに対し、女性30代は11.8%であるなど、全ての年代において女性の経験が高い。
- 出身地別では、「経験したことや感じたことがある」について、沖縄県内6.6%、沖縄県外11.5%、日本国外4.6%であった。
- 労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律(昭和41年法律第132号)に基づく厚生労働省告示²²では、職場におけるパワーハラスメントとして「相手の性的指向・性自認に関する侮辱的な言動」(SOGI ハラスメント)、「労働者の性的指向・性自認や病歴、不妊治療等の機微な個人情報について、当該労働者の了承を得ずに他の労働者に暴露すること」(アウティング)が含まれている。本問で問われている差別はこれらのハラスメントとも関わりがあると言える。

²² 「事業主が職場における優越的な関係を背景とした言動に起因する問題に関して雇用管理上講ずべき措置等についての指針」(令和2年厚生労働省告示第5号)

Ⅱ. 調査結果

		経験したことや感じたことがある	経験したことや感じたことはない	無回答
沖縄県		6.7	91.4	1.9
性別	男性	3.3	94.7	2.0
	女性	8.8	89.3	1.9
年代	10代	11.1	85.3	3.7
	20代	7.1	92.4	0.5
	30代	8.6	90.6	0.8
	40代	8.6	90.4	1.0
	50代	5.9	91.5	2.5
	60代	4.2	92.9	2.9
	70代以上	2.4	94.8	2.8
性年代 (男性)	10代	2.3	94.2	3.5
	20代	5.2	93.5	1.3
	30代	3.3	95.6	1.1
	40代	6.2	93.8	-
	50代	2.3	94.3	3.4
	60代	1.9	95.9	2.2
	70代以上	0.8	95.2	4.0
性年代 (女性)	10代	18.2	77.8	4.0
	20代	8.6	91.4	-
	30代	11.8	87.6	0.6
	40代	9.7	88.5	1.8
	50代	7.8	90.3	1.9
	60代	6.0	90.5	3.4
	70代以上	3.7	94.4	1.9
居住地域	北部	7.4	91.2	1.4
	中部	7.1	91.5	1.4
	南部	6.3	91.4	2.3
	宮古	4.2	90.7	5.1
	八重山	5.7	92.5	1.9
出身地	沖縄県内	6.6	91.4	2.0
	沖縄県外	11.5	88.1	0.4
	日本国外	4.6	93.5	1.9

Q22_1 Q22で「1.ある」を選択した方へ

具体的にどのようなことを経験したり感じたりしましたか。

(1) 経験したこと（回答 68 件）

- 本人の同意なく他者に性的指向をばらされる。
- 同性同士でのスキンシップを見て「気持ち悪い」等の発言をしたり、同性同士の交際等について非難するのを聞いた。
- 日本では同性婚は法的に認められていないこと。
- 本人の承諾なく、あらぬ噂や誹謗中傷をしている人がいる。（本人は面白がって話をしている）
- 割と年配の方に理解がなされていない。会議の中で「絶対に認められない」と発言していた。
- 男女以外が恋愛したり、好きになるのは変、おかしいこと、と言っているのを聞くこと。
- 学校や生活のなかでも、無意識な差別偏見のある発言を見聞きした。
- 姉が同性と付き合ったことで家族が一時的に崩壊したが、その後数年経って異性と結婚・出産したことでまた家族仲が戻った。

(2) 感じたこと（回答 92 件）

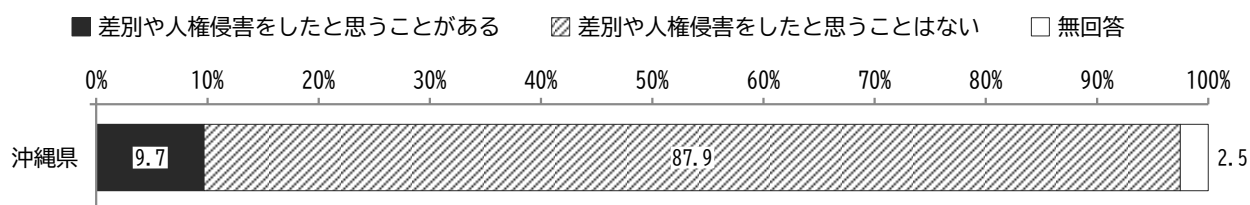
- 誰を好きになるか、自分自身をどう認識するかは、当人の自由である。
- 性的多様性を受け入れたくないという多様性があることも理解してほしい。
- （差別的な発言を聞いて）デリカシーがない人だと思った。不愉快だった。
- 性的指向に関しては、その人の自由だと思うが、相手に押しつけたり、差別をされたと騒いだりするのはよくない。性自認は、自認通りに扱ってあげられるところもそうでないところもあるため、生まれながらの性で扱われることも妥協してほしい。
- 性的マイノリティで生まれたくてそうなったわけでもなく、他人が「男だから、男を好きになってはダメ」など言う権利もない。それを理由にイジメや差別をしてやろうという考えをもつ人がいるというのを考えると気分が悪くなる。
- 同性婚を認めないこの国は、差別をし続けていると感じる。
- どのような性の人を好きになっても本人の自由と思う。
- 相談するのも勇気のいることだしすごいと思った。
- 必ずしも異性を好きになるとは限らないし、誰にも迷惑かけてないし、自分自身達の問題だから、その人の自由にさせてあげてほしい。

Ⅱ. 調査結果

7 差別や人権侵害の加害経験有無

Q23 あなたは、誰かに差別や人権侵害をしたと思うことはありますか。(〇は1つ)

- 誰かに差別や人権侵害をしたと思う経験について、「差別や人権侵害をしたと思うことはない」が87.9%、「差別や人権侵害をしたと思うことがある」が9.7%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「差別や人権侵害をしたと思うことがある」について、女性が全ての年代で割合が高い。実際に女性が多くに加害を行っているということではなく、女性は差別に対してセンシティブであるため、被害のみならず、加害についても自覚的であると思われる。

		差別や人権 侵害をした と思うこと がある	差別や人権 侵害をした と思うこと はない	無回答
沖縄県		9.7	87.9	2.5
性別	男性	7.1	90.1	2.7
	女性	11.5	86.2	2.3
年代	10代	12.6	84.7	2.6
	20代	10.5	87.4	2.1
	30代	13.2	86.4	0.4
	40代	13.2	83.9	2.9
	50代	8.0	89.8	2.2
	60代	5.2	91.3	3.6
	70代以上	6.3	91.3	2.4
性年代 (男性)	10代	9.3	87.2	3.5
	20代	7.7	91.0	1.3
	30代	9.4	89.5	1.1
	40代	9.9	87.9	2.2
	50代	6.1	90.8	3.1
	60代	3.7	92.5	3.7
	70代以上	4.8	90.3	4.8
性年代 (女性)	10代	16.2	81.8	2.0
	20代	12.7	84.6	2.7
	30代	15.0	85.0	-
	40代	15.9	80.5	3.5
	50代	9.1	89.4	1.6
	60代	6.3	90.3	3.4
	70代以上	7.4	92.0	0.6
居住地域	北部	10.8	85.8	3.4
	中部	9.9	87.9	2.2
	南部	9.7	87.8	2.6
	宮古	4.2	92.4	3.4
	八重山	10.4	88.7	0.9
出身地	沖縄県内	9.6	88.0	2.5
	沖縄県外	15.0	83.5	1.5
	日本国外	7.9	90.3	1.9

Ⅱ. 調査結果

Q23_1 Q23 で「1. ある」を選択した方へ

あなたが、誰かに差別や人権侵害をしたと思ったことについて具体的な内容を教えてください。

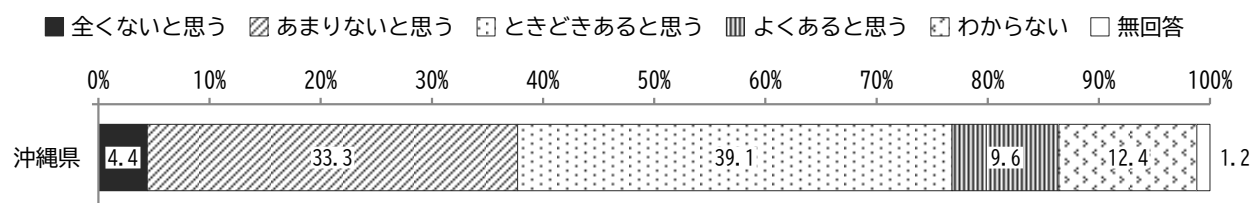
(回答 155 件)

- 特定の国の人に対して差別的な意識を持ったり、かかわりを避けたり、嫌な態度や言葉を出したりしてしまった。
- 子どものころ、障害がある方をからかったことがある。
- LGBTQ の人に、パートナーは異性であるという前提で「彼氏・彼女はいるか？」や「結婚しないのか？」などと聞いてしまった。
- 自分に自覚がなくても気付かないうちに差別的な発言をしてしまったことはあるかもしれないと思う。
- 沖縄県外出身の人に対して「内地に帰れ」などと言ってしまった。
- 無意識のうちにあったかもしれないと思う。
- 障害児に対してこのレベルの活動はむずかしいと勝手に判断した。
- 大変恥ずかしいことですが、私自身もマナーの悪い観光客が居ると、その地域(国)の人全体がそうでないはずなのに、「やっぱり〇〇人は駄目だな」と思ったり、一緒にいる友人と話したりすることがあります。猛省しなければなりません。
- 関東の人達は、自分達が優れていると思っている。沖縄人は、下にみている。
- 自分より弱いものをいじめたことがある。そのため、今も苦しんでいる。
- 中学生の頃まで、あだ名(相手に失礼なあだ名だった)で友だちを呼ぶことがあった。
- 仕事中に、誰もが対応可能な内容について対応できない人に、アドバイスをせず、別の仕事を依頼し、相手の能力を尊重しなかった。その際、相手を傷付けてしまった。
- 学生時代にいじめに加担してしまったこと。
- 自分自身が知らずに(無自覚)差別や人権侵害をしている可能性があることを否定できない。外国人に対し、その文化的な背景又は、価値観の違いがよくわからず、自分が持っている価値観で、事案を断じたりした。
- 後になって偏見であったのではないかと自問することがある。
- 子どもの頃、家の手伝いは女の子がやるもので男の子はやらなくていいと言われて、キレた。
- ある一部の国では習慣の違いやマナーの悪い方が多いので、そのあたりからの観光客を見ると余り関わりたくないと思ってしまいます。
- 本土の人をいい人だと思っていなかった。実際に嫌がらせをしたとかではないけれど、第二次世界大戦などの影響で本土のいいイメージが持てなかった。
- 過去に性別は男性、性自認が女性の友人に対して、「性自認が女性なら恋愛対象は男性だろう」というような決めつけをしてしまい、LGBTQ などセクシャルマイノリティについて詳しく考えたことがなかったとは言え、不愉快な思いをさせてしまったと思う。セクシャリティも含め、好みや考え方、宗教など、他人と違うことを叩いたり、勝手に決めつけたりするのは差別につながると思う。

8 県民における外国人への偏見や差別の有無

Q24 あなたは沖縄県において、県民による外国人への偏見や差別があると思いますか。(○は1つ)

- 県民による外国人への偏見や差別の有無について、「ときどきあると思う」が39.1%で最も多く、次いで「あまりないと思う」が33.3%、「わからない」が12.4%となっている。



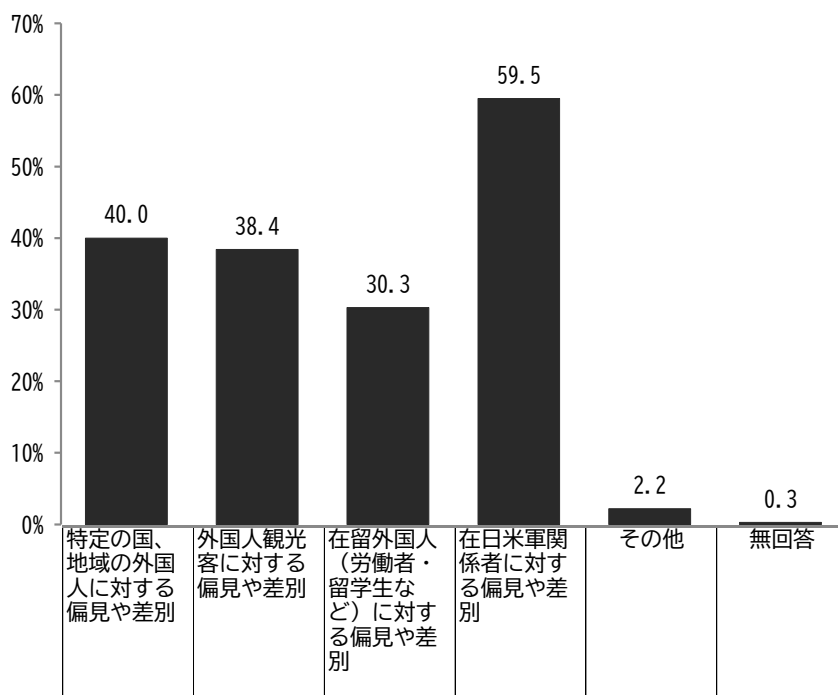
		全くない と思う	あまりない と思う	ときどき ある と思う	よくある と思う	わからない	無回答
沖縄県		4.4	33.3	39.1	9.6	12.4	1.2
性別	男性	5.5	34.3	36.1	10.2	12.7	1.1
	女性	3.5	32.9	41.0	9.1	12.1	1.3
年代	10代	2.1	35.3	32.6	12.6	14.7	2.6
	20代	3.9	28.7	40.3	12.6	13.9	0.5
	30代	4.4	21.6	49.3	13.6	10.6	0.4
	40代	4.3	25.5	45.5	12.3	12.1	0.3
	50代	4.8	34.6	38.5	8.0	12.9	1.2
	60代	3.9	47.2	30.0	4.5	12.4	1.9
	70代以上	7.3	43.4	30.6	5.2	10.8	2.8
性年代 (男性)	10代	4.7	26.7	32.6	14.0	18.6	3.5
	20代	3.2	28.4	43.2	12.9	11.0	1.3
	30代	6.6	25.4	42.0	19.3	5.5	1.1
	40代	5.9	28.6	41.4	10.3	13.9	-
	50代	6.1	37.2	32.2	7.3	15.7	1.5
	60代	4.5	43.3	31.0	6.7	13.8	0.7
	70代以上	7.3	47.6	28.2	4.8	10.5	1.6
性年代 (女性)	10代	-	41.4	32.3	12.1	12.1	2.0
	20代	4.5	29.4	38.9	12.7	14.5	-
	30代	3.2	19.7	53.5	9.9	13.7	-
	40代	2.4	23.6	48.4	13.9	11.2	0.6
	50代	3.8	33.4	42.2	8.8	10.9	0.9
	60代	3.4	49.9	29.5	2.9	11.5	2.9
	70代以上	7.4	40.7	32.7	5.6	9.9	3.7
居住地域	北部	4.1	33.8	41.2	8.1	11.5	1.4
	中部	3.6	32.5	42.3	10.5	9.9	1.2
	南部	4.9	34.3	36.0	9.2	14.4	1.2
	宮古	5.1	38.1	32.2	4.2	19.5	0.8
	八重山	8.5	24.5	40.6	13.2	12.3	0.9
出身地	沖縄県内	3.7	34.5	38.6	10.0	11.9	1.3
	沖縄県外	3.8	25.4	41.2	10.8	18.8	-
	日本国外	11.1	30.6	42.6	6.5	8.3	0.9

Ⅱ. 調査結果

9 県民による外国人への偏見や差別の状況

Q24_1 Q24で「3. ときどきあると思う」「4. よくあると思う」を選択した方へ
あなたは、県民による外国人への偏見や差別をどんな場面で感じますか。
(〇はいくつでも)

- 県民による外国人への偏見や差別を感じる場面について、「在日米軍関係者に対する偏見や差別」が59.5%、「特定の国、地域の外国人に対する偏見や差別」が40.0%となっている。



≪傾向と分析≫

- 「在日米軍関係者に対する偏見や差別」について、性別年代別では、男性が全体 59.9%、10代 50.0%、20代 60.9%、30代 59.5%、40代 58.9%、50代 68.9%、60代 55.4%、70代以上 63.4%となっている。女性は全体 59.7%、10代 79.5%、20代 62.3%、30代 67.3%、40代 63.5%、50代 55.2%、60代 43.4%、70代以上 43.5%となっている。10代女性のポイントが最も高く、60代、70代以上の女性のポイントが最も低い。
- 基地については、沖縄県の米軍基地問題についての理解度について、「とてもよく理解しており説明ができる」、「なんとなくは理解はしており簡単な説明はできる」の割合が全国では 30.4%であるのに対し、沖縄県では 62.1%に及んでいる²³。基地に対する理解度の高さも関係していると思われる。
- 「その他」として、「バイレイシャル(2つの人種的ルーツを持つ人のこと)に対する偏見や差別」の回答があった。

²³ 令和 5 年度 沖縄の米軍基地問題に対する認知度のアンケート調査 【報告書】(令和 6 年 3 月沖縄県知事公室 基地対策課) 27 頁 https://www.pref.okinawa.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/017/344/240331_hyosi-35.pdf (最終閲覧 2025 年 3 月 6 日)

		特定の国、 地域の外国人 に対する 偏見や差別	外国人観光 客に対する 偏見や差別	在留外国人 （労働者・ 留学生な ど）に対す る偏見や差 別	在日米軍関 係者に対す る偏見や差 別	その他	無回答
沖縄県		40.0	38.4	30.3	59.5	2.2	0.3
性別	男性	35.3	37.1	29.4	59.9	2.4	0.6
	女性	43.0	39.1	30.6	59.7	2.0	0.1
年代	10代	34.9	30.2	19.8	66.3	-	-
	20代	35.8	37.3	29.9	61.7	2.0	1.0
	30代	35.0	44.3	32.2	63.7	3.5	0.6
	40代	38.1	43.4	33.4	61.0	2.5	0.3
	50代	38.7	33.9	32.5	60.2	1.5	-
	60代	52.8	39.3	27.6	49.1	2.3	-
	70代以上	52.4	22.3	24.3	51.5	1.9	-
性年代 （男性）	10代	32.5	32.5	20.0	50.0	-	-
	20代	32.2	34.5	26.4	60.9	-	2.3
	30代	23.4	41.4	35.1	59.5	6.3	1.8
	40代	32.6	48.2	36.2	58.9	3.5	-
	50代	36.9	37.9	36.9	68.9	1.9	-
	60代	48.5	29.7	19.8	55.4	1.0	-
	70代以上	51.2	9.8	12.2	63.4	-	-
性年代 （女性）	10代	38.6	29.5	20.5	79.5	-	-
	20代	38.6	39.5	32.5	62.3	3.5	-
	30代	40.2	44.7	30.2	67.3	1.0	-
	40代	41.7	40.3	30.3	63.5	1.9	0.5
	50代	39.3	30.7	30.1	55.2	1.2	-
	60代	56.6	47.8	34.5	43.4	3.5	-
	70代以上	53.2	30.6	32.3	43.5	3.2	-
居住地域	北部	43.8	35.6	19.2	63.0	4.1	-
	中部	42.4	40.6	30.4	61.1	2.0	0.3
	南部	37.6	36.9	31.8	57.6	1.9	0.3
	宮古	32.6	34.9	30.2	46.5	4.7	2.3
	八重山	33.3	38.6	40.4	61.4	1.8	-
出身地	沖縄県内	39.2	37.2	27.6	62.2	2.0	0.2
	沖縄県外	34.1	50.4	31.1	59.3	4.4	-
	日本国外	54.7	43.4	65.1	38.7	3.8	1.9

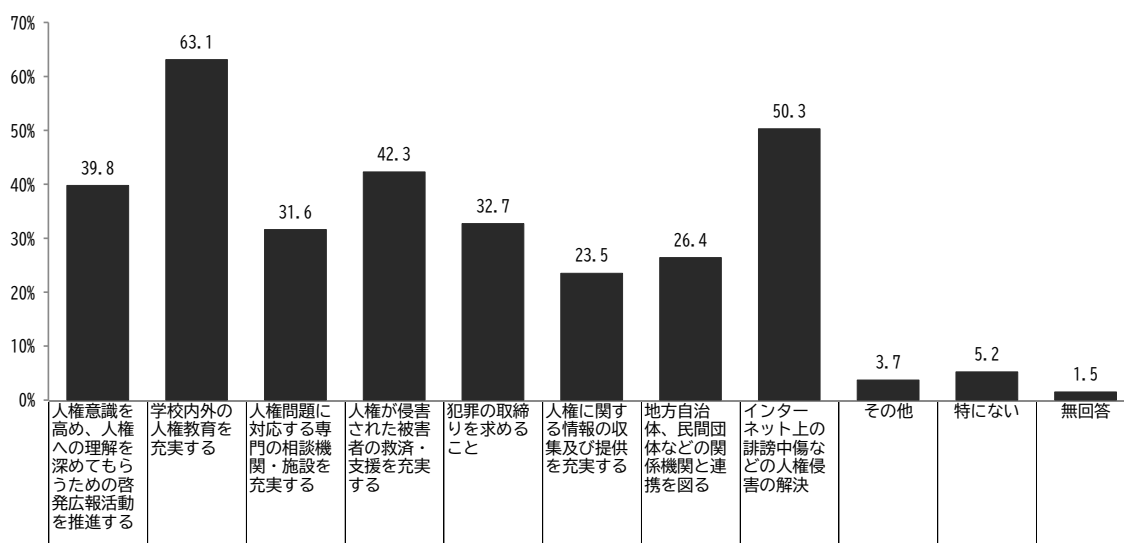
Ⅱ. 調査結果

5 差別のない社会をつくるための取組みについて

1 人権問題の解決に向けて、力を入れて取り組むこと

Q25 あなたは、人権問題の解決に向けて、今後沖縄県は、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。（〇はいくつでも）

- 人権問題の解決に向けて、今後沖縄県が力を入れるべきことについて、「学校内外の人権教育を充実する」が 63.1%で最も多く、次いで「インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決」が 50.3%となっている。



≪傾向と分析≫

- 最上位の「学校内外の人権教育の充実」については、令和 4(2022)年に内閣府が実施した、人権擁護に関する世論調査(以下「R4 内閣府人権世論調査」という。)と同一であったが、「インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決」の割合が 2 番目に高いことが特徴的である。古賀(2023)²⁴では、インターネット上の人権侵犯事件の処理件数は平成 25(2013)年以降増加を続け、直近は年間 1600 件前後で高止まりしていることを報告している。総務省が令和 5(2023)年に三菱総合研究所に委託実施した「インターネット上の違法・有害情報に関する流通実態アンケート調査」²⁵でも、過去 1 年間に何らかの SNS サービスを利用したと回答した者の内 65%が「他人を傷つけるような投稿(誹謗中傷)」を目撃したと回答している。本調査でも Q12「ヘイトスピーチ」に関して、「インターネット上の書き込みを直接見たことがある」の割合が R4 内閣府人権調査よりも 7.6 ポイント高く、Q19「『沖縄県民であることを理由とする不当な差別的言動』について経験したこ

²⁴ 古賀雅士 (2023). インターネット上における誹謗中傷等の違法・有害情報への対策の現状と課題—総務省誹謗中傷 WG における議論— 立法と調査, 461 号, 123-137.

²⁵ 総務省 (2023). 「インターネット上の違法・有害情報に関する流通実態アンケート調査【誹謗中傷等】」 総務省プラットフォームサービスに関する研究会 誹謗中傷等の違法・有害情報への対策に関するワーキンググループ (第 10 回) 資料

https://www.soumu.go.jp/main_content/000909496.pdf (2025 年 3 月 10 日閲覧)

とや感じたことがある」の割合が15.2%に上っている。これらの結果を考慮すると、インターネット上のいわゆる「沖縄ヘイト」との関わりなど、インターネット上の人権侵害の解決がより重要な課題として認知されていることを示唆する結果と考えられる。

- 「その他」の回答内容に見られる「お互いのことを知る機会や交流する機会を作る」は、社会心理学における人種的偏見の解消に関する「接触理論」(Allport, 1954²⁶; 山内, 1996²⁷)と軌を一にする。すなわち、偏見や差別を解消するには、お互いに相手と交流し、知ることが重要であることを示していると言える。
- また、「相談しやすい環境づくり」については、次の Q26 の質問への回答にも第 2 位に「相談所や電話相談窓口を充実させること」が上がっていることから、より気軽に相談できる場を求めていることが伺える。
- 性別では、全ての回答の割合は女性の方が男性より高く、とりわけ「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」、「人権問題に対応する専門の相談機関・施設を充実する」、「地方自治体、民間団体などの関係機関と連携を図る」で 8 ポイント以上の性差が見られた。性差については、愛知県が令和 4(2022)年に実施した人権に関する県民意識調査²⁸の結果で、女性の方が男性より自分の人権が侵害されたと思った経験の割合が 5.8 ポイント高いことを報告している。岐阜県²⁹、高知県³⁰、鹿児島県³¹による人権に関する県民意識調査の結果では男女差は余りないものの、いずれも女性の方がわずかに経験率が高い。これらの知見に鑑みると、本調査の結果は、女性の方が男性より人権侵害されたと思う経験をしやすいことを示唆している可能性が考えられる。
- 年代別では、全ての回答の割合は、全般に 10、20 代より 30 代以上の中高年層が高い傾向が認められたが、10 代では「インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決」が全ての年代の中で最も高くなっていた。
- 居住地域別では、中部が「学校内外の人権教育を充実する」と「インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決」の割合が高く、八重山は「人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する」、「人権問題に対応する専門の相談機関・施設を充実する」、「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」、「犯罪の取締りを求める」、「人権に関する情報の収集及び提供を充実する」、「地方自治体、民間団体などの関係機関と連携を図る」が他地域に比べて最も高かった。八重山地域の人々は他地域に比べて、人権問題全般に関する沖縄県の活動や体制、対策を求めるニーズが高いと言える。

²⁶ Allport, G. W. (1954). *The nature of prejudice*. Cambridge MA: Addison-Wesley. Diener, E. D., Emmons, R. A., Larsen, R. J., & Griffin, S. (1985). The satisfaction with life scale. *Journal of personality assessment*, 49(1), 71-75.

²⁷ 山内隆久 (1996). 偏見解消の心理-対人接触による障害者の理解- ナカニシヤ出版

²⁸ 愛知県 (2023). 「2022 年度人権に関する県民意識調査【結果報告書】」
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/451085.pdf> (2025 年 3 月 10 日閲覧)

²⁹ 岐阜県 (2022). 「令和 3 年度人権に関する県民意識調査 (令和 3 年 10~11 月調査実施)」調査報告書
<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/292903.pdf> (2025 年 3 月 10 日閲覧)

³⁰ 高知県 (2023). 「令和 4 年度人権に関する県民意識調査」調査報告書
https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2022081700189/file_contents/file_2023324143844_1.pdf (2025 年 3 月 10 日閲覧)

³¹ 鹿児島県 (2024). 「令和 5 年度人権についての県民意識調査」調査報告書
https://www.pref.kagoshima.jp/ab16/documents/111903_20240227212233-1.pdf (2025 年 3 月 10 日閲覧)

II. 調査結果

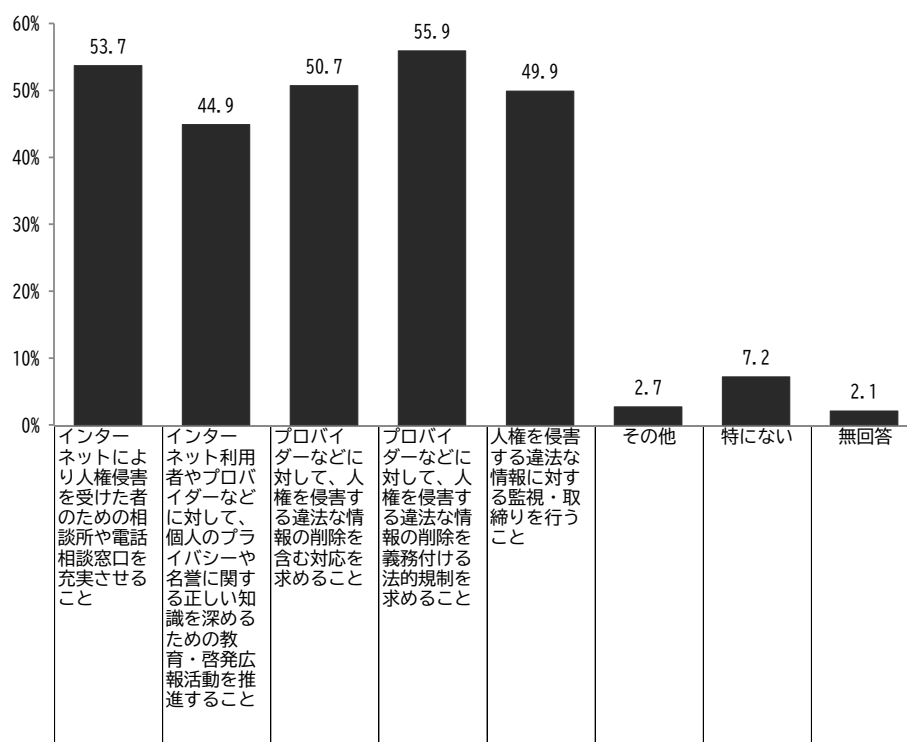
- 出身地別にみると、沖縄県内出身者は「学校内外の人権教育を充実する」、「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」、「犯罪の取締りを求める」が他出身地よりも 5 ポイント以上高くなっていた。また、日本国外出身者では「人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する」が日本国内出身者(沖縄県内・外)よりも 13.5 ポイント以上高くなっていた。日本国外出身者は日本国内出身者より、Q21「本邦外出身者などに対する「不当な差別的言動」について経験したことや感じたことがある」の割合が 5 ポイント以上高いことから、不当な差別的言動を身近に経験したことを背景に、人権問題への啓発広報活動の必要性をより強く感じていることが推察される。

		人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する	学校内外の人権教育を充実する	人権問題に対応する専門の相談機関・施設を充実する	人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する	犯罪の取締りを求めること	人権に関する情報の収集及び提供を充実する	地方自治体、民間団体などの関係機関と連携を図る	インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決	その他	特になし	無回答
沖縄県		39.8	63.1	31.6	42.3	32.7	23.5	26.4	50.3	3.7	5.2	1.5
性別	男性	37.6	60.1	26.2	37.0	31.5	19.9	21.6	46.8	4.7	6.4	1.2
	女性	41.4	65.5	35.5	46.7	33.7	25.9	30.0	53.1	3.0	4.0	1.6
年代	10代	26.8	63.2	28.9	40.0	32.6	18.9	15.8	57.4	5.3	7.4	-
	20代	27.9	60.8	21.6	32.4	28.2	17.6	21.1	43.9	3.7	8.9	1.1
	30代	40.3	68.1	30.9	38.9	38.3	21.6	26.5	52.3	3.4	4.2	-
	40代	32.4	65.7	29.3	37.5	36.5	23.0	23.8	48.3	5.3	4.1	1.0
	50代	47.0	61.1	36.0	46.7	31.2	29.2	29.2	51.8	4.1	5.3	1.7
	60代	48.0	63.8	35.4	48.5	30.5	23.6	32.0	52.7	1.5	3.7	2.3
	70代以上	47.9	55.6	35.4	51.7	27.8	27.1	29.2	48.3	3.8	4.9	4.5
性年代 (男性)	10代	23.3	65.1	20.9	29.1	26.7	14.0	10.5	58.1	9.3	7.0	-
	20代	26.5	56.8	15.5	32.3	29.0	21.3	22.6	36.1	6.5	12.9	2.6
	30代	42.0	60.8	23.8	33.1	38.1	17.1	21.5	49.7	5.0	6.6	-
	40代	27.5	59.0	22.0	30.8	36.6	14.7	20.5	41.0	5.1	7.0	0.7
	50代	45.6	63.2	36.8	44.4	31.8	29.9	23.4	50.2	3.8	4.6	-
	60代	44.4	61.6	28.0	40.3	26.9	18.7	23.1	52.6	1.9	4.1	1.5
	70代以上	46.0	53.2	29.0	44.4	25.0	20.2	23.4	41.9	5.6	5.6	4.8
性年代 (女性)	10代	30.3	64.6	35.4	49.5	39.4	22.2	21.2	57.6	2.0	6.1	-
	20代	29.4	63.8	26.2	33.0	28.1	15.4	20.4	49.3	1.8	5.4	-
	30代	38.5	72.0	34.7	42.7	38.2	23.9	29.0	53.8	2.5	2.9	-
	40代	36.0	71.1	34.8	44.0	37.5	28.9	25.7	55.2	5.6	1.8	0.6
	50代	48.1	59.1	35.6	47.8	29.7	28.8	34.1	52.5	4.4	5.9	3.1
	60代	50.4	65.3	40.7	55.0	33.5	27.5	39.0	52.4	1.1	3.4	2.9
	70代以上	49.4	58.0	40.7	58.0	30.2	32.7	34.0	53.7	2.5	3.7	4.3
居住地域	北部	39.2	62.2	24.3	37.8	27.7	19.6	22.3	45.9	6.1	5.4	2.0
	中部	41.9	67.7	33.4	43.1	33.1	23.8	26.0	53.5	4.5	5.1	1.1
	南部	37.5	60.1	31.4	42.5	33.1	24.1	26.5	49.0	2.4	4.9	1.9
	宮古	40.7	55.9	24.6	37.3	28.0	18.6	33.1	46.6	1.7	8.5	0.8
	八重山	46.2	58.5	40.6	49.1	40.6	27.4	34.0	46.2	5.7	4.7	-
出身地	沖縄県内	39.7	65.5	33.0	44.4	34.1	24.2	27.2	52.4	3.2	4.6	1.3
	沖縄県外	34.2	59.2	23.8	38.1	28.8	25.4	23.8	48.1	5.8	6.5	1.5
	日本国外	53.2	49.5	28.7	30.6	17.1	15.3	21.8	30.6	7.4	11.6	0.9

2 インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決に向けて、力を入れて取り組むこと・

Q26 インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決に向けて、沖縄県は、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。（〇はいくつでも）

- インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決に向けて、沖縄県が力を入れるべきことについて、「プロバイダーなどに対して、人権を侵害する違法な情報の削除を義務付ける法的規制を求めること」が 55.9%で最も多く、次いで「インターネットにより人権侵害を受けた者のための相談所や電話相談窓口を充実させること」が 53.7%となっている。



≪傾向と分析≫

- R4 内閣府人権世論調査と比較すると、最上位の結果は同一であるが、第 2 位の相談所や電話相談窓口の充実、R4 内閣府人権世論調査では第 4 位であった。県に力を入れてほしい取組として、人権侵害を受けた者が、より直接に被害相談できる場を設置してほしいというニーズが高いと言える。
- 性別では、「その他」、「特になし」、「無回答」を除く全ての回答の割合で女性の方が男性より高いことを示しており、中でも「プロバイダーなどに対して、人権を侵害する違法な情報の削除を義務付ける法的規制を求めること」の割合が男性より 11.6 ポイントも高かった。R4 内閣府人権世論調査で示された 7.9 ポイントの性差よりも大きい。女性の割合が高い回答傾向は一貫していた。
- 年代別では、30 代以上の中高年層は 50%以上が「相談所や相談窓口の充実」に力を入れる必要があると考えており、R4 内閣府人権世論調査では 40 代以上で同様の回答率であった。10 代では「人権を侵害する違法な情報に対する監視・取締り」に力を入れることが最も割合が高かったが、R4 内閣府人権世論調査では年代による割合の差は少なく、全年代で 50%以上の割合を示していた。

Ⅱ. 調査結果

- 居住地域別では、中北部は「プロバイダーなどに対して、人権を侵害する違法な情報の削除を義務付ける法的規制を求めること」の割合が他の回答と比べて最も高く、南部・宮古・八重山は「相談所や電話相談窓口を充実させること」の割合が他の回答と比べて最も高かった。
- 出身地別にみると、日本国内出身者（沖縄県内出身者および沖縄県外出身者）は「プロバイダーなどに対して、人権を侵害する違法な情報の削除を義務付ける法的規制を求めること」の割合が他の回答よりも高かった。日本国外出身者は「相談所や電話相談窓口を充実させること」の割合が他の回答よりも高かったが、それでも半数に満たない 40.7%に留まっていた。むしろ「特にない」の回答が約 20%近くあることが目に付く。Q12「ヘイトスピーチの見聞」に関して、「インターネット上の書き込みを直接見た」ことがある割合が日本国内出身者より 5.9 ポイント以上高く、「家族、友人などから聞いた」ことがある割合も 8.9 ポイント以上高かった。Q21「本邦外出身者などに対する差別的言動の経験」も 5.5 ポイント以上高かった。一方で Q24「沖縄県民による外国人への偏見や差別」については、「全くないと思う」が日本国内出身者よりも 7.3 ポイント以上高い。これらを考え合わせると、日本国外出身者については、インターネット上の人権侵害への対策として、選択肢にあるような取組の必要性を感じている一方で、人権侵害が直接自分自身に向けられたものでない場合には、沖縄県に対して特定の取組に力を入れた方が良いとは思っていないことが示唆されていると言える。

Ⅱ. 調査結果

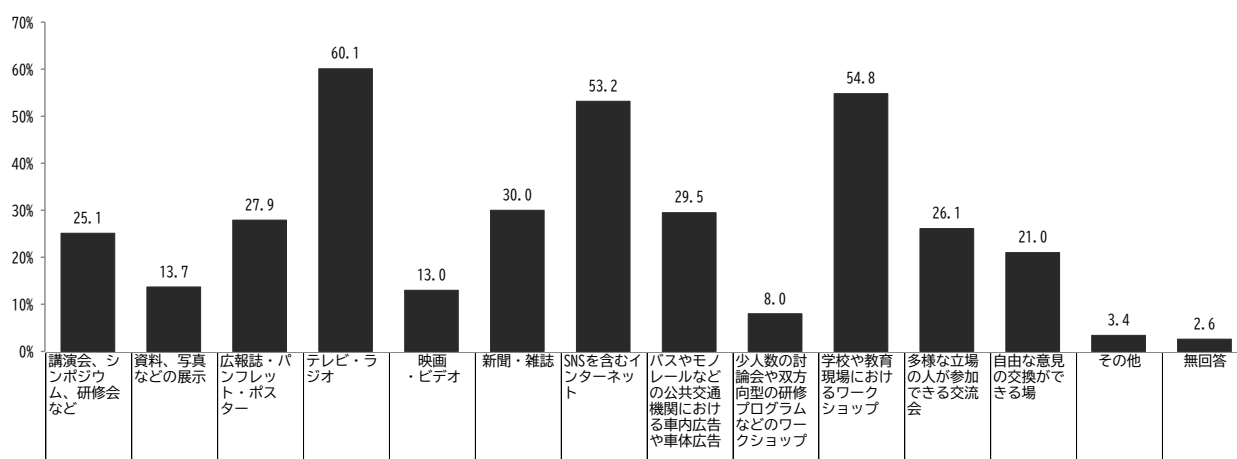
		インターネットにより人権侵害を受けた者のための相談所や電話相談窓口を充実させること	インターネット利用者やプロバイダーなどに対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい知識を深めるための教育・啓発広報活動を推進すること	プロバイダーなどに対して、人権を侵害する違法な情報の削除を含む対応を求めること	プロバイダーなどに対して、人権を侵害する違法な情報の削除を義務付ける法的規制を求めること	人権を侵害する違法な情報に対する監視・取締りを行うこと	その他	特にない	無回答
沖縄県		53.7	44.9	50.7	55.9	49.9	2.7	7.2	2.1
性別	男性	48.3	39.9	47.2	49.3	45.1	3.0	9.8	2.1
	女性	57.8	48.8	53.6	60.9	53.4	2.5	5.1	1.8
年代	10代	48.9	36.3	43.7	51.6	52.6	3.2	7.4	1.1
	20代	46.8	41.8	40.8	41.6	41.1	2.4	10.0	1.1
	30代	54.3	50.5	56.1	59.1	51.1	3.8	4.4	0.4
	40代	50.1	45.5	56.9	54.1	51.5	4.0	7.2	1.0
	50代	58.2	47.5	54.8	61.3	52.3	2.0	6.5	2.4
	60代	59.1	42.6	48.8	60.3	50.6	1.0	6.9	3.7
	70代以上	53.5	43.1	43.4	57.3	48.6	3.1	9.7	5.2
性年代 (男性)	10代	46.5	39.5	51.2	50.0	50.0	2.3	7.0	2.3
	20代	43.9	36.8	40.6	32.3	29.0	3.2	14.2	2.6
	30代	46.4	49.2	52.5	47.5	40.3	3.9	8.3	1.1
	40代	46.5	35.2	45.4	44.3	44.7	3.7	11.4	0.7
	50代	57.5	44.4	53.6	58.2	52.5	2.3	5.4	1.5
	60代	47.4	36.6	45.5	55.6	51.5	1.5	10.4	2.6
	70代以上	45.2	37.9	39.5	52.4	41.1	5.6	12.9	6.5
性年代 (女性)	10代	52.5	33.3	39.4	55.6	53.5	4.0	8.1	-
	20代	48.9	46.2	41.6	48.0	49.3	1.8	6.3	-
	30代	58.3	50.6	58.3	65.3	56.7	3.8	2.2	-
	40代	52.8	54.0	66.4	61.4	56.9	4.4	3.8	0.6
	50代	59.1	51.3	55.9	64.1	52.2	1.9	7.5	2.5
	60代	67.9	47.0	51.0	64.2	50.1	0.6	4.3	4.6
	70代以上	60.5	47.5	46.9	61.7	54.9	1.2	6.2	4.3
居住地域	北部	48.6	42.6	51.4	59.5	41.9	3.4	10.1	2.7
	中部	53.2	47.0	53.2	56.9	51.8	2.9	6.6	2.2
	南部	55.0	43.8	49.0	54.8	50.9	2.2	6.3	2.0
	宮古	53.4	38.1	42.4	49.2	43.2	2.5	15.3	1.7
	八重山	58.5	47.2	51.9	55.7	45.3	4.7	7.5	-
出身地	沖縄県内	55.4	46.3	52.5	57.2	51.7	2.8	6.2	1.8
	沖縄県外	49.6	40.8	51.5	64.6	49.2	1.5	6.9	2.3
	日本国外	40.7	38.4	35.2	36.1	28.7	2.8	19.4	1.9

II. 調査結果

3 人権尊重意識が人々の間に広く浸透するために効果的な啓発広報活動

Q27 あなたは、人権尊重意識が人々の間に広く深く浸透するためには、沖縄県がどのような方法で啓発広報活動を行うことが効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 人権尊重意識が人々の間に広く深く浸透するための沖縄県の効果的な啓発広報活動について、「テレビ・ラジオ」が 60.1%で最も多く、次いで「学校や教育現場におけるワークショップ」が 54.8%となっている。



≪傾向と分析≫

- R4 内閣府人権世論調査と比べると、最上位は同一であった。第 2 位のワークショップに関しては、内閣府調査では「少人数の討論会や双方向型の研修プログラムなどのワークショップ」という項目で 7.3%の割合であった。「学校や教育現場」に限定した文言ではないため直接の比較は難しいが、本調査の回答者は教育の一環として体験型で行う啓発広報活動がより効果的だと考えているようである。
- 性別では、女性の方が男性より「その他」以外全ての回答の割合が高い傾向を示すが、その差が顕著なもの多くなく、「学校や教育現場におけるワークショップ」、「公共交通機関における車内・車体広告」、「多様な立場の人が参加できる交流会」で 6 ポイント以上の差が見られるのが目に付いた。
- 年代別では、10 代～50 代の層は 5～7 割近くが「SNS を含むインターネット」を効果的な啓発広報活動の媒体と捉えている一方で、60 代以上は 4 割未満に留まっている。60 代以上の高年齢層はむしろ「新聞・雑誌」や「多様な立場の人が参加できる交流会」、「講演会・シンポジウム・研修会」など、オールドメディアの活用や対面形式など伝統的な方法による啓発広報活動を効果的と考えているようである。
- 居住地域別では、南部・中部・北部・宮古は全ての回答の中で「テレビ・ラジオ」の割合が最も高く、八重山は「学校や教育現場におけるワークショップ」が最も高かったことに加え、「講演会・シンポジウム・研修会」の割合が他地域よりも 10 ポイント以上高いことが特徴的であった。
- 出身地別にみると、日本国内出身者（沖縄県内出身者および沖縄県外出身者）は概ね同様な傾向で、「テレビ・ラジオ」、「学校や教育現場におけるワークショップ」、「SNS を含むインターネット」が上位 3 位を占めていた。日本国外出身者は日本国内出身者と比べて「広報誌・パンフレット・ポスター」と「映画・ビデオ」の割合が比較的高かった。

Ⅱ. 調査結果

		講演会、シンポジウム、研修会など	資料、写真などの展示	広報誌・パンフレット・ポスター	テレビ・ラジオ	映画・ビデオ	新聞・雑誌	SNSを含むインターネット	バスやモノレールなどの公共交通機関における車内広告や車体広告	少人数の討論会や双方向型の研修プログラムなどのワークショップ	学校や教育現場におけるワークショップ
沖縄県		25.1	13.7	27.9	60.1	13.0	30.0	53.2	29.5	8.0	54.8
性別	男性	24.8	13.6	26.8	57.0	11.2	28.7	52.2	25.8	6.6	48.1
	女性	25.4	13.8	28.8	62.6	14.2	31.1	54.1	32.3	9.1	59.7
年代	10代	18.9	11.1	17.9	55.8	18.9	22.6	64.7	40.0	3.2	54.2
	20代	19.5	17.4	22.6	51.8	15.3	19.7	65.8	32.1	5.8	45.8
	30代	16.6	16.8	26.9	60.3	18.6	22.0	68.3	32.1	10.6	58.9
	40代	19.9	14.0	23.8	59.0	13.2	24.4	58.1	29.3	10.5	59.8
	50代	29.7	12.2	34.3	65.4	12.6	37.0	53.7	31.4	7.6	53.3
	60代	31.3	12.3	30.2	62.7	8.2	36.7	36.5	23.4	7.4	56.9
	70代以上	39.9	10.4	34.7	58.7	7.3	45.5	27.1	25.0	5.9	49.7
性年代（男性）	10代	9.3	7.0	14.0	51.2	10.5	18.6	65.1	23.3	2.3	46.5
	20代	23.9	15.5	23.9	50.3	17.4	24.5	69.0	30.3	7.1	38.7
	30代	24.9	16.6	27.1	56.4	19.3	25.4	70.7	29.8	9.9	49.2
	40代	16.1	11.4	17.2	52.0	10.3	19.4	50.2	17.2	9.9	49.8
	50代	30.7	14.9	37.5	65.1	10.7	37.5	55.6	32.6	4.2	49.8
	60代	29.9	13.1	26.9	61.2	5.6	31.7	35.8	22.8	4.9	51.5
	70代以上	33.1	12.9	37.9	54.0	7.3	41.1	27.4	27.4	5.6	46.0
性年代（女性）	10代	28.3	13.1	22.2	59.6	25.3	25.3	65.7	54.5	4.0	62.6
	20代	16.7	19.0	22.2	52.9	14.0	16.7	63.8	33.9	5.0	50.7
	30代	12.1	16.6	26.4	63.4	18.5	20.4	67.2	33.1	11.1	64.0
	40代	22.7	16.2	28.9	65.5	15.0	27.7	65.2	39.2	10.9	67.6
	50代	29.1	10.3	31.9	64.7	13.8	36.9	52.2	30.6	10.6	56.3
	60代	32.1	11.7	33.0	64.2	10.3	40.7	37.2	24.1	9.5	60.7
	70代以上	45.7	8.6	32.7	61.7	7.4	49.4	27.2	23.5	6.2	53.1
居住地域	北部	27.7	10.1	23.6	61.5	10.1	23.6	47.3	16.9	9.5	50.7
	中部	24.7	16.4	28.7	63.4	15.0	32.9	54.9	28.1	9.6	56.9
	南部	23.8	11.7	27.7	57.6	12.5	29.0	54.6	34.0	6.2	54.3
	宮古	27.1	12.7	28.0	59.3	7.6	24.6	36.4	23.7	7.6	44.1
	八重山	37.7	18.9	31.1	49.1	8.5	32.1	48.1	28.3	7.5	59.4
出身地	沖縄県内	26.0	13.4	27.5	62.5	12.5	31.4	52.9	30.6	7.4	56.4
	沖縄県外	18.1	13.5	24.2	57.3	12.3	24.6	56.9	27.7	10.4	53.8
	日本国外	25.0	20.4	34.7	44.0	19.4	20.8	51.4	20.8	13.0	42.1

		多様な立場の人が参加できる交流会	自由な意見の交換ができる場	その他	無回答
沖縄県		26.1	21.0	3.4	2.6
性別	男性	22.7	19.3	4.0	2.4
	女性	28.8	22.2	2.9	2.6
年代	10代	24.2	22.1	1.1	1.1
	20代	21.8	18.9	5.5	2.1
	30代	23.0	19.0	3.4	2.0
	40代	28.5	24.1	5.6	0.6
	50代	25.8	18.8	2.4	2.2
	60代	28.8	22.1	1.6	4.0
	70代以上	29.2	21.2	3.8	6.6
性年代（男性）	10代	18.6	12.8	-	-
	20代	15.5	17.4	7.1	3.9
	30代	26.5	21.0	3.3	3.3
	40代	23.8	19.4	6.6	-
	50代	23.4	22.2	2.3	0.8
	60代	25.4	20.9	1.5	3.4
	70代以上	20.2	13.7	7.3	8.1
性年代（女性）	10代	30.3	31.3	2.0	2.0
	20代	26.7	19.5	4.5	0.9
	30代	20.7	18.2	2.9	1.3
	40代	32.4	27.7	4.7	0.6
	50代	28.4	16.6	2.5	3.4
	60代	30.9	22.6	1.7	4.6
	70代以上	36.4	27.2	1.2	5.6
居住地域	北部	25.0	23.6	3.4	4.7
	中部	28.0	21.8	3.4	2.8
	南部	24.2	19.2	3.5	2.2
	宮古	31.4	22.0	4.2	2.5
	八重山	26.4	25.5	2.8	-
出身地	沖縄県内	26.3	20.6	3.1	2.4
	沖縄県外	24.2	23.1	6.2	1.5
	日本国外	28.2	25.9	3.7	3.7

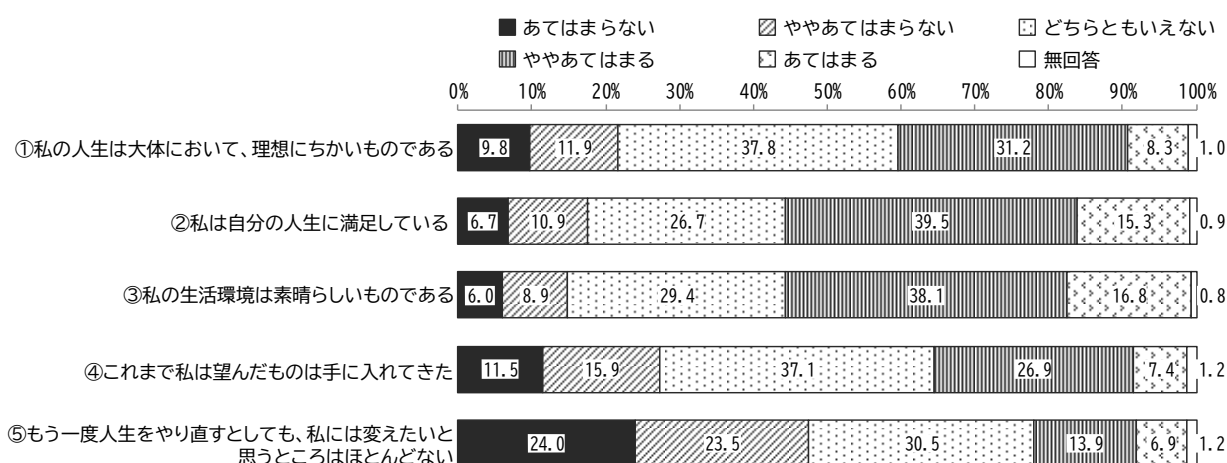
Ⅱ. 調査結果

6 あなたご自身の考えについて

1 あなたの人生（生活）について思うこと①～⑤

Q28 次の①～⑤に関する、あなたの人生（生活）について、あなたはどのように思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

- それぞれの質問について、「あてはまる」「ややあてはまらない」「どちらともいえない」「ややあてはまる」「あてはまる」と回答した割合は次のとおりであった。
- 「あてはまらない」では、「⑤もう一度人生をやり直すとしても、私には変えたいと思うところはほとんどない」が 24.0%で最も多く、次いで「④これまで私は望んだものは手に入れてきた」が 11.5%、「①私の人生は大体において、理想にちかいものである」が 9.8%となっている。
- 「ややあてはまらない」では、「⑤もう一度人生をやり直すとしても、私には変えたいと思うところはほとんどない」が 23.5%で最も多く、次いで「④これまで私は望んだものは手に入れてきた」が 15.9%、「①私の人生は大体において、理想にちかいものである」が 11.9%となっている。
- 「どちらともいえない」では、「①私の人生は大体において、理想にちかいものである」が 37.8%で最も多く、次いで「④これまで私は望んだものは手に入れてきた」が 37.1%、「⑤もう一度人生をやり直すとしても、私には変えたいと思うところはほとんどない」が 30.5%となっている。
- 「ややあてはまる」では、「②私は自分の人生に満足している」が 39.5%で最も多く、次いで「③私の生活環境は素晴らしいものである」が 38.1%、「①私の人生は大体において、理想にちかいものである」が 31.2%となっている。
- 「あてはまる」では、「③私の生活環境は素晴らしいものである」が 16.8%で最も多く、次いで「②私は自分の人生に満足している」が 15.3%、「①私の人生は大体において、理想にちかいものである」が 8.3%となっている。



《傾向と分析》

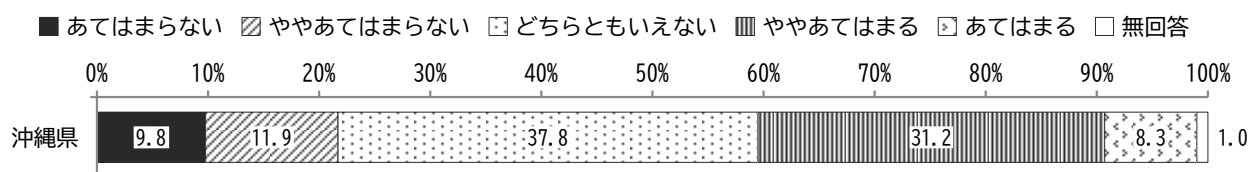
- 各自の人生(生活)についての捉え方を測るこれら 5 項目は、幸福感の国際比較研究(Diener, et al, 1985; 子安他, 2012)³²で用いられる「人生満足度」尺度である。原尺度は 7 段階評定であるが、本調査では調査票設計上の制約から 5 段階で評定を求めている。結果として、「自分の人生は大体において理想にちかい」に「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は 39.5%、「自分の人生に満足している」の肯定的な回答の割合は 54.8%、「私の生活環境は素晴らしいものである」の肯定的な回答の割合は 54.9%であった。一方で、「これまで望んできたものは手に入れてきた」と「もう一度人生をやり直すとしても、私には変えたいと思うところはほとんどない」の肯定的な回答の割合は、それぞれ 34.3%と 20.8%であった。現状の人生や生活に半数以上の者が満足を示しつつも、理想や願望を実現できているかと言えば、それは半数に届かず、むしろ変更や改善によって向上させたい、あるいは向上させる余地(伸びしろ)があると捉えていると言える。

³² 子安増生・楠見孝・Moisés Kirk de Carvalho Filho・橋本京子・藤田和生・鈴木晶子・大山泰宏・Carl Becker・内田由紀子・David Dalsky・Ruprecht Mattig・櫻井里穂・小島隆次 (2012). 幸福感の国際比較研究—13 カ国のデータ—. 心理学評論, 55(1), 70-89.

Ⅱ. 調査結果

①～⑤クロス集計

① 私の人生は大体において、理想にちかいものである



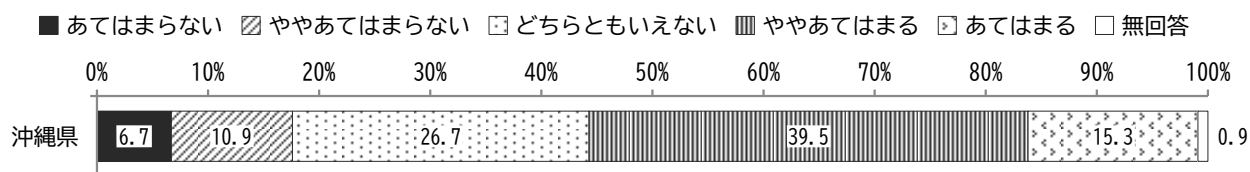
≪傾向と分析≫

- 性別の結果は、女性と男性で特段の違いは見られなかった。
- 年代別では、10代～30代の層は「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合が43～48%近くあるのに対し、40代以上は32.3～38.4%に留まっていた。
- 居住地域別では、北部は「あてはまらない」の割合が他地域よりも5.2ポイント高く、八重山は「あてはまる」の割合が他地域よりも4.7ポイント高かった。
- 出身地別にみると、沖縄県内出身者は「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が合わせて22.7%あり、他出身地よりも5.4ポイント以上高かった。「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は37.6%であり、沖縄県外出身者や日本国外出身者が共に50%以上と過半数を超えているのと対照的であった。

		あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	無回答
沖縄県		9.8	11.9	37.8	31.2	8.3	1.0
性別	男性	10.6	11.0	38.1	30.8	8.2	1.2
	女性	9.2	12.3	37.6	31.7	8.2	0.9
年代	10代	4.7	13.7	33.7	36.8	11.1	-
	20代	8.2	15.5	32.6	34.2	8.9	0.5
	30代	10.0	17.2	27.3	33.7	11.4	0.4
	40代	12.3	12.4	35.7	30.1	8.1	1.3
	50代	8.5	8.0	44.8	28.9	9.5	0.3
	60代	8.4	9.0	45.2	30.4	5.7	1.3
	70代以上	14.9	10.4	39.2	28.5	3.8	3.1
性年代 (男性)	10代	2.3	11.6	38.4	38.4	9.3	-
	20代	13.5	17.4	32.9	27.1	7.7	1.3
	30代	11.0	17.1	32.0	25.4	14.4	-
	40代	14.7	10.3	38.5	28.9	7.7	-
	50代	9.2	9.2	37.9	36.0	6.9	0.8
	60代	6.3	7.8	46.6	29.9	7.8	1.5
	70代以上	15.3	6.5	33.9	33.9	4.0	6.5
性年代 (女性)	10代	7.1	12.1	30.3	37.4	13.1	-
	20代	3.6	14.5	32.1	39.8	10.0	-
	30代	9.6	17.5	24.8	37.6	9.9	0.6
	40代	10.3	13.6	34.5	31.9	7.4	2.4
	50代	8.1	6.6	49.7	23.8	11.9	-
	60代	10.0	10.0	44.4	30.4	4.0	1.1
	70代以上	14.8	13.6	43.2	24.1	3.7	0.6
居住地域	北部	16.2	8.8	36.5	31.1	7.4	-
	中部	8.7	12.5	36.0	33.1	8.5	1.2
	南部	9.5	12.4	39.0	30.1	7.9	1.0
	宮古	11.0	9.3	42.4	28.0	7.6	1.7
	八重山	8.5	10.4	40.6	26.4	13.2	0.9
出身地	沖縄県内	10.4	12.3	39.0	30.6	7.0	0.8
	沖縄県外	8.5	8.8	31.2	39.6	10.4	1.5
	日本国外	3.7	9.3	30.1	33.8	21.3	1.9

Ⅱ. 調査結果

②私は自分の人生に満足している



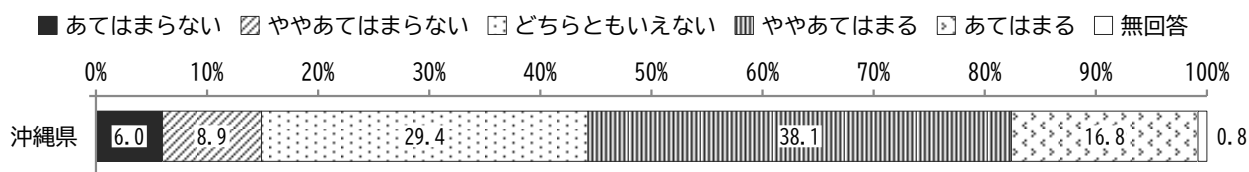
《傾向と分析》

- 性別の結果は、女性と男性で特段の違いは見られず、両者とも「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合が 54.4～55.4%と過半数を占めていた。
- 年代別では、10 代～60 代の層は肯定的な回答の割合が 52.5～62.6%と半数を超えているのに対し、70 代以上は 44.8%と唯一 50%を下回っていた。
- 居住地域別では、北部は「あてはまらない」の割合が 10.8%と、他地域よりも 3.3 ポイント以上高かった。八重山は「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合が他地域と比べて最も高く、合わせて 59.5%を示していた。
- 出身地別にみると、沖縄県内出身者は「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が合わせて 18.9%あり、他出身地よりも 5.8 ポイント以上高かった。「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は 53.2%であり、沖縄県外出身者や日本国外出身者が共に 64%以上と 3 分の 2 近い割合を示しているのに比べて 10 ポイント以上も低かった。これは上記①の設問の回答傾向と同様であり、人生への満足度の高さは沖縄県外出身者と日本国外出身者の認識を、より反映していると言える。

		あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	無回答
沖縄県		6.7	10.9	26.7	39.5	15.3	0.9
性別	男性	7.9	10.4	26.1	39.0	15.4	1.2
	女性	5.9	11.3	26.7	40.1	15.3	0.7
年代	10代	3.7	10.0	23.7	37.9	24.7	-
	20代	5.5	13.4	22.4	39.7	18.4	0.5
	30代	6.8	15.4	21.8	39.5	16.0	0.4
	40代	8.8	10.4	25.5	38.4	15.9	1.0
	50代	6.3	10.2	25.6	43.0	14.6	0.3
	60代	5.7	7.6	33.3	41.5	11.0	1.0
	70代以上	8.7	10.4	33.3	30.9	13.9	2.8
性年代 (男性)	10代	2.3	8.1	25.6	37.2	26.7	-
	20代	8.4	9.7	24.5	40.6	15.5	1.3
	30代	5.5	16.0	28.2	30.9	19.3	-
	40代	11.0	11.0	25.6	38.5	13.9	-
	50代	6.9	10.7	26.1	41.0	14.6	0.8
	60代	5.6	6.7	28.0	45.1	13.1	1.5
	70代以上	15.3	11.3	22.6	32.3	12.1	6.5
性年代 (女性)	10代	5.1	10.1	23.2	37.4	24.2	-
	20代	3.6	16.3	19.5	39.8	20.8	-
	30代	7.6	15.3	17.8	44.3	14.3	0.6
	40代	6.8	10.3	24.8	39.5	16.8	1.8
	50代	5.9	9.4	24.7	45.0	15.0	-
	60代	5.7	8.3	37.0	39.0	9.5	0.6
	70代以上	3.7	9.9	42.0	29.0	15.4	-
居住地域	北部	10.8	11.5	23.0	37.8	16.9	-
	中部	6.3	12.1	23.6	42.0	15.0	0.9
	南部	6.2	10.1	29.7	37.8	15.3	1.0
	宮古	6.8	10.2	34.7	33.1	14.4	0.8
	八重山	7.5	6.6	25.5	42.5	17.0	0.9
出身地	沖縄県内	7.2	11.7	27.2	38.5	14.7	0.8
	沖縄県外	6.2	6.9	21.9	45.8	18.5	0.8
	日本国外	4.2	5.6	22.2	45.4	20.8	1.9

Ⅱ. 調査結果

③私の生活環境は素晴らしいものである



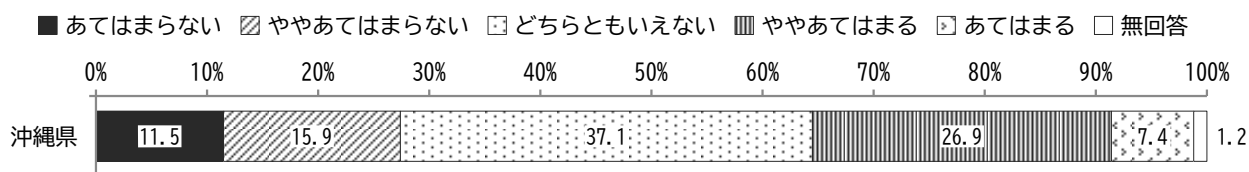
＜＜傾向と分析＞＞

- 性別の結果は女性と男性で余り差はなく、両者とも「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合が54%程度と過半数を超えていた。
- 年代別では、10代～60代の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は50.2～74.2%と概ね半数近くを示していたが、70代のみ41.3%と4割台前半であった。また、30代、50代、60代は他の年齢層と異なり、「ややあてはまらない」の割合が10%台を超えていた。
- 居住地域別では、北部は「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が18.2%と多く、他地域よりも2.1ポイント以上高かった。一方で、「私の生活環境は素晴らしいものである」の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は全ての地域で40%以上を示していた。
- 出身地別にみると、「私の生活環境は素晴らしいものである」の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は沖縄県内出身者よりも日本国内出身者、沖縄県外出身者よりも日本国外出身者の方が高く、いずれも50%を超えていた。一方で、沖縄県外出身者は「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が他出身地より比較的高いことから、生活環境に対する評価は肯定と否定両面に分かれていると考えられる。

		あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	無回答
沖縄県		6.0	8.9	29.4	38.1	16.8	0.8
性別	男性	6.2	9.2	28.4	38.3	16.7	1.2
	女性	5.9	8.4	30.2	38.0	16.9	0.6
年代	10代	2.1	5.3	18.4	40.5	33.7	-
	20代	2.6	7.6	25.0	37.1	27.1	0.5
	30代	5.8	11.8	25.9	39.5	16.6	0.4
	40代	8.0	6.4	27.9	40.7	16.4	0.6
	50代	7.0	10.0	32.1	35.8	14.4	0.7
	60代	6.3	11.1	30.7	40.4	10.5	1.0
	70代以上	6.9	6.3	43.4	30.2	11.1	2.1
性年代 (男性)	10代	-	2.3	22.1	43.0	32.6	-
	20代	3.2	12.3	27.1	32.3	23.9	1.3
	30代	5.0	11.6	23.8	42.0	17.7	-
	40代	8.1	8.4	26.0	41.0	16.5	-
	50代	8.8	10.0	32.2	33.3	14.2	1.5
	60代	4.1	10.1	29.1	43.7	11.6	1.5
	70代以上	11.3	4.8	37.9	30.6	10.5	4.8
性年代 (女性)	10代	4.0	6.1	14.1	39.4	36.4	-
	20代	2.3	4.5	23.1	40.3	29.9	-
	30代	6.4	12.1	26.8	37.9	16.2	0.6
	40代	7.7	5.0	30.1	40.4	15.6	1.2
	50代	5.6	8.4	32.8	38.1	15.0	-
	60代	8.0	12.0	31.5	38.1	9.7	0.6
	70代以上	3.7	7.4	48.1	29.6	11.1	-
居住地域	北部	7.4	10.8	26.4	37.8	17.6	-
	中部	5.4	8.5	27.0	39.4	18.7	0.9
	南部	6.5	8.6	31.3	37.5	15.3	0.9
	宮古	4.2	11.9	37.3	30.5	15.3	0.8
	八重山	5.7	7.5	34.0	39.6	12.3	0.9
出身地	沖縄県内	6.3	8.7	30.0	38.1	16.3	0.7
	沖縄県外	6.9	11.9	25.8	37.3	17.3	0.8
	日本国外	4.2	6.5	22.7	42.1	22.7	1.9

Ⅱ. 調査結果

④これまで私は望んだものは手に入れてきた



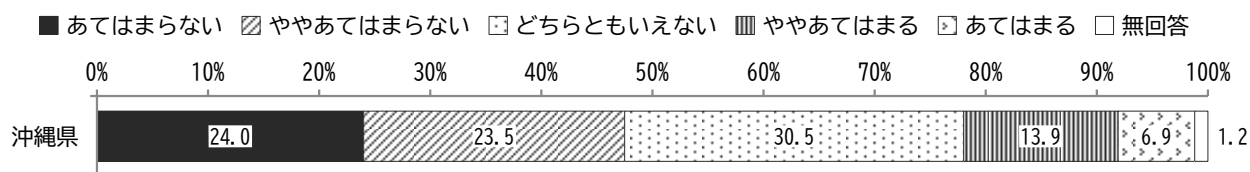
≪傾向と分析≫

- 性別の結果は、概ね女性と男性で余り差は見られなかったが、男性において「ややあてはまらない」の割合が女性よりもやや高く、4.0 ポイントの差がみられた。
- 年代別では、10 代～40 代の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は 37.6～40.5%となっていたが、50 代～70 代以上は 27.5～32.4%となっており、「望んだものを手に入れてきた」かどうかについては、「どちらともいえない」という認識を持つ者の割合が 40 代以下の者より多い傾向を示していた。
- 居住地域別では、南部・中部地域の「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が 26%程度であるのに対して、北部地域や宮古・八重山地域の肯定的でない回答の割合はやや高く 29%を超えていた。
- 出身地別にみると、沖縄県内出身者の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は 33.0%を示し、沖縄県外出身者や日本国外出身者が共に 42%程度あるのに比べて低く、むしろ「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が 28.4%と高く、沖縄県外出身者と日本国外出身者より 6 ポイント程度高かった。

		あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	無回答
沖縄県		11.5	15.9	37.1	26.9	7.4	1.2
性別	男性	11.3	18.1	37.0	26.1	6.3	1.3
	女性	11.6	14.1	37.4	27.6	8.1	1.2
年代	10代	7.9	20.5	31.1	32.1	8.4	-
	20代	10.5	14.5	34.7	28.9	10.3	1.1
	30代	10.6	17.0	33.5	28.7	9.0	1.2
	40代	11.8	18.2	31.4	29.8	7.8	1.0
	50代	9.8	13.4	44.0	25.3	7.1	0.3
	60代	10.0	18.1	42.6	23.3	4.2	1.8
	70代以上	22.2	8.0	37.8	22.2	6.9	2.8
性年代 (男性)	10代	8.1	9.3	39.5	31.4	11.6	-
	20代	12.3	21.3	31.0	26.5	6.5	2.6
	30代	10.5	21.5	32.6	28.2	7.2	-
	40代	11.0	22.7	35.2	24.2	7.0	-
	50代	9.6	14.6	41.4	30.3	3.4	0.8
	60代	7.1	20.9	41.8	22.8	6.0	1.5
	70代以上	26.6	4.8	33.9	21.8	6.5	6.5
性年代 (女性)	10代	6.1	29.3	25.3	33.3	6.1	-
	20代	9.5	10.0	36.2	31.2	13.1	-
	30代	10.8	14.6	33.8	28.7	10.2	1.9
	40代	12.4	14.2	29.2	35.1	7.4	1.8
	50代	9.7	11.6	46.6	21.9	10.3	-
	60代	12.3	16.0	43.6	23.2	2.9	2.0
	70代以上	19.1	10.5	40.1	22.8	7.4	-
居住地域	北部	16.9	14.9	37.2	25.7	4.7	0.7
	中部	10.2	16.5	37.1	25.5	9.1	1.5
	南部	11.8	14.8	37.3	28.7	6.3	1.0
	宮古	10.2	20.3	39.0	21.2	8.5	0.8
	八重山	9.4	19.8	33.0	29.2	6.6	1.9
出身地	沖縄県内	12.0	16.4	37.6	26.6	6.4	1.0
	沖縄県外	8.5	13.8	34.6	33.5	8.8	0.8
	日本国外	8.3	12.0	33.8	28.7	14.4	2.8

Ⅱ. 調査結果

⑤もう一度人生をやり直すとしても、私には変えたいと思うところはほとんどない



＜＜傾向と分析＞＞

- 性別の結果は女性と男性で余り差はなく、両者とも「どちらともいえない」の割合が最も高く、他の回答の割合の中で唯一 30%を超えていた。
- 年代別にみると、10 代～50 代は「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が 45.3～54.9%と概ね半数近くを示していたが、60 代以上は 41.1～44.4%と 4 割前半半であった。一方で「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合は 10 代～30 代の若年層は 20%台を示すのに対し、70 代を除く 40 代以上は概ね 20%を下回っていた。このことは、10 代～30 代の若年層は現状の維持・肯定派と現状の改革・改善を希求する者に分かれており、後者の割合がやや多い傾向を示している。
- 居住地域別では、5 つの地域全てにおいて、「あてはまらない」「ややあてはまらない」を合わせた肯定的でない回答の割合が 43.4～48.6%と多く、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合の 2 倍以上となっていた。
- 出身地別では、沖縄県内出身者は「あてはまらない」の割合が 25.1%となっており、「ややあてはまらない」と合わせて 50%近くの者が「私には変えたいと思うところはほとんどない」を肯定しない(変えたいところがある)という回答を示していた。また、日本国外出身者は「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた肯定的な回答の割合が合わせて 33.3%を示し、日本国内出身者よりも 12 ポイント以上肯定的な回答の割合が高かった。

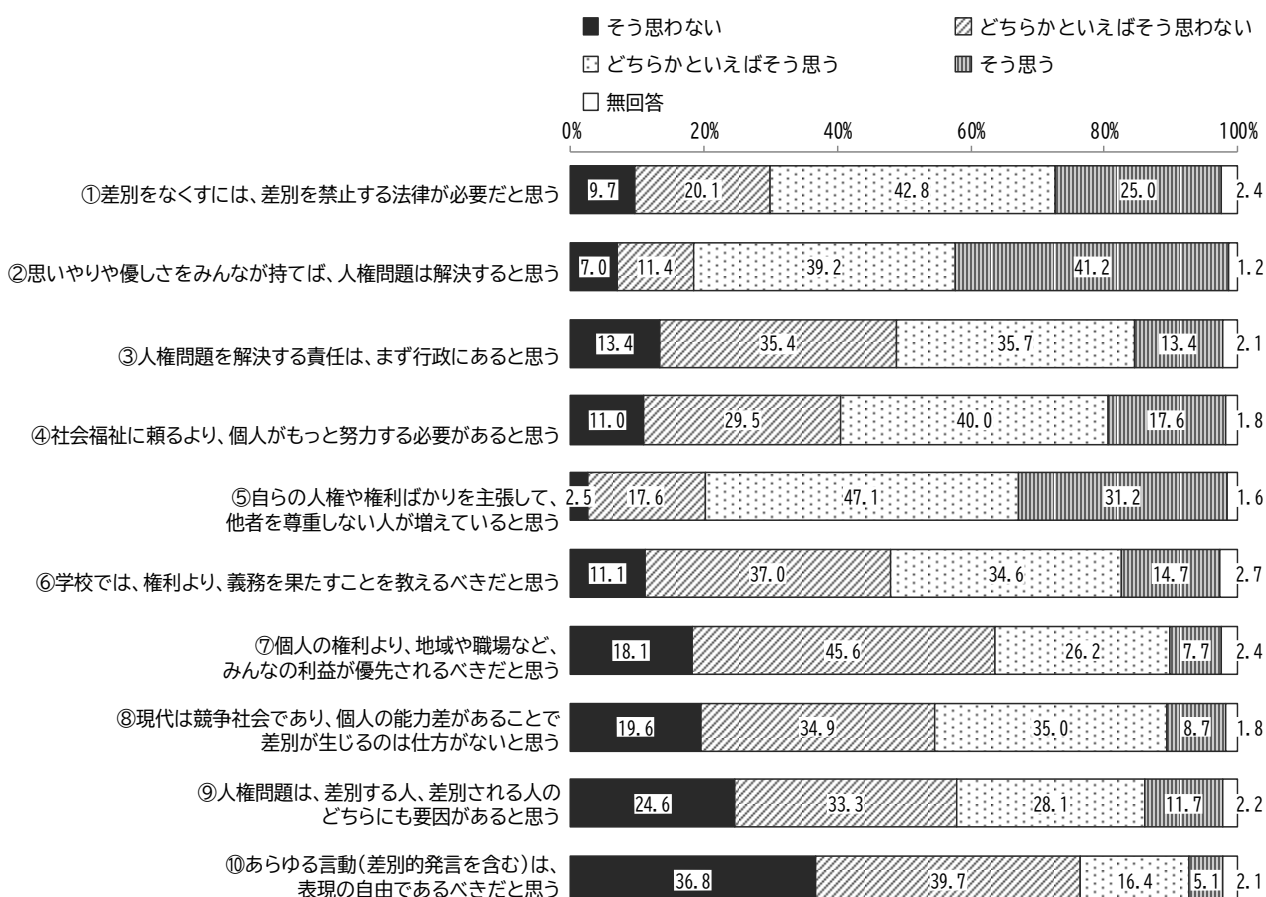
		あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	無回答
沖縄県		24.0	23.5	30.5	13.9	6.9	1.2
性別	男性	23.4	21.9	31.0	14.7	7.9	1.2
	女性	24.4	24.4	30.4	13.3	6.2	1.2
年代	10代	18.9	30.0	24.7	15.3	11.1	-
	20代	25.8	25.8	26.3	11.1	10.5	0.5
	30代	29.1	18.6	26.9	17.0	8.0	0.4
	40代	29.7	25.2	25.2	12.1	6.2	1.6
	50代	20.2	25.1	35.0	14.3	4.9	0.5
	60代	17.8	23.3	38.4	12.9	6.1	1.5
	70代以上	25.3	19.1	31.6	16.3	4.9	2.8
性年代 (男性)	10代	15.1	24.4	32.6	14.0	14.0	-
	20代	32.3	23.9	21.3	8.4	12.9	1.3
	30代	32.6	18.2	21.5	19.9	7.7	-
	40代	29.7	25.3	25.3	13.9	5.9	-
	50代	16.5	23.4	35.6	19.5	4.2	0.8
	60代	13.4	20.5	43.3	11.6	9.7	1.5
	70代以上	27.4	15.3	31.5	13.7	5.6	6.5
性年代 (女性)	10代	21.2	35.4	19.2	15.2	9.1	-
	20代	20.8	27.6	29.4	13.1	9.0	-
	30代	27.4	18.5	30.3	15.0	8.3	0.6
	40代	30.4	23.9	26.3	10.6	5.9	2.9
	50代	23.1	25.9	34.7	10.3	5.6	0.3
	60代	21.2	25.5	34.4	14.0	3.4	1.4
	70代以上	24.1	22.2	30.9	18.5	4.3	-
居住地域	北部	28.4	17.6	31.1	12.8	9.5	0.7
	中部	22.9	24.4	28.4	15.8	7.1	1.4
	南部	24.4	24.2	31.7	12.7	6.1	1.0
	宮古	18.6	25.4	33.9	12.7	7.6	1.7
	八重山	25.5	17.9	35.8	11.3	7.5	1.9
出身地	沖縄県内	25.1	23.4	29.9	13.8	6.8	1.0
	沖縄県外	20.4	24.6	36.5	13.1	3.8	1.5
	日本国外	13.9	21.3	29.6	19.4	13.9	1.9

Ⅱ. 調査結果

2 人権や差別をめぐる考えについて①～⑩ ……………

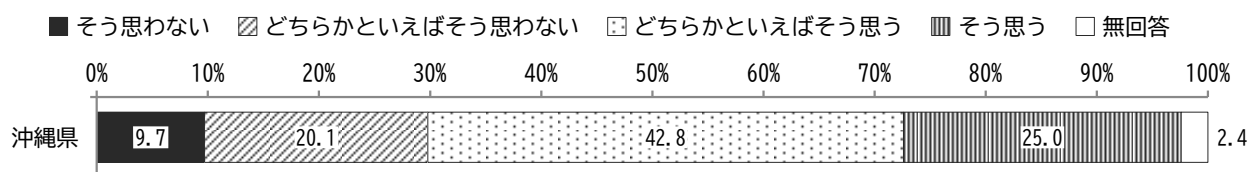
Q29 人権や差別をめぐっていろいろな考え方があるといわれていますが、次の①～⑩について、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

- それぞれの質問について、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」「どちらかといえばそう思う」「そう思う」と回答した割合は次のとおりであった。
- 「そう思わない」では、「⑩あらゆる言動(差別的発言を含む)は、表現の自由であるべきだと思う」が36.8%で最も多く、次いで「⑨人権問題は、差別する人、差別される人のどちらにも要因があると思う」が24.6%、「⑧現代は競争社会であり、個人の能力差があることで差別が生じるのは仕方がないと思う」が19.6%となっている。
- 「どちらかといえばそう思わない」では、「⑦個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだと思う」が45.6%で最も多く、次いで「⑩あらゆる言動(差別的発言を含む)は、表現の自由であるべきだと思う」が39.7%、「⑥学校では、権利より、義務を果たすことを教えるべきだと思う」が37.0%となっている。
- 「どちらかといえばそう思う」では、「⑤自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えていると思う」が47.1%で最も多く、次いで「①差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う」が42.8%、「④社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要があると思う」が40.0%となっている。
- 「そう思う」では、「②思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決すると思う」が41.2%で最も多く、次いで「⑤自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えていると思う」が31.2%、「①差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う」が25.0%となっている。



①～⑩クロス集計

①差別をなくすには、差別を禁止する法律が必要だと思う



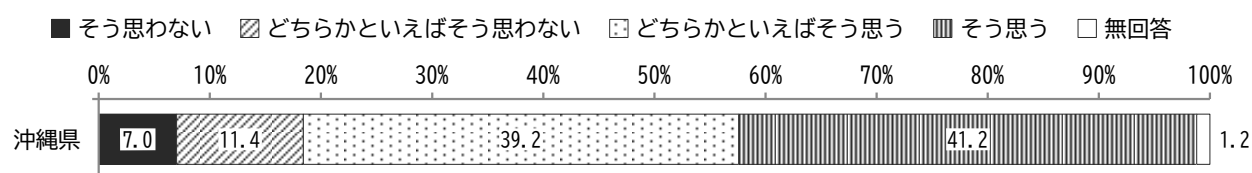
《傾向と分析》

- 性別では、男性が女性より「そう思わない」の割合がやや高く、3.6 ポイントの差が見られる。
- 年代別では、30 代を除く 10 代～50 代の層は「そう思わない」の回答の割合が 10%を超えているのに対し、30 代、60 代、70 代以上は 10%未満である。
- 居住地域別では、5 つ全ての地域で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が 63.2%～72.3%と 6 割を超えていた。差別をなくすための法律による規制は、居住地域によらず必要だと捉えている者が多いことが分かる。
- 出身地別にみると、沖縄県外出身者において「そう思わない」の割合が 13.5%と他出身地よりも 4.1 ポイント以上高く、日本国外出身者の「そう思う」の割合が他出身地よりも 14 ポイント程度高いことが特筆される。
- 奈良県の人権に関する県民意識調査報告書(以下「H30 奈良県人権調査」という。)では、ほぼ同様の質問の割合は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合はそれぞれ 27.7%と 34.9%であり、合計すると 62.6%であった。差別を禁止する法律の必要性については、本調査結果の肯定的な回答の割合がわずかに高いと言える。

Ⅱ. 調査結果

		そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	無回答
沖縄県		9.7	20.1	42.8	25.0	2.4
性別	男性	11.5	18.9	41.2	26.1	2.4
	女性	7.9	20.9	44.3	24.4	2.5
年代	10代	12.1	20.0	40.0	26.8	1.1
	20代	11.3	16.6	44.7	26.8	0.5
	30代	9.0	23.6	40.9	26.1	0.4
	40代	11.0	23.0	41.5	24.2	0.3
	50代	10.2	18.5	45.8	23.8	1.7
	60代	7.8	19.4	44.7	23.6	4.5
	70代以上	8.0	17.7	38.5	26.4	9.4
性年代 (男性)	10代	14.0	16.3	40.7	26.7	2.3
	20代	15.5	19.4	39.4	24.5	1.3
	30代	16.6	19.9	38.1	25.4	—
	40代	16.5	20.9	37.7	24.9	—
	50代	8.4	16.5	44.8	27.6	2.7
	60代	6.0	17.9	48.1	24.6	3.4
	70代以上	4.8	21.8	32.3	31.5	9.7
性年代 (女性)	10代	6.1	24.2	41.4	28.3	—
	20代	8.6	14.9	47.5	29.0	—
	30代	4.8	26.1	41.7	26.8	0.6
	40代	5.6	23.3	46.3	24.2	0.6
	50代	11.3	20.0	47.2	20.6	0.9
	60代	9.2	20.6	41.8	22.9	5.4
	70代以上	10.5	14.8	42.6	22.8	9.3
居住地域	北部	4.7	22.3	41.9	30.4	0.7
	中部	8.3	19.8	43.3	26.0	2.6
	南部	11.7	20.2	43.2	22.6	2.3
	宮古	13.6	14.4	42.4	25.4	4.2
	八重山	10.4	22.6	35.8	27.4	3.8
出身地	沖縄県内	9.4	21.2	42.6	24.3	2.5
	沖縄県外	13.5	19.6	44.2	21.9	0.8
	日本国外	7.9	11.1	41.7	38.4	0.9

②思いやりやさしさをみんなが持てば、人権問題は解決すると思う



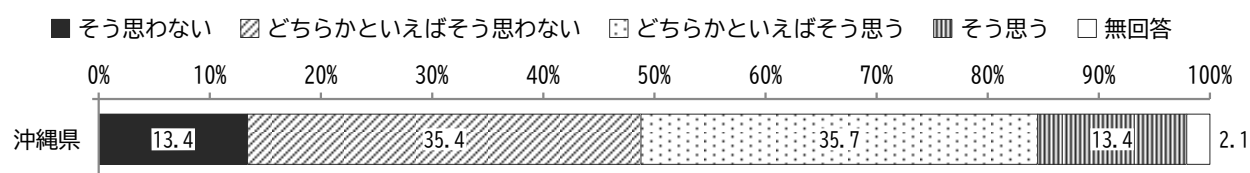
《傾向と分析》

- 性別では、男性が女性より「そう思わない」の割合が 3.4 ポイント高い他は、性別による回答の割合に大きな差は見られない。
- 年代別では、全ての年代層で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が 73.2%～85.1%を示しており、10 代と 50 代以上は 80%を超えていた。
- 居住地域別では、5 つ全ての地域で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が 75.7%～81.4%と 7 割を超えていた。人権問題は、思いやりやさしさという心、内面性の問題として捉えている人が多いことを示している。
- 出身地別では、沖縄県外出身者は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合は 26.5%を示し、他出身地よりも 8.3 ポイント以上高かった。沖縄県内出身者と日本国外出身者は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が共に 80%を超えており、70%台に留まる沖縄県外出身者の割合よりも高かった。人権問題は、思いやりやさしさといった他者配慮のできる豊かな内面性を育むことで解決できていると考えている傾向が高いと言える。
- H30 奈良県人権調査の結果では、性別、年代別の結果においてはほぼ、「どちらかといえばそう思う」の回答の割合が最も多く(概ね、32%～39%余り)以下、「そう思う」(概ね、25%～39%余り)、「どちらかといえばそう思わない」(概ね、14%～29%)、「そう思わない」(概ね、5%～14%余り)となっていた。すなわち、沖縄県民の方が奈良県民よりも、人権問題は思いやりやさしさといった、人の心の在り様によって解決すると思っている傾向が強いようである。

Ⅱ. 調査結果

		そう思わ ない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	どちらか といえ ばそう 思 う	そう 思 う	無回答
沖縄県		7.0	11.4	39.2	41.2	1.2
性別	男性	9.0	10.4	38.2	41.0	1.4
	女性	5.6	12.0	40.0	41.4	1.0
年代	10代	8.9	8.9	33.2	47.9	1.1
	20代	7.6	14.5	41.1	36.3	0.5
	30代	9.0	17.4	35.5	37.7	0.4
	40代	8.9	12.4	32.4	46.1	0.2
	50代	5.4	8.8	45.5	39.2	1.0
	60代	4.7	9.5	45.1	38.8	1.9
	70代以上	5.6	5.9	36.1	49.0	3.5
性年代 (男性)	10代	14.0	7.0	32.6	46.5	-
	20代	12.3	9.0	34.2	43.2	1.3
	30代	11.0	14.4	33.1	41.4	-
	40代	13.2	11.0	30.8	44.7	0.4
	50代	6.1	9.6	43.3	39.5	1.5
	60代	3.0	13.8	48.1	32.8	2.2
	70代以上	8.1	2.4	37.9	46.8	4.8
性年代 (女性)	10代	5.1	8.1	33.3	51.5	2.0
	20代	4.5	17.6	45.7	32.1	-
	30代	8.0	18.8	36.6	36.0	0.6
	40代	5.6	14.2	32.7	47.5	-
	50代	5.0	8.4	47.8	38.1	0.6
	60代	6.0	6.3	43.0	43.0	1.7
	70代以上	3.7	8.6	35.2	50.0	2.5
居住地域	北部	8.8	15.5	30.4	45.3	-
	中部	6.2	11.1	40.6	40.6	1.4
	南部	7.3	11.1	39.9	40.6	1.0
	宮古	6.8	10.2	40.7	40.7	1.7
	八重山	7.5	8.5	35.8	45.3	2.8
出身地	沖縄県内	6.8	11.4	39.9	40.8	1.1
	沖縄県外	12.3	14.2	36.5	35.8	1.2
	日本国外	5.1	6.9	32.9	54.2	0.9

③人権問題を解決する責任は、まず行政にあると思う



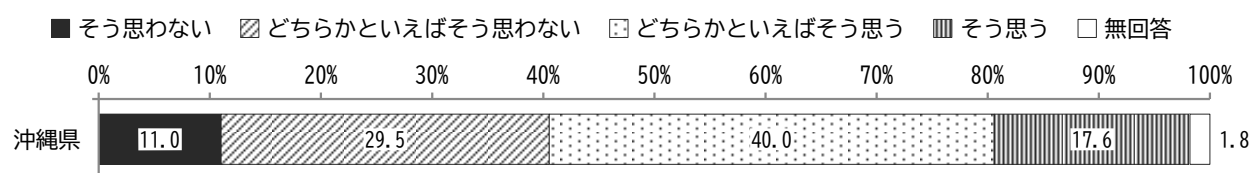
《傾向と分析》

- 性別では、男性は女性より「そう思わない」の割合が 6.1 ポイント高く、女性は「どちらかといえばそう思う」を選択した割合が男性より 5.8 ポイント高かった。
- 年代別では、10 代が全ての年代の中で唯一「そう思う」の割合が 18.9%で最も高い。一方で、30 代以上の層は、「どちらかといえばそう思わない」の割合が 10 代、20 代よりも高めである。人権問題を解決する責任は第一義的に行政が負うものという捉え方はしていないと言える。
- 居住地域別では、北部・宮古・八重山地域は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が 50%を超えており、南部・中部よりも相対的に高めであった。
- 出身地別では、沖縄県外出身者は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合は 55.4%と唯一 50%を超えていた。日本国外出身者は「そう思う」の割合が 22.7%と唯一 20%を超えており、①の結果も考慮に入れると、人権問題に対しては法的規制や行政の責任といった公的セクターの関与をより重視していると考えられる。
- H30 奈良県人権調査の結果では、性別の結果はほぼ同様な回答割合を示していた。年代別の結果に関しては、奈良県民は 70 歳以上を除き「どちらかといえばそう思わない」の回答割合が最も多く(概ね、36%～48%余り)、以下、「どちらかといえばそう思わない」(概ね、29%～36%)、「そう思う」(概ね、12%～18%)、「そう思わない」(概ね、9%～16%)となっていた。沖縄県民の結果は奈良県民よりも、40 代以上の中高年層が、「人権問題を解決する責任は、まず行政にある」とは思っておらず、むしろ個人の側に責任を帰属する傾向があることが次の設問④の結果から裏付けられる。

Ⅱ. 調査結果

		そう思わ ない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	どちらか といえ ばそう 思 う	そう 思 う	無回答
沖縄県		13.4	35.4	35.7	13.4	2.1
性別	男性	16.7	35.4	32.2	13.8	1.9
	女性	10.6	35.9	38.0	13.2	2.2
年代	10代	8.9	30.5	41.6	18.9	-
	20代	16.3	28.2	38.7	15.5	1.3
	30代	10.0	38.1	39.5	11.6	0.8
	40代	17.4	37.6	31.3	13.4	0.3
	50代	12.6	39.6	35.7	10.9	1.4
	60代	13.9	33.3	35.4	12.8	4.7
	70代以上	11.1	35.1	32.3	16.0	5.6
性年代 (男性)	10代	7.0	26.7	44.2	22.1	-
	20代	27.7	26.5	32.3	12.3	1.3
	30代	14.4	37.0	35.9	11.6	1.1
	40代	20.5	34.4	30.4	14.7	-
	50代	11.9	41.8	34.9	10.0	1.5
	60代	16.8	35.4	29.9	14.9	3.0
	70代以上	14.5	39.5	21.0	16.9	8.1
性年代 (女性)	10代	7.1	35.4	40.4	17.2	-
	20代	8.6	29.9	43.0	17.2	1.4
	30代	7.6	39.2	40.8	11.8	0.6
	40代	14.2	41.3	31.0	13.0	0.6
	50代	12.8	38.1	35.9	11.9	1.3
	60代	11.2	31.8	39.8	11.2	6.0
	70代以上	8.6	30.9	41.4	15.4	3.7
居住地域	北部	12.2	39.2	32.4	15.5	0.7
	中部	13.4	33.5	36.3	14.7	2.0
	南部	13.1	35.7	37.3	11.5	2.3
	宮古	16.9	43.2	25.4	12.7	1.7
	八重山	17.0	35.8	27.4	16.0	3.8
出身地	沖縄県内	13.2	35.8	36.9	12.0	2.0
	沖縄県外	18.5	36.9	26.9	16.2	1.5
	日本国外	13.0	28.7	34.7	22.7	0.9

④社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要があると思う



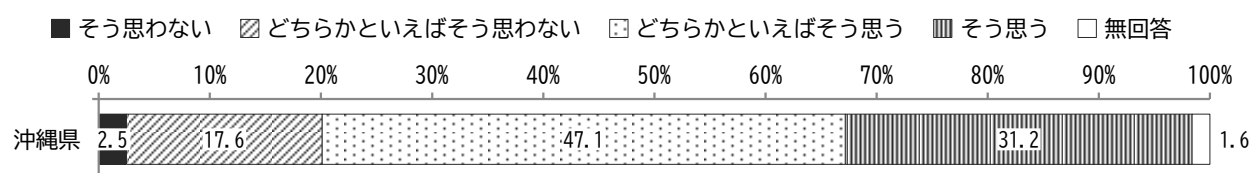
《傾向と分析》

- 性別では、女性は男性より「どちらかといえばそう思わない」の割合が 6.5 ポイント高い一方で、男性は女性より「どちらかといえばそう思う」の割合が 5.6 ポイント高かった。男性は人権や差別の問題を巡って、個人の努力や責任性をより重視する傾向が見られ、女性は社会福祉という公助の力を頼ることの必要性をより重視していると考えられる。
- 年代別では、全ての年代で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が 50%を超えていたが、40 代以上の層は、「そう思わない」の割合が 10 代～30 代よりも高めで 10%台を示していた。年齢層に関わらず、個人の努力といった自助を重視する考えの者と、社会福祉という公助の力を頼ればよいと考える者に分かれると言える。
- 居住地域別では、八重山地域は「そう思わない」の割合が 8.5%と唯一桁台を示す一方、「そう思う」の割合が 23.6%で他地域に比べ最も高かった。すなわち、人権や差別の問題を巡っては、自助努力をより重視する考えの者が多いと言える。
- 出身地別では、沖縄県内出身者と沖縄県外出身者の間で回答傾向に大きな差異は見られなかったが、日本国外出身者は「そう思う」の割合が 39.8%を示し、日本国内出身者より約 23 ポイント以上高かった。③の回答結果と併せると、日本国外出身者は、人権問題に対して法的規制や行政の責任といった公的セクターの関与を重視する一方、個人の自助努力の必要性も重視する傾向があると言える。
- H30 奈良県人権調査の結果では、性別では、「どちらかといえばそう思う」「そう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が男性 59.3%、女性 45%を示していた。沖縄県民の結果は、男性 61.7%、女性 54.2%であり、奈良県民よりも個人の努力が必要だと考える傾向がより強かった。年代別の結果では、奈良県民は 20 歳以下の若年層から 50 歳代までは「どちらかといえばそう思わない」の割合が最も多かった(概ね、42%～46%)が、60 歳代と 70 歳以上は「どちらかといえばそう思う」(順に、41%、46%)、の割合が高く、高年齢層ほど個人の努力の必要性を認識していた。一方の沖縄県民の結果は、「どちらかといえばそう思う」「そう思う」を合わせた肯定的な回答の割合(約 51～68%)の方が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合(30～40%)よりも高かった。つまり、沖縄県民の方が奈良県民よりも、個人の努力の必要性をより強く認識していると言える。

Ⅱ. 調査結果

		そう思わ ない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	どちらか といえ ばそう 思 う	そう 思 う	無 回 答
沖縄県		11.0	29.5	40.0	17.6	1.8
性別	男性	10.5	25.9	42.9	18.8	1.9
	女性	11.5	32.4	37.3	16.9	1.9
年代	10代	4.2	26.8	35.8	32.6	0.5
	20代	8.7	29.7	36.6	23.9	1.1
	30代	9.6	31.1	41.3	17.6	0.4
	40代	12.3	28.4	40.2	18.8	0.3
	50代	13.4	32.1	40.4	12.9	1.2
	60代	10.2	34.1	38.0	13.7	4.0
	70代以上	14.6	17.0	47.9	14.9	5.6
性年代 (男性)	10代	2.3	23.3	45.3	27.9	1.2
	20代	13.5	23.2	37.4	24.5	1.3
	30代	7.7	21.5	45.3	25.4	-
	40代	10.3	23.1	45.4	21.2	-
	50代	13.0	33.0	39.1	13.4	1.5
	60代	10.8	32.5	42.5	11.2	3.0
	70代以上	11.3	15.3	46.8	18.5	8.1
性年代 (女性)	10代	6.1	30.3	27.3	36.4	-
	20代	5.4	34.8	34.8	24.0	0.9
	30代	10.8	35.7	39.5	13.4	0.6
	40代	14.2	33.3	34.2	17.7	0.6
	50代	14.1	31.6	40.6	12.8	0.9
	60代	9.7	35.5	34.7	15.2	4.9
	70代以上	17.3	18.5	48.1	12.3	3.7
居住地域	北部	13.5	34.5	31.8	19.6	0.7
	中部	11.1	29.7	41.9	15.5	1.9
	南部	10.1	27.8	41.1	19.2	1.9
	宮古	16.1	35.6	32.2	13.6	2.5
	八重山	8.5	30.2	34.0	23.6	3.8
出身地	沖縄県内	11.2	29.9	40.8	16.2	1.9
	沖縄県外	13.5	32.7	39.6	13.5	0.8
	日本国外	4.2	19.9	35.2	39.8	0.9

⑤自らの人権や権利ばかりを主張して、他者を尊重しない人が増えていると思う



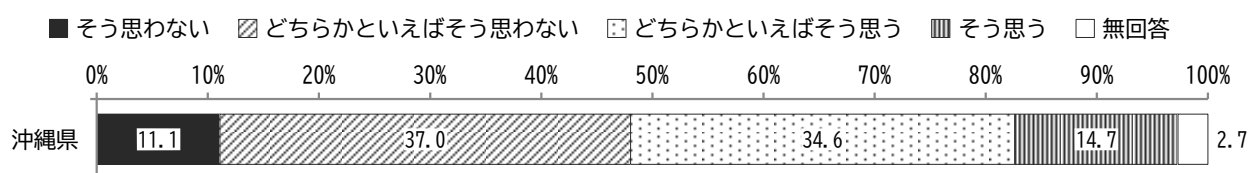
《傾向と分析》

- 性別では、男女ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が76%以上を示しており、他者を尊重しない人が増加していると認識していることが分かる。とりわけ男性は女性より「そう思う」の割合が7.3ポイント高く、他者を尊重しない人の増加を強く感じているようである。
- 年代別では、10代～60代において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が74%以上を示し、70代以上のみ64.9%に留まっていた。また、70代以上は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が唯一30%を超えていた。より年齢の高い高齢者として、日常生活の中で一定の配慮や尊重をされる経験が回答傾向に反映しているのかもしれない。
- 居住地域別では、5つの地域で特段の差異は見られず、単純集計された全体データと概ね同様な傾向を示していた。
- 出身地別にみると、沖縄県外出身者と日本国外出身者は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が沖縄県内出身者よりも若干高く、共に20%を超えていた。また、日本国外出身者は「そう思う」の割合が40.3%を示し、日本国内出身者より約7ポイント程度高かった。Q21「日本国外出身者としての不当な差別的言動の経験」が日本国内出身者よりも比較的高いことが、他者を尊重しない人が増加しているという認識を生み出している可能性が考えられる。

Ⅱ. 調査結果

		そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	無回答
沖縄県		2.5	17.6	47.1	31.2	1.6
性別	男性	2.8	15.1	45.2	35.2	1.7
	女性	2.3	19.5	48.8	27.9	1.5
年代	10代	1.1	13.2	42.1	43.2	0.5
	20代	3.2	20.3	43.9	31.6	1.1
	30代	1.8	13.2	45.5	39.1	0.4
	40代	2.7	13.7	44.7	38.6	0.3
	50代	1.7	22.1	47.2	27.5	1.5
	60代	1.5	18.3	55.6	21.5	3.2
	70代以上	7.3	23.6	43.4	21.5	4.2
性年代 (男性)	10代	-	19.8	36.0	43.0	1.2
	20代	6.5	13.5	43.2	35.5	1.3
	30代	2.2	13.8	35.4	48.6	-
	40代	3.3	12.5	38.5	45.8	-
	50代	1.9	16.1	51.0	29.5	1.5
	60代	0.7	15.3	59.0	22.0	3.0
	70代以上	6.5	19.4	40.3	27.4	6.5
性年代 (女性)	10代	2.0	8.1	48.5	41.4	-
	20代	0.9	24.4	44.3	29.4	0.9
	30代	1.6	13.1	50.6	34.1	0.6
	40代	2.1	14.7	51.0	32.2	-
	50代	1.6	26.9	44.7	25.3	1.6
	60代	2.0	20.6	53.3	20.6	3.4
	70代以上	8.0	26.5	45.7	17.3	2.5
居住地域	北部	5.4	18.2	43.9	31.8	0.7
	中部	2.2	17.6	46.4	32.3	1.5
	南部	2.0	17.6	48.3	30.4	1.7
	宮古	5.1	18.6	45.8	28.0	2.5
	八重山	1.9	16.0	50.0	29.2	2.8
出身地	沖縄県内	2.5	17.2	48.5	30.3	1.6
	沖縄県外	3.5	17.7	45.4	32.7	0.8
	日本国外	2.8	20.8	35.2	40.3	0.9

⑥学校では、権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだと思う



《傾向と分析》

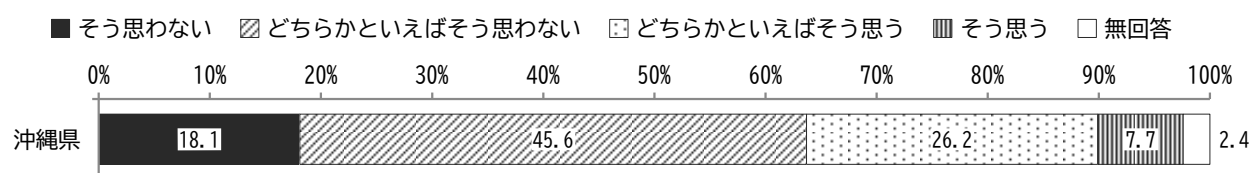
- 性別では、女性の方が男性より「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が高い一方、男性は女性より「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が 13.5 ポイント以上高かった。女性は学校において、より個人の権利が優先されるべきと捉えており、逆に男性はみんなの利益が優先されると考えていることが読み取れる。これは裏を返せば、個々の女性の権利が、学校現場において十分に尊重されていないことを物語っている可能性があり、ジェンダー平等が学校現場でどのように展開しているかを振り返る必要性を示唆する。
- 年代別では、70 代以上で「どちらかといえばそう思わない」の割合が 26.0%と他の年代よりも 7.2 ポイント以上低かった他は、特に大きな差異は見られなかった。
- 居住地域別では、南部と八重山地域で「そう思わない」の割合が 10%未満で、八重山地域の「そう思う」の割合が唯一 20%を超えている他は、地域間で特段の差異は見られなかった。
- 出身地別では、日本国内出身者（沖縄県内出身者と沖縄県外出身者）の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が 48.1～59.2%を示したのに対し、日本国外出身者は 30.1%と 3 割程度であった。日本国外出身者は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が 69.0%と、日本国内出身者よりも 19 ポイント以上高かった。日本国外出身の方が学校現場において、個人の権利よりみんなの利益が優先されるべきという考えを持っているようである。「郷に入っては郷に従え」という日本の古い格言に見られるように、日本国外出身者は日本や沖縄という異文化に円滑な参入を果たしていく上で、渡辺(1995)³³が言及している文化的適応(cultural adjustment)の方策として協調性や和を尊ぶ考え方を経験又は学習によって体得していることが考えられる。

³³ 渡辺文夫 編著 (1995). 異文化接触の心理学—その現状と理論— 川島書店

Ⅱ. 調査結果

		そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	無回答
沖縄県		11.1	37.0	34.6	14.7	2.7
性別	男性	9.0	31.6	38.5	18.4	2.4
	女性	12.4	41.3	31.8	11.6	2.9
年代	10代	6.8	33.2	40.0	19.5	0.5
	20代	8.2	39.5	31.6	19.2	1.6
	30代	12.2	42.1	30.7	14.2	0.8
	40代	13.9	37.6	32.2	14.7	1.6
	50代	8.8	36.8	39.9	11.7	2.7
	60代	11.3	37.3	32.3	13.7	5.3
	70代以上	13.2	26.0	41.3	14.6	4.9
性年代 (男性)	10代	7.0	36.0	38.4	17.4	1.2
	20代	10.3	34.2	33.5	20.6	1.3
	30代	9.4	26.5	40.3	23.8	-
	40代	15.0	27.5	35.5	19.8	2.2
	50代	7.3	39.1	43.7	8.4	1.5
	60代	3.4	36.2	36.6	20.1	3.7
	70代以上	11.3	16.9	41.1	22.6	8.1
性年代 (女性)	10代	6.1	32.3	41.4	20.2	-
	20代	6.8	43.0	29.9	18.6	1.8
	30代	14.0	50.3	25.5	8.9	1.3
	40代	12.1	46.9	30.4	9.4	1.2
	50代	10.3	35.9	36.6	13.4	3.8
	60代	16.9	38.4	29.2	8.9	6.6
	70代以上	14.8	32.7	41.4	8.6	2.5
居住地域	北部	18.9	36.5	29.1	14.2	1.4
	中部	10.7	35.9	36.3	14.2	2.9
	南部	9.5	38.5	34.6	14.8	2.6
	宮古	16.1	36.4	31.4	13.6	2.5
	八重山	8.5	33.0	32.1	21.7	4.7
出身地	沖縄県内	10.8	37.3	34.9	14.3	2.7
	沖縄県外	16.9	42.3	31.9	6.9	1.9
	日本国外	7.9	22.2	39.4	29.6	0.9

⑦個人の権利より、地域や職場など、みんなの利益が優先されるべきだと思う



《傾向と分析》

- 性別では、女性の方が男性より「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が高かった。一方で男性は女性より「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が8.5ポイント高かった。質問⑥と同様に、女性は個人の権利が、男性はみんなの利益が、より優先されるべきと捉えていた。これも、男性中心主義的な地域や職場のあり方が、女性個人の権利が優先されるべきとする意識を強めている可能性が考えられる。
- 年代別では、10代、20代において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が比較的高く、集団主義的あるいは相互協調的（高野, 2008³⁴; Markus & Kitayama, 1991³⁵）な心性の強さが伺える。一方、70代以上で「そう思わない」の割合が24.3%と他の年代よりも3.7～13.8ポイントも高いことが目に付いた。70代以上の高齢者層は、生活の様々な場面の中で個人の権利が後回しにされるような経験をし、それが回答傾向に現れたのかもしれない。
- 居住地域別では、北部と宮古地域で「そう思わない」の割合が20%台後半を示し、他地域よりも10ポイント以上高かったことが特筆される。ただし、その理由について一定の合理性がある解釈や説明は困難である。
- 出身地別では、日本国内出身者（沖縄県内出身者と沖縄県外出身者）の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が63.9～64.9%を示したのに対し、日本国外出身者は54.2%と9.7ポイント低かった。一方で、日本国外出身者は「そう思う」の割合が18.1%と、日本国内出身者よりも11ポイント以上高かった。これも、質問⑥同様に、文化的適応の方策として、公共の利益や協調性を重んじる心性を取り入れている可能性を示唆する。

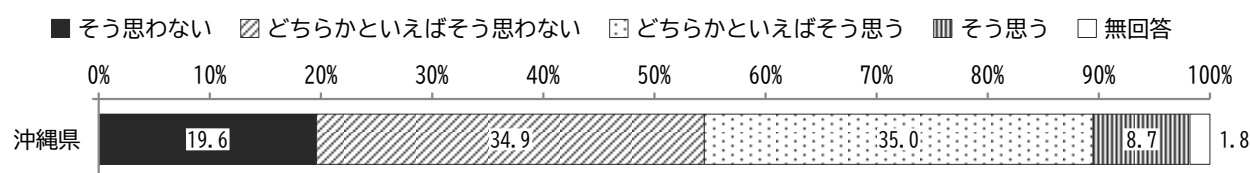
³⁴ 高野陽太郎（2008）. 「集団主義」という錯覚—日本人論の思い違いとその由来— 新曜社

³⁵ Markus, H.R., & Kitayama, S. (1991). Culture and the self: Implications for cognition, emotion and motivation. *Psychological Review*, 98(2), 224-253.

Ⅱ. 調査結果

		そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	無回答
沖縄県		18.1	45.6	26.2	7.7	2.4
性別	男性	17.5	41.9	30.3	8.4	1.9
	女性	18.8	48.4	23.0	7.2	2.6
年代	10代	10.5	40.0	36.3	12.1	1.1
	20代	18.9	44.7	24.2	10.0	2.1
	30代	15.6	50.7	24.0	9.2	0.4
	40代	20.6	47.2	23.1	8.1	1.0
	50代	16.5	44.0	32.3	5.8	1.5
	60代	17.6	49.4	22.1	5.5	5.3
	70代以上	24.3	35.1	28.8	6.9	4.9
性年代 (男性)	10代	10.5	43.0	34.9	9.3	2.3
	20代	21.9	41.3	25.8	9.7	1.3
	30代	16.0	42.5	29.8	11.6	—
	40代	21.2	39.9	30.4	8.4	—
	50代	15.3	40.6	40.2	2.3	1.5
	60代	13.4	49.6	24.6	9.3	3.0
	70代以上	24.2	31.5	23.4	12.9	8.1
性年代 (女性)	10代	11.1	37.4	36.4	15.2	—
	20代	16.3	48.0	22.6	10.4	2.7
	30代	15.6	55.4	20.4	8.0	0.6
	40代	20.6	52.8	17.7	7.7	1.2
	50代	17.8	46.6	25.9	8.1	1.6
	60代	20.9	49.0	20.3	2.6	7.2
	70代以上	24.7	37.7	32.7	2.5	2.5
居住地域	北部	29.1	39.2	22.3	8.1	1.4
	中部	15.9	46.7	26.7	8.0	2.6
	南部	17.1	46.1	26.8	7.6	2.3
	宮古	27.1	42.4	23.7	4.2	2.5
	八重山	16.0	48.1	24.5	8.5	2.8
出身地	沖縄県内	18.6	46.3	25.9	6.8	2.4
	沖縄県外	20.8	43.1	28.5	6.2	1.5
	日本国外	10.2	44.0	26.9	18.1	0.9

⑧現代は競争社会であり、個人の能力差があることで差別が生じるのは仕方がないと思う



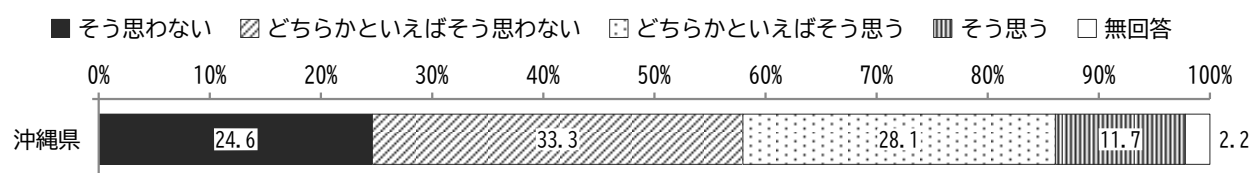
《傾向と分析》

- 性別では、男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合（48.4%）と「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合（49.8%）がほぼ拮抗しているのに対し、女性は肯定的でない回答の割合（58.2%）の方が肯定的な回答の割合（40.0%）よりも 18 ポイント近く高いという結果であった。男性は個人の能力差が存在すれば差別を甘んじて受容したり是認したりする意識が、女性に比べてかなり強く見られると言える。
- 年代別では、10 代～30 代の若年世代の方が 40 代以上の中高年齢層より、個人差に由来する差別を受容する意識が強く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が 50%を超えていた。その差はより年代層が高くなるにつれて大きく、70 代以上との差は 16.1 ポイントにも達していた。
- 居住地域別では、北部・南部地域は「どちらかといえばそう思う」の割合が他の回答と比べて最も高く（順に、33.8%、37.9%）、中部・宮古・八重山地域は「どちらかといえばそう思わない」の割合が高かった（順に、36.9%、39.8%、35.8%）。個人差に由来する差別の受容について、「そう思う」と肯定する回答の地域差は比較的小さい（6.6%～9.5%）が、「そう思わない」と肯定的ではない回答をする傾向の地域差は比較的大きい（17.6%～29.1%）。この差がどのような要因によるのかは不明であり、差別の非受容意識の差を規定する要因の研究が待たれる。
- 出身地別では、日本国内出身者（沖縄県内出身者と沖縄県外出身者）の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合は 53.8～55.3%を示したのに対し、日本国外出身者は 44.5%と 9 ポイント程度低かった。一方、日本国外出身者は「そう思う」の割合が 23.1%と、日本国内出身者よりも 15.5 ポイント以上高かった。日本国外出身者にとって、個人の能力差によって差別が生じるのは仕方がないと受容されているようである。

Ⅱ. 調査結果

		そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	無回答
沖縄県		19.6	34.9	35.0	8.7	1.8
性別	男性	18.2	31.6	36.0	12.4	1.8
	女性	20.8	37.4	34.1	5.9	1.9
年代	10代	13.2	31.1	42.1	13.7	—
	20代	13.9	30.5	41.8	12.6	1.1
	30代	14.2	34.5	37.5	13.4	0.4
	40代	23.3	34.0	33.5	8.6	0.6
	50代	21.1	35.5	37.5	4.8	1.2
	60代	23.4	38.3	28.1	6.5	3.7
	70代以上	21.9	37.8	30.6	4.2	5.6
性年代 (男性)	10代	16.3	34.9	27.9	20.9	—
	20代	13.5	20.6	47.1	17.4	1.3
	30代	11.6	29.8	40.3	18.2	—
	40代	24.2	27.5	34.8	12.8	0.7
	50代	18.4	34.1	38.3	7.7	1.5
	60代	17.2	40.7	30.6	9.3	2.2
	70代以上	24.2	29.8	29.8	8.1	8.1
性年代 (女性)	10代	11.1	28.3	54.5	6.1	—
	20代	14.5	38.0	37.1	9.5	0.9
	30代	15.9	37.6	35.0	10.8	0.6
	40代	22.1	38.3	33.3	5.6	0.6
	50代	23.8	36.3	36.6	2.5	0.9
	60代	27.8	36.7	26.4	4.3	4.9
	70代以上	20.4	43.8	30.9	1.2	3.7
居住地域	北部	29.1	26.4	33.8	9.5	1.4
	中部	18.9	36.9	33.4	8.8	2.0
	南部	17.6	34.3	37.9	8.6	1.6
	宮古	28.8	39.8	22.0	6.8	2.5
	八重山	19.8	35.8	34.9	6.6	2.8
出身地	沖縄県内	19.5	35.8	35.2	7.6	1.9
	沖縄県外	24.2	29.6	39.6	5.8	0.8
	日本国外	13.0	31.5	31.5	23.1	0.9

⑨人権問題は、差別する人、差別される人のどちらにも要因があると思う



《傾向と分析》

- 性別では、男性は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合(53.1%)が高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合(45.3%)はやや低かった。女性も同様な傾向にあるが、肯定的でない回答の割合(61.9%)と肯定的な回答の割合(35.6%)の差がより顕著であった。男女ともに、「人権問題は、差別する人、差別される人のどちらにも要因がある」とは考えていないことを意味する。おそらく差別する側に問題があると捉えていることが推察される。
- 年代別では、全ての年代にわたって、とりたてて顕著な違いは見られなかった。
- 居住地域別では、北部地域は「そう思わない」の割合が他の回答の割合と比べて最も高く 33.1%を示していたが、それ以外の地域は全体データの傾向と概ね同様であった。
- 出身地別では、沖縄県内出身者は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合が約 6 割(60.2%)に達しており最も高かったが、沖縄県外出身者(53.0%)は 7.2 ポイント低く、日本国外出身者(39.3%)は 20.9 ポイントも低かった。むしろ、日本国外出身者は「そう思う」の肯定的な回答の割合が 24.5%と、日本国内出身者よりも 13.3 ポイント以上高かった。「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合は 59.7%と 6 割近くに達していた。つまり、日本国外出身者にとって、「人権問題は、差別する人、差別される人のどちらにも要因がある」と思われている事象であると捉えられていると言える。日本国外出身者は人権問題を全面的に差別者側の問題と捉えているのではなく、差別される側にも原因帰属する傾向があることを示しており、問④で自助努力の必要性を重視する考え方とも一貫していると言えるだろう。
- 同様の質問項目「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」を設定している H30 奈良県人権調査³⁶の結果では、男女ともに肯定的な回答の割合が高く(男性:60.5%、女性 51.6%)、肯定的でない回答の割合はやや低かった(男性:37.7%、女性 44.6%)。奈良県民は「人権問題は、差別するだけでなく、差別される人にも問題がある」と捉えているのに比較すると、沖縄県民は、そのようにとらえていない傾向が示されていると言える。

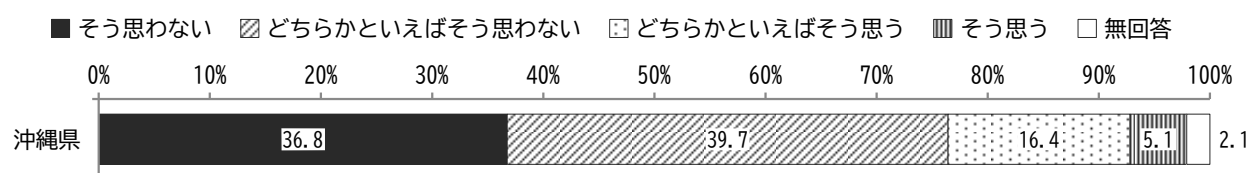
³⁶ 奈良県 (2018) 「人権に関する県民意識調査」調査報告書 第2部～属性別クロス集計結果～

<https://www.pref.nara.jp/secure/196054/tyousahoukoku2.pdf> (2025年3月10日閲覧)

Ⅱ. 調査結果

		そう思わ ない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	どちらか といえ ばそう 思 う	そう 思 う	無 回 答
沖縄県		24.6	33.3	28.1	11.7	2.2
性別	男性	22.7	30.4	29.2	16.1	1.6
	女性	26.4	35.5	27.0	8.6	2.6
年代	10代	23.7	35.8	23.7	16.8	—
	20代	23.9	35.3	26.3	13.4	1.1
	30代	22.6	38.3	27.5	11.2	0.4
	40代	25.4	32.1	28.5	13.7	0.3
	50代	25.6	31.7	31.9	8.8	1.9
	60代	25.2	32.8	27.8	9.2	5.0
	70代以上	24.7	28.1	26.7	13.9	6.6
性年代 (男性)	10代	24.4	25.6	29.1	20.9	—
	20代	20.6	31.6	29.7	16.8	1.3
	30代	22.1	34.8	26.5	16.6	—
	40代	24.2	30.8	26.7	18.3	—
	50代	23.8	26.8	35.2	12.6	1.5
	60代	21.3	35.4	26.9	14.2	2.2
	70代以上	22.6	22.6	29.0	17.7	8.1
性年代 (女性)	10代	24.2	45.5	18.2	12.1	—
	20代	26.7	37.6	23.5	11.3	0.9
	30代	23.2	40.1	28.3	7.6	0.6
	40代	26.5	33.3	29.5	10.6	—
	50代	27.8	35.3	28.8	5.9	2.2
	60代	28.4	30.9	28.1	5.4	7.2
	70代以上	25.9	32.7	24.7	11.1	5.6
居住地域	北部	33.1	25.7	25.0	14.9	1.4
	中部	23.3	34.6	27.7	12.1	2.3
	南部	23.5	34.0	29.1	11.2	2.2
	宮古	28.8	31.4	28.0	8.5	3.4
	八重山	26.4	32.1	29.2	9.4	2.8
出身地	沖縄県内	25.2	35.0	27.0	10.5	2.3
	沖縄県外	26.5	26.5	34.2	11.2	1.5
	日本国外	17.1	22.2	35.2	24.5	0.9

⑩あらゆる言動（差別的発言を含む）は、表現の自由であるべきだと思う



《傾向と分析》

- 性別では、男女ともに同様な傾向を示し、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合（男性：73.3%、女性：79.0%）が高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合（男性：24.8%、女性：18.7%）は低かった。回答者の割合の差は、女性においてより顕著であった。すなわち男女ともに、「あらゆる言動（差別的発言を含む）は、表現の自由であるべきだと思う」を肯定しない捉え方をしており、表現の自由の名の下に差別的発言を含むあらゆる言動が許されるわけではない、という見方がなされていることを意味する。
- 年代別では、10代、20代の若年層は30代以上の中高年層よりも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が高め（10代：33.7%、20代：29.2%）で、3割程度が差別的発言を含むあらゆる言動を表現の自由であるべきとして肯定する割合が、他の年代層よりも高いことを示していた。Q12「ヘイトスピーチの見聞についてどう思ったか」についての回答で、10代、20代は「不愉快で許せないと思った」の回答の割合が50代以上の中高年層よりも平均して14.2ポイント程度低く、「表現の自由の範囲内のものだと思った」や「自分には関係ないと思った」、「何も思わなかった」の回答の割合が高めであった。このことを合わせて考えると、若年層は自らが当事者とならなければ、たとえ社会的に問題がある差別的言動であっても、それを容認・黙認する傾向があることを示すと言える。
- 居住地域別では、北部地域は「そう思わない」の割合が他の回答と比べて最も高く41.2%を示しており、これは問⑨とも一貫した回答傾向であった。それ以外の地域は全体データの傾向と概ね同様であり、特筆されるような違いは見られなかった。
- 出身地別では、日本国内出身者の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた肯定的でない回答の割合は、沖縄県内出身者が77.9%、沖縄県外出身者77.7%でほぼ同様であった。ともに8割近くが、「差別的発言を含むあらゆる言動は、表現の自由であるべき」とは思っていない。一方で、日本国外出身者は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が40.3%と4割に達しており、日本国内出身者に比べて差別的言動の問題性より表現の自由の方を優先する考え方をしていると言える。表現の自由の保障は、人権を擁護する上で何より重要であるとの認識によるものと思われる。

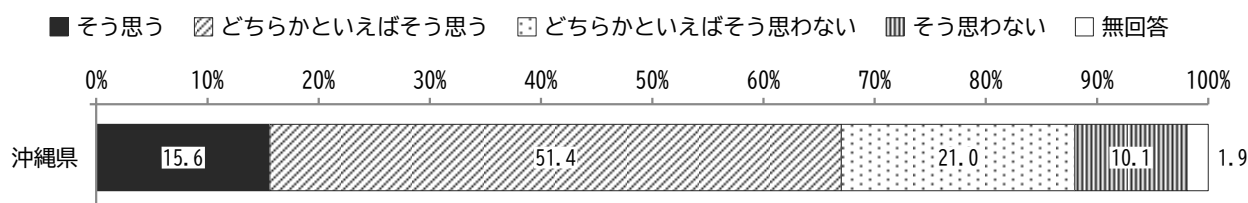
Ⅱ. 調査結果

		そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	そう思う	無回答
沖縄県		36.8	39.7	16.4	5.1	2.1
性別	男性	35.9	37.4	18.8	6.0	1.9
	女性	37.5	41.5	14.4	4.3	2.3
年代	10代	38.4	27.4	24.2	9.5	0.5
	20代	35.0	34.7	21.6	7.6	1.1
	30代	30.9	47.1	16.6	4.6	0.8
	40代	37.2	43.2	15.2	4.5	–
	50代	35.0	39.0	20.0	3.4	2.5
	60代	42.0	40.1	10.3	3.6	4.0
	70代以上	41.0	34.7	12.5	6.6	5.2
性年代 (男性)	10代	39.5	22.1	30.2	7.0	1.2
	20代	31.0	41.3	16.8	9.7	1.3
	30代	27.1	42.5	23.8	5.5	1.1
	40代	38.1	36.3	18.3	7.3	–
	50代	37.5	33.3	23.8	3.8	1.5
	60代	38.4	42.5	12.7	4.1	2.2
	70代以上	39.5	36.3	8.9	7.3	8.1
性年代 (女性)	10代	37.4	32.3	20.2	10.1	–
	20代	38.5	29.9	24.4	6.3	0.9
	30代	33.4	50.3	12.1	3.5	0.6
	40代	36.0	49.0	12.7	2.4	–
	50代	33.8	43.4	16.3	3.1	3.4
	60代	44.4	38.4	8.6	3.2	5.4
	70代以上	42.0	34.0	14.8	6.2	3.1
居住地域	北部	41.2	38.5	11.5	7.4	1.4
	中部	38.0	37.7	17.0	4.8	2.5
	南部	35.0	41.8	17.0	4.6	1.6
	宮古	33.9	40.7	15.3	6.8	3.4
	八重山	34.9	37.7	17.0	6.6	3.8
出身地	沖縄県内	37.5	40.4	15.5	4.5	2.1
	沖縄県外	36.9	40.8	17.3	3.5	1.5
	日本国外	26.9	31.0	27.3	13.0	1.9

3 現在の日本は、治安がよく安心して暮らせる国か

Q30 あなたは、現在の日本が、治安がよく、安全で安心して暮らせる国だと思いますか。(○は1つ)

- 現在の日本が、治安がよく、安全で安心して暮らせる国かどうかについて、「どちらかといえばそう思う」が51.4%、「どちらかといえばそう思わない」が21.0%となっている。



≪傾向と分析≫

- 性別では、男性は女性より「そう思う」の割合が10ポイント程度高く、女性は男性より「どちらかといえばそう思わない」の割合が10ポイント高かった。女性の方が男性より、いわゆる「体感治安」の不安が高いことを示しており、内閣府が令和3(2021)年12月に実施した「治安に関する世論調査」³⁷や法務省による「第5回犯罪被害実態(暗数)調査－安全・安心な社会づくりのための基礎調査－」³⁸の「我が国の治安に関する認識」の性差とも概ね一致していた。
- 年代別では、10代、20代の若年層は30代以上の中高年層よりも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が若干高め(10代:73.7%、20代:70.8%)で、7割程度が「現在の日本が、治安がよく、安全で安心して暮らせる国」だと思っていることを示していた。
- 居住地域別では、5つの地域の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合に大きな差は見られず、概ね63%～70%程度が体感治安として安心・安全であると捉えている傾向が読み取れる。
- 出身地別にみると、沖縄県内出身者は「そう思わない」の割合(11.2%)が沖縄県外出身者(5.8%)や日本国外出身者(1.9%)よりも5～9ポイント程度高かった。一方で、日本国外出身者は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が90.7%と9割に達しており、日本国内出身者に比べて日本を安全・安心な国と捉えている傾向が、より強かった。現在のわが国が世界で最も治安のよい国の一つとされている³⁹との言説を裏付ける結果と捉えられる。

³⁷ 内閣府 (2022). 「治安に関する世論調査」(令和3年12月調査) 調査結果の概要 <https://survey.gov-online.go.jp/hutai/r03/r03-chian/r03-chiang.pdf> (2025年3月10日閲覧)

³⁸ 法務省 (2020). 「第5回犯罪被害実態(暗数)調査－安全・安心な社会づくりのための基礎調査－」 法務総合研究所研究部報告61 <https://www.moj.go.jp/content/001316211.pdf> (2025年3月10日閲覧)

³⁹ 木村光江 (2024). 近年の犯罪状況と今後の課題 日本大学法科大学院「法務研究」第21号, 1-19.

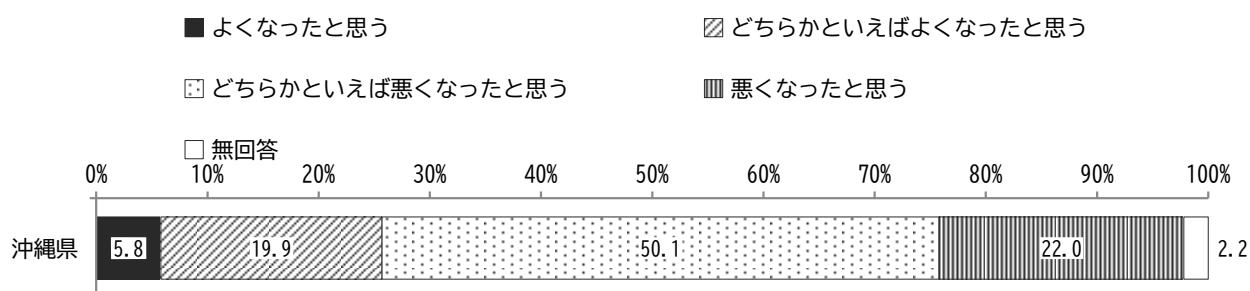
Ⅱ. 調査結果

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	無回答
沖縄県		 15.6	 51.4	 21.0	 10.1	1.9
性別	男性	 21.6	 52.5	 15.2	 8.2	2.5
	女性	 11.2	 50.9	 25.2	 11.3	1.4
年代	10代	 17.9	 55.8	 17.9	 7.4	1.1
	20代	 20.8	 50.0	 18.7	 9.7	0.8
	30代	 19.4	 43.5	 24.0	 13.0	—
	40代	 14.7	 52.0	 20.9	 11.8	0.6
	50代	 15.3	 53.1	 18.7	 10.5	2.4
	60代	 11.1	 56.9	 21.8	 6.6	3.6
	70代以上	 13.5	 47.2	 24.3	 10.4	4.5
性年代 (男性)	10代	 24.4	 61.6	 11.6	 2.3	—
	20代	 31.0	 45.2	 16.1	 5.8	1.9
	30代	 35.4	 42.5	 13.3	 8.8	—
	40代	 17.6	 53.5	 16.1	 11.4	1.5
	50代	 16.1	 56.7	 13.8	 11.1	2.3
	60代	 17.5	 57.5	 16.4	 4.9	3.7
	70代以上	 16.9	 47.6	 17.7	 8.9	8.9
性年代 (女性)	10代	 13.1	 50.5	 22.2	 12.1	2.0
	20代	 14.0	 54.3	 19.9	 11.8	—
	30代	 10.5	 43.9	 29.9	 15.6	—
	40代	 12.4	 52.5	 23.9	 11.2	—
	50代	 15.0	 49.1	 23.1	 10.3	2.5
	60代	 5.7	 56.7	 26.1	 8.0	3.4
	70代以上	 9.9	 47.5	 29.6	 11.7	1.2
居住地域	北部	 15.5	 48.0	 24.3	 10.1	2.0
	中部	 15.8	 53.6	 19.5	 9.6	1.5
	南部	 14.1	 51.4	 21.8	 10.8	1.9
	宮古	 29.7	 33.9	 23.7	 8.5	4.2
	八重山	 17.9	 52.8	 17.9	 8.5	2.8
出身地	沖縄県内	 12.2	 53.0	 21.5	 11.2	2.0
	沖縄県外	 14.2	 53.5	 25.8	 5.8	0.8
	日本国外	 57.4	 33.3	 6.5	 1.9	0.9

4 ここ10年で日本の治安はよくなったと思うか

Q31 あなたは、ここ10年で日本の治安はよくなったと思いますか。それとも、悪くなったと思いますか。(○は1つ)

- ここ10年の日本の治安について、「どちらかといえば悪くなったと思う」が50.1%、「悪くなったと思う」が22.0%となっている。



《傾向と分析》

- 性別では、男女ともに「悪くなったと思う」「どちらかといえば悪くなったと思う」を合わせた肯定的でない回答の割合が高く(男性:67%、女性:75.5%)、最近の治安に関する認識は悪化していると言える。この回答傾向は、R4 内閣府人権世論調査の結果とも一致している。
- 年代別では、10代、20代の若年層は30代以上の中高年層よりも、「よくなったと思う」「どちらかといえばよくなったと思う」を合わせた肯定的な回答の割合が高め(10代:50.0%、20代:36.8%)で、30代以上が71~77%程度の割合で「ここ最近の治安の悪化」を感じているのとは対照的であった。
- 居住地別では、5つの地域で回答の割合に大きな差は見られず、強いて言えば、北部地域で「どちらかといえばよくなったと思う」の割合が他地域よりも5ポイント以上高かったことが挙げられる。
- 出身地別では、沖縄県内出身者も沖縄県外出身者も共に、「悪くなったと思う」「どちらかといえば悪くなったと思う」を合わせた肯定的でない回答の割合が高かった(沖縄県内:73.6%、沖縄県外:78.1%)。一方で、日本国外出身者は「よくなったと思う」「どちらかといえばよくなったと思う」を合わせた肯定的な回答の割合が55.1%と5割を超えており、20%代前半に留まる日本国内出身者の回答傾向とは異なる認識を持っていることが示された。

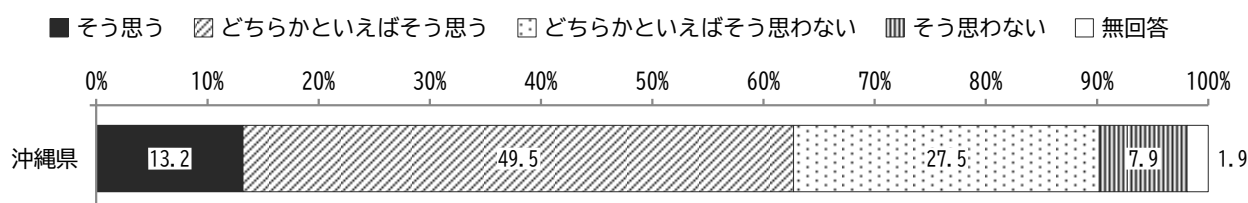
Ⅱ. 調査結果

		よくなった と思う	どちらか といえよ くなった と思う	どちらか といえ悪 くなった と思う	悪くなった と思う	無回答
沖縄県		5.8	19.9	50.1	22.0	2.2
性別	男性	7.9	22.1	45.4	21.6	3.0
	女性	4.4	18.5	53.1	22.4	1.7
年代	10代	11.6	38.4	41.1	7.4	1.6
	20代	10.5	26.3	43.9	17.4	1.8
	30代	8.6	17.2	47.7	25.9	0.6
	40代	4.8	16.6	49.8	28.1	0.8
	50代	3.6	17.3	51.6	25.1	2.4
	60代	2.4	18.6	55.4	20.0	3.6
	70代以上	5.2	18.4	55.2	16.3	4.9
性年代 (男性)	10代	14.0	32.6	45.3	7.0	1.2
	20代	14.8	25.8	38.1	16.8	4.5
	30代	16.6	20.4	44.8	18.2	-
	40代	5.9	18.7	41.0	32.6	1.8
	50代	3.1	17.6	47.5	29.5	2.3
	60代	4.5	22.8	51.9	17.2	3.7
	70代以上	4.0	27.4	47.6	12.1	8.9
性年代 (女性)	10代	10.1	45.5	34.3	8.1	2.0
	20代	7.7	26.2	48.0	18.1	-
	30代	4.1	15.6	49.4	29.9	1.0
	40代	4.1	15.6	56.0	24.2	-
	50代	4.1	17.5	53.8	22.2	2.5
	60代	0.9	15.5	57.9	22.3	3.4
	70代以上	5.6	11.1	61.7	19.8	1.9
居住地域	北部	6.1	25.0	46.6	19.6	2.7
	中部	6.5	19.3	52.6	19.6	2.0
	南部	5.0	19.9	48.4	24.8	1.9
	宮古	8.5	13.6	51.7	22.0	4.2
	八重山	3.8	19.8	50.9	20.8	4.7
出身地	沖縄県内	4.7	19.6	51.1	22.5	2.2
	沖縄県外	4.6	16.2	51.2	26.9	1.2
	日本国外	24.1	31.0	31.5	10.6	2.8

5 現在の沖縄は、治安がよく安心して暮らせる地域か

Q32 あなたは、現在の沖縄が、治安がよく、安全で安心して暮らせる地域だと思いますか。(〇は1つ)

- 現在の沖縄が、治安がよく、安全で安心して暮らせる地域かどうかについて、「どちらかといえばそう思う」が49.5%、「どちらかといえばそう思わない」が27.5%となっている。



≪傾向と分析≫

- 性別では、男女ともに 6 割以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しており、「現在の沖縄は、治安が良く安心して暮らせる地域」だと認識していることを示していた。
- 年代別では、10 代、20 代の若年層は 30 代以上の中高年層よりも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が高め(10 代:68.9%、20 代:73.2%)で、30 代以上の平均は 59~63%程度であった。30 代以上の中高年層の方が若干、若年層よりも「現在の沖縄は、治安が良く安心して暮らせる地域」だとする認識が弱いことを示している。
- 居住地域別では、宮古地域で「そう思う」の割合が 23.7%と他地域よりも 7 ポイント以上高く、八重山地域で「どちらかといえばそう思う」の割合が他地域より 2~17 ポイント程度高かったことが大きな差異であった。
- 出身地別では、沖縄県内出身者も沖縄県外出身者も共に 6 割程度が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答(沖縄県内:61.2%、沖縄県外:58.8%)を示していた。同様に日本国外出身者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答は 87.1%に達しており、沖縄地域の治安の良さを体感している結果が示された。

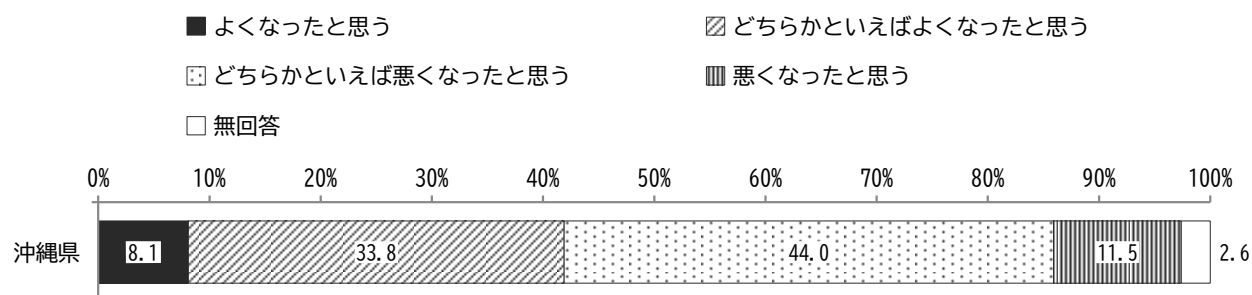
Ⅱ. 調査結果

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
沖縄県		13.2	49.5	27.5	7.9	1.9
性別	男性	17.2	48.3	24.8	7.0	2.7
	女性	10.3	50.6	29.2	8.6	1.3
年代	10代	14.2	54.7	23.2	5.8	2.1
	20代	18.7	54.5	20.8	5.3	0.8
	30代	16.6	43.3	30.9	9.2	-
	40代	9.4	51.2	28.5	10.2	0.6
	50代	12.6	50.8	27.7	6.6	2.4
	60代	10.3	48.8	30.2	7.1	3.6
	70代以上	15.3	44.8	25.7	10.4	3.8
性年代 (男性)	10代	15.1	55.8	19.8	7.0	2.3
	20代	23.9	49.0	22.6	2.6	1.9
	30代	29.8	42.0	19.3	8.8	-
	40代	15.8	46.9	25.6	10.3	1.5
	50代	11.5	50.2	30.3	5.7	2.3
	60代	12.3	51.1	29.1	3.7	3.7
	70代以上	17.7	43.5	16.9	12.9	8.9
性年代 (女性)	10代	14.1	53.5	25.3	5.1	2.0
	20代	15.4	57.5	19.9	7.2	-
	30代	9.2	43.9	37.3	9.6	-
	40代	4.7	55.8	29.2	10.3	-
	50代	13.8	51.9	25.0	6.9	2.5
	60代	8.3	47.3	31.2	9.7	3.4
	70代以上	12.3	46.3	32.7	8.6	-
居住地域	北部	16.2	48.0	25.7	8.1	2.0
	中部	13.8	51.8	25.3	7.4	1.7
	南部	11.2	48.3	30.3	8.4	1.9
	宮古	23.7	37.3	26.3	9.3	3.4
	八重山	11.3	54.7	25.5	6.6	1.9
出身地	沖縄県内	11.1	50.1	28.7	8.1	2.0
	沖縄県外	5.0	53.8	29.6	11.5	-
	日本国外	49.1	38.0	10.2	1.9	0.9

6 ここ10年で沖縄の治安はよくなったと思うか

Q33 あなたは、ここ10年で沖縄の治安はよくなったと思いますか。それとも、悪くなったと思いますか。(○は1つ)

- ここ10年の沖縄の治安について、「どちらかといえば悪くなったと思う」が44.0%、「どちらかといえばよくなったと思う」が33.8%となっている。



≪傾向と分析≫

- 性別では、男女ともに「悪くなったと思う」「どちらかといえば悪くなったと思う」を合わせた肯定的でない回答の割合が高く(男性:50.6%、女性:58.5%)、最近の沖縄の治安情勢に関する認識がやや悪化していることを示していた。
- 年代別では、10代、20代の若年層は30代以上の中老年層よりも、「よくなったと思う」「どちらかといえばよくなったと思う」を合わせた肯定的な回答の割合が高め(10代:61.1%、20代:56.8%)で、40代以上の肯定的な回答の割合は30%台に留まっていた。
- 居住地域別では、南部・宮古地域で「よくなったと思う」「どちらかといえばよくなったと思う」を合わせた肯定的な回答の割合が4割未満とやや低く(南部:38.5%、宮古:35.6%)、八重山(42.5%)、中部(44.8%)、北部(48.0%)とやや異なる傾向を示していた。
- 出身地別では、沖縄県内出身者も沖縄県外出身者も共に、「悪くなったと思う」「どちらかといえば悪くなったと思う」を合わせた肯定的でない回答の割合が高く(沖縄県内:57.6%、沖縄県外:58.4%)、6割近くが最近の沖縄の治安を悪化していると捉えていた。一方、日本国外出身者は肯定的でない回答の割合が29.6%と3割程度に留まっており、日本国内出身者に比べて「最近の沖縄は治安が悪化している」と捉える傾向は弱かった。

Ⅱ. 調査結果

		よくなった と思う	どちらか といえばよ くなったと 思う	どちらか といえば悪 くなったと 思う	悪くなった と思う	無回答
沖縄県		8.1	33.8	44.0	11.5	2.6
性別	男性	10.1	36.2	38.9	11.7	3.1
	女性	6.8	32.5	47.3	11.2	2.2
年代	10代	13.2	47.9	33.7	3.7	1.6
	20代	14.2	42.6	30.5	10.0	2.6
	30代	12.4	31.3	42.1	13.8	0.4
	40代	4.9	33.8	45.6	14.5	1.1
	50代	4.9	32.6	45.8	13.9	2.7
	60代	6.1	30.0	50.2	9.4	4.2
	70代以上	7.3	27.1	52.1	8.0	5.6
性年代 (男性)	10代	15.1	45.3	30.2	8.1	1.2
	20代	16.1	43.2	29.7	7.7	3.2
	30代	22.7	30.9	32.0	14.4	-
	40代	6.2	37.4	38.5	16.1	1.8
	50代	3.8	32.6	44.4	16.1	3.1
	60代	7.8	36.9	46.3	5.2	3.7
	70代以上	7.3	31.5	40.3	10.5	10.5
性年代 (女性)	10代	12.1	52.5	33.3	-	2.0
	20代	13.1	42.1	30.8	11.8	2.3
	30代	6.7	31.8	47.1	13.7	0.6
	40代	4.1	31.9	51.0	12.4	0.6
	50代	5.9	33.4	46.3	11.9	2.5
	60代	4.9	24.9	53.0	12.6	4.6
	70代以上	6.8	23.5	61.7	6.2	1.9
居住地域	北部	8.1	39.9	40.5	8.8	2.7
	中部	9.6	35.2	43.1	9.7	2.3
	南部	6.8	31.7	45.2	13.8	2.4
	宮古	10.2	25.4	46.6	13.6	4.2
	八重山	5.7	36.8	45.3	7.5	4.7
出身地	沖縄県内	6.9	32.9	45.7	11.9	2.6
	沖縄県外	4.2	36.2	46.5	11.9	1.2
	日本国外	27.3	40.3	23.6	6.0	2.8

7 自由意見分析.....

Q34 差別のない社会づくりについて沖縄県に対するご意見、ご提案があれば自由にご記入ください。

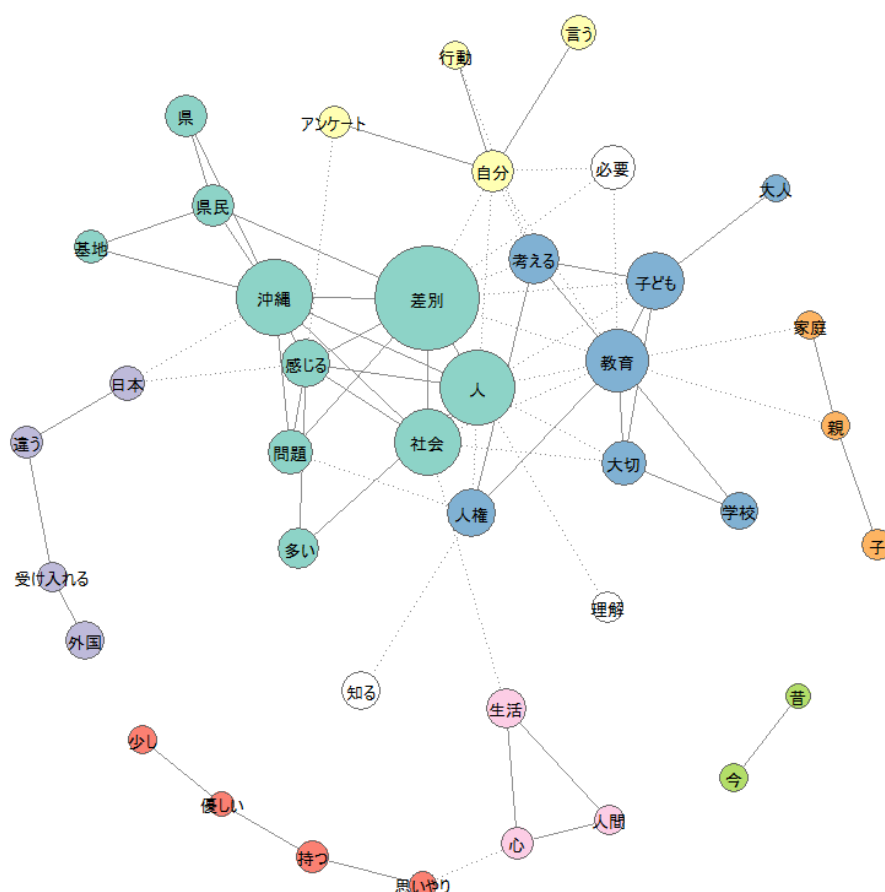
(1) テキストマイニングによる共起ネットワーク

「差別のない社会づくり」について、431 件の自由意見が寄せられた。

単語同士の関連性を出現パターンの類似性を踏まえ、文章中の単語のつながりを可視化し、必要な取組についてヒントを探すために、下記のようなネットワーク図に示した。

【特徴となるポイント】

- 「差別」という言葉を中心に、「沖縄」「社会」「人」「問題」「多い」という関連から、沖縄の差別のない社会づくりについては、問題も多くあることが示唆される。
- 教育を起点に見ると、「子ども」「学校」「人権」「大切」といった言葉が共起されており、子どもへの人権教育や学校での取組が必要であるという考えが推察される。
- 「自分」を起点に、「アンケート」「行動」「言う」「考える」が出現しており、本アンケートを書くにあたり自分の行動や言動を考えたという心理変容が推察される。

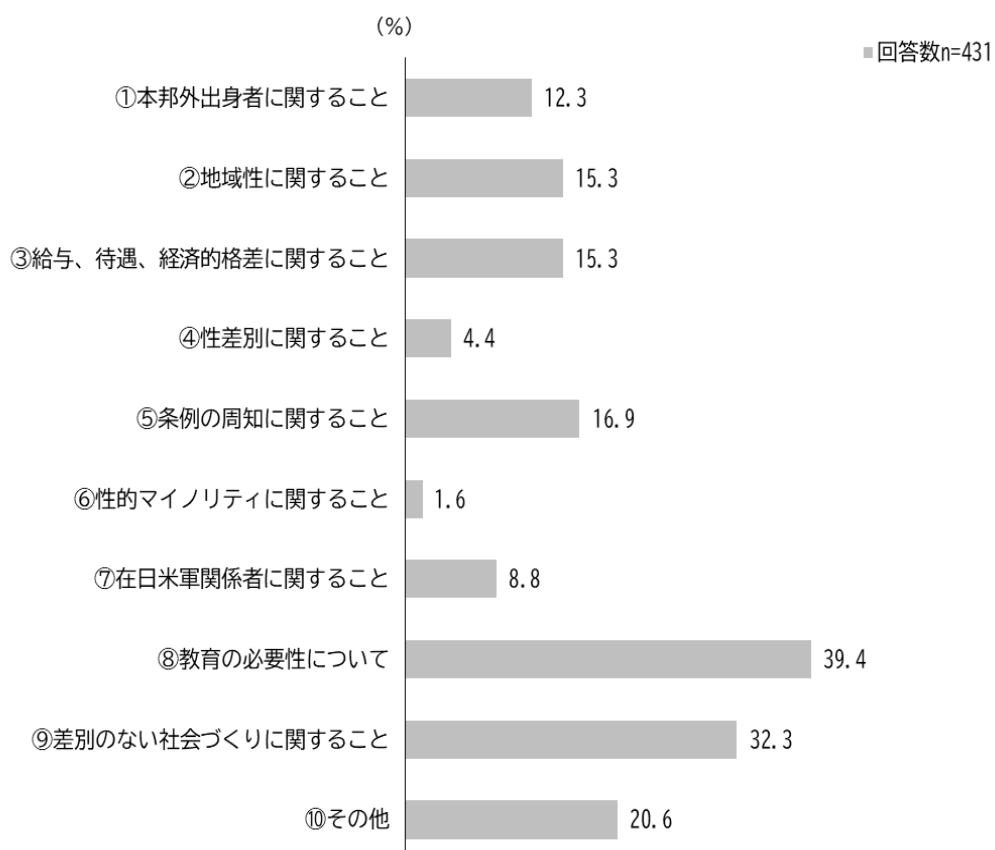


- ※ 出現回数の多い単語ほど、大きい円で表示
- ※ 円の距離が近いほど、その後同士が近い抽出語彙を示す
- ※ 円と円を結ぶ線については、共起の強弱を表し、関連が強い語と語を結ぶほど濃くなる
- ※ 色の違いで分類分けをしているが、配色は意味を持たない

Ⅱ. 調査結果

(2) カテゴリー分類分析

自由意見で得た 431 件の回答内容を、9 分類に分け、下記グラフのとおり、整理・分析を行った。
回答を見ると、「教育の必要性について」(39.4%)が最も高く、次いで「差別のない社会づくりに関すること」(32.3%)が多かった。



(3) 主な回答例

自由回答の内容は、原則として原文のまま掲載しております。

分類	主な回答例
①本邦外出身者に関する事	沖縄に住んでいる外国人書類(災害などその他)などには英語で説明文が書いていただけるともっといいのかと思う。また、緊急の時(津波、ミサイル、地震)はサイレンが鳴っても日本語放送だけである。
	正直、外国人が増えている現状について、治安の悪化だったり環境問題の悪化が不安に感じることはありますが、差別なくいろんな人が安心して暮らせるように法律やルール、取り締まりなどで頑張してほしいです。
	パートナーシップ制度の充実。もっと当事者の意見に耳を傾けてほしい。外国人留学生、労働者のこと。彼らが困った時に助けてくれる窓口を置いてほしい。学校寮の駐輪場から自転車が盗まれても学校も警察も責任転換で泣き寝入り。交通事故にあってもお金が高いから病院に行けない。そんな時に助けられないなら留学生の受け入れをやめようと思う。
	いろいろな国の出身者が多い沖縄。それぞれの利点をいかし、教育・生活に取り入れていく。 ※小学校の授業からネイティブな活きた英語にふれさせる、など。「個人の権利」ばかりを通すのではなく、今こそ沖縄の心「いちやりばちよーでえー」「ゆいまーる」！！
②地域性に関する事	差別のない社会づくり大変ですが、やはり生まれ育った環境で大きく変わります。沖縄に旅行・移住がこの数年で多くなりました。沖縄の県民性・環境などもっと知る場所が必要だと思います。
	前と比べると減ったと思いますが、ウチナンチュは良い、ナイチャーはつめたい、うるさい、イメージがあると思うし、移住者につめたい人達がいると聞きます。知り合いの鹿児島からの観光で来てくれた方は、そう話すと居酒屋で嫌な顔されたそうです。沖縄県も県外の方への差別をなくし、本土の方からも沖縄が差別されなくなるといいなと思います。
	私はあくまでも、沖縄に生まれてきた沖縄県民であることを誇りに思っていますし、日本人であることもよかったと思っています。二回ほど沖縄を離れて、県外で暮らしたことがありますが、県外の人々の仕事への取り組みへの姿勢や物事に取り組む考えは、残念ながら私たち沖縄県民より上なものだと感じています。ただ、だからといって、いわゆる「なんくるないさー精神」というか、沖縄県民のそのようなゆったりとした考えは、忙しさを感じる今日の日本社会で必要なものだとも思います。差別に関しては、その人やその地域の考えや姿勢などに対する考えによる差別が個人的に問題だと思っています。
	県外出身者として、沖縄県民からの差別が多い。旧姓の時は毎度出身地を聞かれ、県外出身者だとわかると少し距離を置かれることがよくある。あの人はナイチャーだから、あの会社はナイチャー企業だからというセリフをよく聞くが気分が良いものではない。
	県内でも地域によってやりたいことができない等がある。どうか全部の地域を平等に扱ってほしい。

Ⅱ. 調査結果

分類	主な回答例
③給与、待遇、経済的格差に関すること	現在の差別の原因は差別している人の心に余裕がなくて人への差別に昇華してしまっていると思う。所得や生活の質や幸福度を上げることで心にも余裕ができて、他人に寛容に接することができるので、県民全体の生活に余裕を持たせることが大切。
	県民の所得格差を改善して欲しい。例えば、軍用地地主や基地に依存する一部の県民の所得は向上するが、県民の一部は低所得層が多く、低所得が人権差別問題を誘発していると思う。基地がなく、所得が向上する政策を行政は考えて欲しい。
	離島は、家賃が高く、島民は暮らしにくい。観光客や移住民には暮らしやすいと思うが、移住民などと島民は格差が激しいため、経済的に家が借りられないのか、移住者が、島民を差別して、色々と島民は損が多い気がする。
	基地問題の早期解決。貧困対策。居住地による不利益を被らない対策(離島、基地)。多様性を受け入れる社会づくり(共生社会づくり)
	根本的に多くの差別はなくなっていくと思うが、社会的、経済的、生活の格差がなくなれば、差別は小さいものになるのではないかなと思う。多様性を尊重する社会。
④性差別に関すること	差別のない社会づくりについては、沖縄県は他県に比較して遅れていると思います。職場での男女の給与、昇給等、数々ありますが、仕事に対する熱意、考え方、能力あれば昇格の対象にすべきだと以前から思っていました。女性のパワーは、優れています。ぜひ、ご検討の上宜しく願いしたい。
	沖縄だけじゃないですが、男性が大人になってから知ることのできないことが多く、性教育が十分でないことにより、女性への軽視風潮も助長されていると思う。
	沖縄の「長男文化」(長男が大切にされる文化)や法事など親族が集まる場で、男、女の役割に差があるなどは、沖縄の文化でもあるので、人権の課題としてどの様に子ども達に伝えていくのか難しい課題だと私自身考えています。しかし、家事、育事にも影響してくる問題だとも思っていて、出生率や女性が会社で管理職につけるか等の問題にも繋がることだと思います。文化として根付いてることを覆すのは難しいと思いますが、これからを担う子ども達には「長男文化」「男女の役割の差」等を当たり前だと感じてほしくないです。
	国の施策や方針などに対して、明らかに不当な場合は、意思表示を強く示すべきです。日米協力も必要ですが、沖縄県の地理、歴史などを考えるとアジア隣国との交流も力を入れて欲しいです。県の宝、子ども達の成長を一番に取り組んで欲しい。トートーメ、長男一番、女性台所という明治時代の古き習慣を止める(改善する)活動、広報、啓発を進めて欲しい。

分類	主な回答例
⑤条例の周知に関するこ と	たくさんアンケートを県民からとって、県民の声をもっときいてほしい。子どもから高齢者まで。インターネットなどの誹謗中傷に対する監視、取締りの強化。
	実際に差別を受けた人のドキュメンタリー等をテレビで出すのも、一番わかりやすく、伝えやすいと思います。メディアに載せるのが共感を得やすいのでは。
	子ども達には学校で時間を割いて教えて欲しい。テレビCMや新聞広告、ポスターなど、目につく機会が増えると意識が変わる人もいると思う。
	過剰なPR活動は逆効果だと思うので、適度な活動を目指してほしい。アンケート等の意見収集は初めてだったが、よい活動だった。
⑥性的マイノリティに関するこ と	出身、性的指向などにかかわらず、教育や就労、住居確保ができる社会になる制度づくり。自らと異なる人々を「それでいい」と思えるような考えを持てるよう、幼児期から多様性に関することや、差別に関する情報の提供や教育をすること。
	性別に左右されるのではなく、LGBTQ(性的マイノリティー)の人々が生きやすい社会づくり。(障害者等の差別が処罰される法律はあるが、上にももっと力をいれるべきなのは。) 県民の意見をきく投票をとり入れ、現状を把握する必要性があると感じる。同性婚・同性同士が子どもを授かること。選択肢を増やすことが生きやすい社会になるのでは。余り受け入れないとされる年代(40代以降)の方も考えることができるようになるため、どのようにする必要があるのか等をしっかり議論することができたらいいのかなと思います。独身女性への差別もまだまだあると思います。
	人口の分、価値観や意見も生まれるので、意見の相違が生じるのは仕方ないと思います。全ての意見を受け入れることが良いことだと思って、この考えを理解しなさい、受け入れなさい、と強いるのも違うと思う。私は性的マイノリティに分類される人なんだろうと思うけど、私の考えを全ての人に理解して貰おうと思ったことはありません。差別を無くそう、というアプローチではなくて、理解しなくてもいいから、ただ受け入れて放っておいてくれていいと感じます。差別をしてはいけません、なんて法律がそもそもおかしいです。ただ皆とおなじ一人の人として、皆当たり前前に接してくれたら差別を受ける対象となっている人達は救われると思います。みんな違うことは当たり前です。全ておなじ人間なんて存在しません。みんな違って当たり前。みんな違ってみんないいです。そんな社会になることを願っています。
	偏った意見や、少数派の意見を取り上げて沖縄県全体がそう思っていますっていうことにならない様に、当事者達(LGBTQ・外国人等)の意見もちゃんと取り入れ、それを正しく社会に反映されていくことを願ってます。沖縄県は昔から多様性に溢れている県だと思うので、差別のない社会づくりができると思う。

Ⅱ. 調査結果

分類	主な回答例
⑦在日米軍関係者に関する事	沖縄県に米軍基地が有り、外国人が多数いるので、差別がない社会はとても難しいと思いますが、なんとかかなと思う。なぜなら外国人も沖縄人も、悪い人もいれば良い人もいます。そして良い人のほうが多いから、なんとかかな。
	特にないが、米軍人にヘイトスピーチを行う者を取り締まるべきと考える。
	本土との格差＝差別である。是非、沖縄県の基地問題について積極的に取り組んでほしい。基地の押し付けは、本土の人間に比較して、差別である。
	米軍やその家族が悪い印象がつけられていることが多いと思うので、その対処をしてほしい。
	日米地位協定の見直しの必要性、沖縄県で起きた米軍関係者の犯罪等、日本側には不公平、改正されないかぎり犯罪や事故は減らないと思います。
	沖縄県は他県に比べ離島であることから、文化の違いなど、理解されにくいこともあると思う。あと、米軍基地もあり、あらゆる人種の人たちが暮らしている県でもあるため、学校などでももっと沖縄県の成り立ちや現状を若い人たちにも伝えていくべきだと思う。
⑧教育の必要性について	人権とは何かを子ども達に伝える啓発活動を増やしてほしい。幼い頃から、自分の人権を知ることで、他者に対する接し方を身につけることが大切だと思う。
	まず、家庭での子どもを育てる環境・育て方が大切だと思う。就学前の子どもの教育、保育園、学校まかせではなく、家庭でしっかり親が物事を教えることが大切。余裕をもって子育てができる社会づくりをしてほしい。
	教育に力を入れて欲しい。家庭の事情で本人の意志に関係なく、もしくは仕方がないと諦めなくてすむ手段があって欲しい。利用の出来る福祉サービスや相談窓口などの情報が欲しい。沖縄県内でのそういったことについてのサービスの格差のない(地域によっての)提供をお願いしたい。障害のある大人への支援にも力を入れて欲しい。大人になって分かった障害や発症してしまった方へのトレーニングの場が少なく感じる。働くことや就労も大事だが、仕事のスキルだけでなく、人間関係や日常生活(役所での手続き、家事や身辺自立について)の支援の方もあって欲しい。
	差別を無くすためには、交流の場をもっと増やして、偏見、勘違い、お互いの考えを共有する場を作る。差別される理由、する理由を見つけて改善する。行政だけでなく地域の人、学校、職場でも協力すべき。
	各学校内にインターネット等における誹謗中傷の相談室、警察や弁護士事務所と連携を取れる部署を設置すべきだと思う。学生が一番被害に合う数多いと思うので、若い子に対してのケアを充実させて欲しい。
	インクルーシブ教育を進めてほしい。そのためにも教員、支援員等の増加をお願いしたい。教育への投資は未来への投資、差別のない教育・福祉環境で育まれた子が、未来の差別のない社会づくりに繋がる。

分類	主な回答例
⑨差別のない社会づくりに関すること	何が差別にあてはまるのか、された側にしかわからない問題なので、された人が「何に関して、どう思ったのか」を知ることが差別をなくすスタートだと思う。「みんな同じ」ではない。「みんな違う」から、どこがどう違うのか「違いを知り、互いを解る」ことが本当の差別のない社会を作り上げるのだと思う。
	差別のまったくの無い社会をつくるのは不可能に近いと思う。でも、少しでも近づけることは可能だと思うので、沖縄県が率先して差別のないのも大事だけど、自由のある場所であってほしい。選択の自由。結婚できるとか、働けるとか。
	差別は無くならないと思う。けど努力は必要だと思います。県が差別のない社会づくり条例があるとアンケートが届いて初めて知った。私みたいな人が多いと思います。自分の身にふりかかってこないと感じにくい問題。他人事だと思って見聞きしている。嫌な気持ちにはなりません。言葉にして訴え続けるしかないのかなと…関係者の皆さん頑張って下さい。
	沖縄は、多様な人種が身近にいたり、性的少数者に対しての理解や受け入れが他県より良いと思います。沖縄の基地問題を全国に考えてもらえることが大切だと思います。沖縄から人権問題の発信地として広がっていったら県民として嬉しいです。いいこと、やさしい行動の事例などをもっとアピールして、真似する人が増えてくるといいなと思います。
	人それぞれがお互いを理解し大切にする。人を大事にしない自己主張が多くなり、不安です。これからの子どもたちが安心して生活して、生きていけるように、人を大切にすることを理解していける社会作りが必要です。
⑩その他	難しいです。今はネット社会だから、ネットの違法な情報やいきすぎた言葉は削除してほしい。もっと沖縄の良さを広めたい。
	昔から根づいた考え、想い、などを根本的に考えていくべきだと思う。10年計画で実施すれば、10年後には沖縄が目指すものになると思う。
	一人一人の意識の相違があるのは仕方ないが、明らかに誹謗中傷である場合に明確な規定を設けたうえで処罰するというような政策があれば、差別に対して意識や、重みがでてくるのかなと思う。
	差別の捉え方もきちんと発信する必要もあるのでは？なんでもかんでも差別で片付けられてしまうのもどうかと思う出来事も時にはあるのではないのでしょうか？
	小さな問題でも聞き入れてくれる部署がもっと身近にあれば良いと思う。

III. 総括

1 今日の沖縄県は人権が尊重されている社会だと思われるか？

今日の沖縄県の社会状況に関する認識として、「Q2.人権が尊重されているか」の問いに、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定派は 41.5%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定派は 40.2%で、両者は拮抗していた。この回答傾向は、日本国内出身者（沖縄県内・県外出身者）は肯定派と否定派がほぼ約 40%ずつに分かれているが、日本国外出身者では肯定派が 62.5%、否定派は約 18%に留まっていた。すなわち、沖縄県は日本国外出身者の視点からは人権が尊重されている社会に見えているが、日本国内出身者からは、人権が尊重されているともされていないとも言える社会として、二極化して捉えられている。

2 今日の沖縄県が、人権が尊重されている社会だと思われないのはなぜか？

Q2-1 でその理由を問うた結果、沖縄県内・県外出身者双方とも約 4 割近くが「インターネット上の情報（YouTube、Xなどの SNS、掲示板）を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」を最上位に挙げていた。次いで沖縄県内出身者の 35.2%、沖縄県外出身者の 24.8%が「全国版のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」を挙げていた。さらに、沖縄県内出身者の 32.6%、沖縄県外出身者の 21.0%が「沖縄県内のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから」を挙げており、沖縄県内・県外出身者の認識の相違が浮き彫りになっていた。すなわち、沖縄県内出身者は、マスメディアや WEB メディアを通して沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じており、その傾向は沖縄県外出身者よりも 10 ポイント程度高かった。このことは、4. の「ヘイトスピーチやインターネット上の人権問題」の経験も反映していると考えられる。

また、全般に人権問題への意識については女性のポイントが高かった。特に「女性に対する暴力」と関わりの深い DV、セクハラ等について女性の意識のポイントが高かった。また、子ども、障害者、高齢者、セクシャルマイノリティについても女性の関心が高い。役割分担意識との関わりもあると思われる。

3 人権侵害の経験について

全体に人権侵害の被害経験についても、女性のポイントが高かった。特に「女性に対する暴力」と関わりの深いセクハラ、DV、プライバシー侵害等について被害経験のポイントが高かった。一方で、男性は「名誉・信用のき損、侮辱」の被害経験のポイントが最も高かった。女性に対する暴力の被害・加害経験の非対称性を反映している可能性が考えられる。

出身地については、自身の出身地と比較した場合、沖縄県において人権は尊重されていると考える方がいる一方、現在の生活における特定の人権侵害については被害経験のポイントが高いことがうかがわれた。例えば、日本国内出身者では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が約 50%を超え、日本国外出身者よりも 15 ポイント程度も高かった。これに対し、日本国外出身者では、「人種・信条・性別・社会的身分などによる差別待遇」が日本国内出身者よりも約 30 ポイント高く、「警察官など公務員からの不当な取扱い」も約 10 ポイント程度高かった。

4 ヘイトスピーチやインターネット上の人権問題について

ヘイトスピーチに関して、全国調査の結果と比べると「インターネット上の書き込みを直接見たことがある」が23.0%で約7.6ポイントも高く、「不愉快で許せないと思った」と感じた者の割合は60%以上に上っていた。インターネット上での人権侵害や誹謗中傷の問題は、差別を助長したり、犯罪を誘発するような場になっていると認識されており、この問題が喫緊の課題として捉えられていると言えるだろう。

5 「沖縄県差別のない社会づくり条例」の認知度について

「Q17.沖縄県差別のない社会づくり条例」の認知度については、「知らない」が67.1%と回答者の3分の2を超えており、「知っている」3.9%と「内容は知らないが聞いたことがある」27.9%を合わせても約30%程度に留まっている。人権侵害や差別への実効的な取組を推進することと同時に、沖縄県が条例の制定を通して差別のない社会づくりを目指していることを、より広く県民に周知することの必要性があると言えるだろう。

6 差別のない社会をつくるための取組みについて

沖縄県が差別のない社会をつくるために取り組むべき重点事項は、次の4点に集約される。第一に「学校内外の人権教育の充実」、第二に「インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害の解決」、第三に「人権が侵害された被害者の救済・支援の充実」、そして第四に「人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動の推進」である。すなわち、教育・啓発、相談・支援、問題解決の3点に注力することが求められていると言える。

今回の調査では、古くから続いている差別、古くからあったが近年可視化されるようにあった差別等、様々な差別について問うており、回答者が当事者性を持つかや、年代によっても回答が異なっていた。沖縄県の歴史を振り返ると、アメリカからの差別、日本における沖縄県以外からの差別、沖縄県内における女性に対する差別を始めとする様々な差別は確実にあった。もし、それらが過去よりも少なくなっているのなら、それは先人から私達までが差別をなくそうと努力してきた結果でもある。

本調査を通じて、歴史を含めた差別について教育・啓発をし続けること、相談・支援、問題解決の3点に注力することの重要性が明らかになったと言える。沖縄県としては、本調査の結果を踏まえ、沖縄県の実情に即したより実効性のある施策を検討し、差別のない社会づくりを着実に進めたい。

IV. 関係団体等ヒアリング結果

特定の差別に関するヒアリング調査

1 調査目的

県内で本邦外出身者等、性的指向や性自認を理由に不当な差別を受けた方に与える主観的影響等を明らかにし、今後の効果的な施策の検討を行う。

2 実施主体

沖縄県(こども未来部 女性力・ダイバーシティ推進課)

3 受託者

株式会社サーベイリサーチセンター

4 実施時期

令和 6(2024)年 12 月から令和 7(2025)年 2 月まで

5 聴取対象団体(順不同)

・沖縄ネパール友好協会 ・ミャンマー平和創造ネットワーク沖縄エイン ・韓琉オフィス
・多文化ネットワーク fu ふ! 沖縄 ・沖縄カウンターズ ・コザインターナショナルプラザ(KIP)
・特定非営利活動法人アメラジアンスクール・イン・オキナワ ・一般社団法人ピンクドット沖縄
・特定非営利活動法人レインボーハート okinawa ・ていーだあみ
・琉球大学ヒューマンライツセンター

6 実施方法

- (1) 県内の関係団体の紹介や県行政の施策で関わられている支援団体等へヒアリングを依頼。
- (2) 調査に関する受託者が支援団体と面接し、聴取を行う。
- (3) 聴取は、聴取先の希望や時間の都合に応じて、個別又は数名にて行う。聴取に先立ち、県女性力・ダイバーシティ推進課の所掌事務、調査の目的、聴取した内容を他の目的で利用することはないこと、聴取した内容は個人が特定できない範囲で公表を予定していることを説明し、聴取対象者の了解を得る。
- (4) 主な聴取事項
 - 不当な差別を見聞きした等、経験(その具体的内容)
 - その後の社会生活や不当な差別を受けた方の考え方に対する影響
 - その他、行政への要望等を中心に聴取。聴取に対する回答や状況に応じて、質問の表現や内容、順序等を適宜変更。
また、関連する事項についても質問を行う。

7 調査結果

1 本邦外出身者等に対する不当な差別に関するヒアリング

仕事や職場に関すること

- 建設業に従事する技能実習生が、担当者から暴力を受けたり、物を投げられたり、暴言を吐かれたことがあり、当実習生は管理団体に相談したが、「派遣先の企業の指示に従うように」と指示され、具体的な状況改善に向けたアクションがなされなかった。実習生は仕事を辞めることも考えたが、最終的に担当者の謝罪を受け入れ、勤務を続けている。
- 飲食店でアルバイトしていた方が、アルバイトを辞める意思を伝えた際、「給料を払わない」と言われ、この事態を連合沖縄へ相談したが、問題解決に至らず、最終的には泣き寝入りする結果となった。
- 正社員として勤務しているスーパーのレジ接客の際に、名札をみて外国人だと知った客から「正社員に代わって欲しい」と言われ、アルバイトの日本人に対応を代わってもらった。
- 外国人留学生からバイト先の賃金未払いについて相談を受けた。このため、留学生は、労働組合（ユニオン）に個人で加盟し、バイト先から未払いの賃金を受け取ることができた。

学校・教育機関に関すること

- 私立の学校へ入学する際、日本人の保証人が必要と言われた。
- 外国籍の小学生が学校で担任の先生に「外人」と言われていた。最終的には担任から謝罪を受けることができた。
- 在留資格の延長可否の決定権は日本語学校が持っているので、学校に対する不満等を言えないという留学生がいる。
- 日本語学校で教師や学校関係者から「○○しないと、帰国させる」と生徒が脅かされる。（同様の事例多数）
- 外国籍の子どもが、公立小学校への就学することを拒否された。
- 県内の中学校で生徒が肌の色により学校関係者に差別される事案がある。

住居に関すること

- 保証人がいても「外国人である」ことを理由に、入居拒否をされる。（同様の事例多数）
 - アパート探しの際、「そもそも外国人枠がない」と言われ、外国人であることを理由にメールやオンライン問い合わせ、電話口等で断られた。（同様の事例多数）
- 日本語学校が用意している寮の住環境がひどい。（狭い、においがきつい、ゴミブリヤトコジラミが多い等）

生活に関すること

- 新規で銀行口座を作る際に、規約を日本語で読み上げられないと口座開設できないと言われた。
- 飲食店に「Japanese only（日本人のみ）」と書かれていた。
- 外国人であるということで、病院の受診を拒否された事例がある。
- レイシャル・プロファイリング（人種や、肌の色、国籍、民族的出自などに基つき捜査対象を選別する手法）と思われる職務質問をされたという報告が多数あった。

IV. 関係団体等ヒアリング結果

- 市役所前や県庁前などでのヘイトスピーチが行われている。令和 7(2025)年 2 月にも県庁前でヘイトスピーチ街宣があった。また、その動画がネット上の動画サイトで公開されている。
- 沖縄在住の外国人に対し「〇〇人は国に帰れ」などのネット上のヘイトスピーチが多く散見される。X、Facebook、Yahoo!コメントなど。

行政への要望

- 日本語が母国語でない方が日常的な日本語を学べる場所・機会を作してほしい。(同様の意見多数)
- 行政窓口や書類書類は外国語に対応してほしい(せめて英語だけでも)。
- 行政で提供する資料や情報等について、言語がわからなくても視覚的・感覚的に理解できる工夫をしてほしい。
- 条例を周知し、「沖縄県はこういった差別行為を許さない」という意思表示をしっかりと行ってほしい。
- 条例に罰則規定を設けてほしい。
- 本邦外出身者等だけでなく、沖縄ヘイトなどネット上の差別が増えてきているので、モニタリングを行い対策をとって欲しい。
- 支援団体などへのこのようなヒアリングを定期的にして欲しい。
- 沖縄県人権相談窓口の周知が足りていない。また、県内で報告されている差別の事例について周知して欲しい。
- 差別のあった事案があれば、速やかにその実態を関係機関・団体へ周知して欲しい。
- 県内での差別に関する報道等も含めて実態把握をしていただきたい。

2 性的指向又は性自認を理由とする不当な差別に関するヒアリング

仕事や職場に関すること

- 職場でアウティングされた。アウティングがきっかけで職場に居づらくなり、退職したというケースが複数ある。
- 自身がカミングアウトしていない状況において、職場で同僚が LGBTQ の人たちに対して差別的な会話がされることがあり、とても居づらい気持ちになる。
- LGBTQ の方を支援している団体の活動に対し、「あなたたちの活動を辞めて欲しい」というメールが届いた。
- 就活時の服装について、リクルートスーツ、鞆といったアイテムは男女の特徴が表れやすい。女性がパンツを履くことすらためられる指導をしているケースも見受けられる。服装に悩んでしまって就活できないケースがある。

学校・教育機関に関すること

- 自分の性的指向・性自認について親に理解してもらえず辛い、卒業したら自分の生まれ育った地域には絶対に帰って来たくない、と泣きながら相談をしてくる学生もいる。
- 自分の性的指向に悩んだり、周囲の理解を得られないことで自傷行為をする子どもたちもいる。そのためにナイフを持ち歩いているというケースもあった。
- 学校でお手洗いにいきたくない、水を飲まないようにしているという生徒がいた。

- 学校で、生徒向けの性の多様性の講演会を実施する際、一部の保護者からの理解が得られず、「こういった内容の講演をしないで欲しい」という声や当日、子どもを休ませるといことがある。
- 友人に学校でアウティングされた。その結果、周囲から無視されるようになってしまった。
- 進級や進学に際して、学校での申し送り事項的な情報共有の中に、個人への確認を行わずに共有されたセクシャリティに関する事項も含まれているケースがある。これはアウティング行為にあたる。
- 自分の性自認に対して違和感を覚える制服を着用することが苦痛であり、別の制服を着たいと先生に申し出をしたところ、制服の着用を認める一方で、周りの生徒が戸惑うことを理由に、「なぜ別の制服を着たいのか、全生徒の前で説明するように」と求めた。求めに応じ、説明を行った生徒は、結果不登校となった。

住居に関すること

- 賃貸物件(住居および店舗)の契約時に、あとは印を押すだけで契約成立というタイミングで、自分たちが同性同士のパートナーであることを伝えたら、「同性同士のカップルの入居はお断りしている」と入居拒否された。(同様の事例多数)

生活に関すること

- 継続的な治療・通院が必要な病気にかかったため、緊急連絡先や身元引受人的役割を同性のパートナーにしたいと伝えたと、病院からそれはできないと断られた。そのためその病院にはかからず、別の病院を探した。
- 「誰でもトイレ」を利用しているにもかかわらず、商業施設で警備員に通報されるということが使うたににあった。トイレを自由に使えないという不安から外出を控えるようになった。
- 生物学的には男性で生活実態は女性の方が女性トイレを利用したところ、それを見た男性に捕まえられて飛び蹴りされた。

行政への要望

- 県が、ロールモデルになって欲しい。異性夫婦同様の制度・待遇をパートナーシップ制度にも適用する、性自認に配慮したトイレ・更衣室の設置等、他の行政機関や企業等が参考にできるようなケースを広げて欲しい。
- この条例を知らない教育関係者等が多いので、周知・普及してほしい。
- 条例で SOGIESC(性的指向、性自認、性表現、性的特徴)に関する差別に対する罰則規定を設けてほしい。それが難しければ苦情申立制度や行政指導の検討をしてほしい。
- 県の業務の調達・入札時の応募要件・誓約事項に「本条例に違反しない」等を入れ込む、または本条例に沿った社会貢献の取組に配点するなどしてほしい。
- 県の採用試験の際もスーツ着用不要等の発信をしてほしい。その場合、「服装自由」と採用側が言っても学生としてはどの程度の服装にしたらよいのか判断しにくいので、こういった意図で「服装自由」としているのかしっかり説明をし、ネクタイ不要、パンツ可等の例も挙げてほしい。

V. 資料（調査票）

おきなわけん さ べつ しやかい かん
沖縄県差別のない社会づくりに関する
ちょうさ きょうりょく ねが
アンケート調査 ご協力 のお願い

ひごろ おきなわけんせい りかい きょうりょく まこと
日頃より、沖縄県政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます
ます。

このたび、おきなわけんでは、むさく い えら けんない すま さいいじょう
このたび、沖縄県では、無作為に選ばせていただきました県内にお住いの18歳以上
の方3,000人を対象に「沖縄県差別のない社会づくりに関するアンケート調査」を行
うこととなりました。

この調査は、県内における不当な差別の実態や県民の意識などを把握し、本県の
じつじょう ふ こうかてき しさく けんとう し もくてき じっし
実情を踏まえた効果的な施策の検討に資することを目的に実施するものです。

また、統計的に処理された上で活用されますので、個人が特定されたり、回答結果が
あき 明らかにされることは、一切ございません。

ご多用のところ大変恐縮ですが、ぜひこの調査にご協力いただきますよう、お願い
もう あ 申し上げます。

れいわ ねん がつ
令和6年10月
おきなわけん みらいぶ じよせいりょく
沖縄県子ども未来部 女性力・ダイバーシティ推進課

- ご回答は、次のいずれか1つの方法でお願いします。

① 本調査票へのご記入による回答

回答を本調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒（お名前の記入・切手は不要）
に、本調査票を三つ折りにして入れていただき11/4（月）までにご投函ください。

② WEB回答フォームによる回答

11/4（月）までに、専用アドレスにアクセスいただき、WEBで入力をお願いします。

WEB回答では、日本語・英語・中国語版でご回答いただけます。

入力の際には、以下のログインIDとパスワードを入力後、ログインしてください。

WEB回答は、途中で一時保存も可能です。

【WEB回答専用アドレス】※QRコードからもアンケートページにアクセスできます。



① 日本語/JAPANESE

https://src3.webcas.net/form/pub/src4/jyorei_japanese



② 英語/ENGLISH

https://src3.webcas.net/form/pub/src4/jyorei_english



③ 中国語（簡体字）/中文

https://src3.webcas.net/form/pub/src4/jyorei_chinese

ID	
PASS	

- 必ずご本人（封筒のあて名の方）がお答えください。
- ご本人が病気・長期不在、ご回答の辞退などでご記入できない場合は、そのまま調査票をご返送（投函）ください。
- ご回答は質問ごとに、ご自身のお考えに近い選択肢の番号に○をつけてください。
- 質問によっては、あてはまるものを「1つ」「いくつでも」などの指定があります。
- 「その他（ ）」を選択された場合は、可能な範囲で具体的に記入ください。
- 答えたくない質問があった場合は、次へ進んでください。

- 回答者全員にＱＵＯカード1,000円分またはお米券1,000円分を謝礼として、封筒のあて名の方へ送付します。
ご希望の方は、調査票の最後に「謝礼」の申し込みにチェック☑をお願いします。
謝礼の発送は、12月頃を予定しております。
なお、謝礼の発送をもって有効な回答とさせていただきます。

※回答が半分以下や謝礼のチェックのみ選択された調査票は無効となり謝礼の対象となりませんので、ご留意願います。

<アンケート調査内容に関する問い合わせ先>

【協力事業者】 株式会社サーベイリサーチセンター沖縄事務所

沖縄県那覇市久茂地3-21-1國場ビル9階

フリーコール：0120-656-652（平日：9時～17時）

基本属性

※ まずはじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

(1) あなたの性別（自認する性別）をお答えください。（○は1つ）

1. 男性 2. 女性
3. その他（ ） 4. 答えたくない

(2) あなたの年代をお答えください。（○は1つ）

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

(3) あなたの現在の居住地域をお答えください。（○は1つ）

選択肢	該当する市町村
1. 北部	名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村
2. 中部	宜野湾市、浦添市、沖縄市、うるま市、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町
3. 南部	那覇市、糸満市、豊見城市、南城市、与那原町、南風原町、渡嘉敷村、座間味村、粟国村、渡名喜村、南大東村、北大東村、久米島町、八重瀬町
4. 宮古	宮古島市、多良間村
5. 八重山	石垣市、竹富町、与那国町

(4) あなたの出身地をお答えください。（○は1つ）

せんたくし 選択肢	がいとう しちようそん 該当する市町村
1. 北部	名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村
2. 中部	宜野湾市、浦添市、沖縄市、うるま市、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町
3. 南部	那覇市、糸満市、豊見城市、南城市、与那原町、南風原町、渡嘉敷村、座間味村、栗国村、渡名喜村、南大東村、北大東村、久米島町、八重瀬町
4. 宮古	宮古島市、多良間村
5. 八重山	石垣市、竹富町、与那国町
6. 沖縄県外	
7. 日本国外	(国・地域名：)

(5) あなたの沖縄県の在 住 年数をお答えください。（○は1つ）

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 生まれた時から沖縄県に住んでいる | 2. 2年未満 |
| 3. 2～5年未満 | 4. 5～10年未満 |
| 5. 10年以上 | |

(6) あなたの最終学歴をお答えください。（○は1つ）

- | | | |
|------------|---------|-----------|
| 1. 中学卒業 | 2. 高校卒業 | 3. 専門学校卒業 |
| 4. 短期大学卒業 | 5. 大学卒業 | 6. 大学院修了 |
| 7. その他 () | | |

V. 資料（調査票）

(7) あなたの職業をお答えください。（○は1つ）

1. 役員を含む、正規の職員・従業員
2. 期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員
3. 自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業
4. 主婦・主夫
5. 学生
6. 無職
7. その他（ ）

(8) さしつかえなければ、去年1年間の家計の経済状況（税込みの世帯年収）をお答えください。（○は1つ）

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 収入はなかった | 2. 100万円以下 |
| 3. 101～200万円 | 4. 201～300万円 |
| 5. 301～400万円 | 6. 401～500万円 |
| 7. 501～600万円 | 8. 601～700万円 |
| 9. 701～800万円 | 10. 801～900万円 |
| 11. 901～1,000万円 | 12. 1,001万円以上 |
| 13. わからない | 14. 答えたくない |

人権全般に関すること

Q1. 新聞、テレビ、インターネットなどで「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、ここ5～6年の間に、人権が侵害されるようなことについて、どのように変わってきたと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 少なくなってきた | 2. どちらかといえば少なくなってきた |
| 3. あまり変わらない | 4. どちらかといえば多くなってきた |
| 5. 多くなってきた | |

Q2. 今日の沖縄県は、人権が尊重されている社会だと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |
| 5. わからない | |

Q2-1. Q2で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」を選択した方へ
今日の沖縄県において、人権が尊重されている社会だと思わない理由について
教えてください。（○はいくつでも）

- 全国版のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから
- 沖縄県内のテレビや新聞のニュース報道を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから
- インターネット上の情報（YouTube、XなどのSNS、掲示板）を通じ、沖縄社会で人権侵害や誹謗中傷が増えたと感じるから
- 沖縄県民は自分中心で他人のことを考えない人が増えたと感じるから
- 沖縄県で多様性が尊重されていないと感じるから
- 沖縄県民は人権問題に無関心な人や他人事であるという意識の人が増えたと感じるから
- 沖縄県で自分の人権が侵害されたと思うことがあったから
- 家族や知人など、自分の身近で人権が侵害されたと思うことがあったから
- その他（ ）

V. 資料（調査票）

Q3. あなたは、人権を侵害されたと思ったことはありますか。（○は1つ）

1. ある 2. ない

Q3-1. Q3で「1. ある」を選択した方へ

あなたが、人権を侵害されたと思ったのは、どのような場合ですか。
（○はいくつでも）

1. あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口
2. 名誉・信用のき損、侮辱
3. 警察官などの公務員からの不当な取扱い
4. 社会的地位、習慣などにより、本来義務のないことをやらされたり、権利の行使を妨害されたりしたなどの強制、暴力や脅迫
5. 悪臭・騒音などの公害
6. 人種・信条・性別・社会的身分などによる差別待遇
7. 地域社会での嫌がらせ
8. 学校でのいじめ
9. 職場での嫌がらせ
10. 使用者による時間外労働の強制などの不当な待遇
11. 社会福祉施設などでの施設職員からの不当な取扱い
12. プライバシーの侵害
13. セクシュアル・ハラスメント
14. 配偶者やパートナーからの暴力などドメスティック・バイオレンス
15. 児童虐待
16. その他（ ）

Q4. もしあなたが、人権を侵害された場合にどのように対応すると思いますか。
（○はいくつでも）

1. 黙って我慢する
2. 相手に抗議する
3. 身近な人に相談する
4. 弁護士に相談する
5. 法務局・人権擁護委員に相談する
6. 法務局・人権擁護委員以外の公的機関に相談する
7. 民間の相談窓口相談する
8. その他（ ）